いづれの御時にか

吟鳥子（ぎんとりこ）

壱



いぶれの御時(おんとき)にわ

吟鳥子(ぎんとりこ)

壱



いぶその御時(おんとき)にか

吟鳥子(ぎんとりこ)

壱

目次

隠れ鬼の恋 …… 3
第一話 …… 45
第二話 …… 91
第三話 …… 115
第四話 …… 123
第五話 …… 149
第六話 …… 189
あとがき …… 223


いづれの御時にか――
……どの御代の
ことでございましたか……
この平安の都にて
ひとりの高貴な皇子が
鬼となられました。
鬼の皇子は都に
小鬼をお遣わしになり
御身を鬼となした人々への
復讐をお誓いになりました。
いづれの御時にか
隠れ鬼の恋


いづれの御時にか
隠れ鬼の恋
かくれおにのこい

…僧都？

いずれにおわします？

ポツ

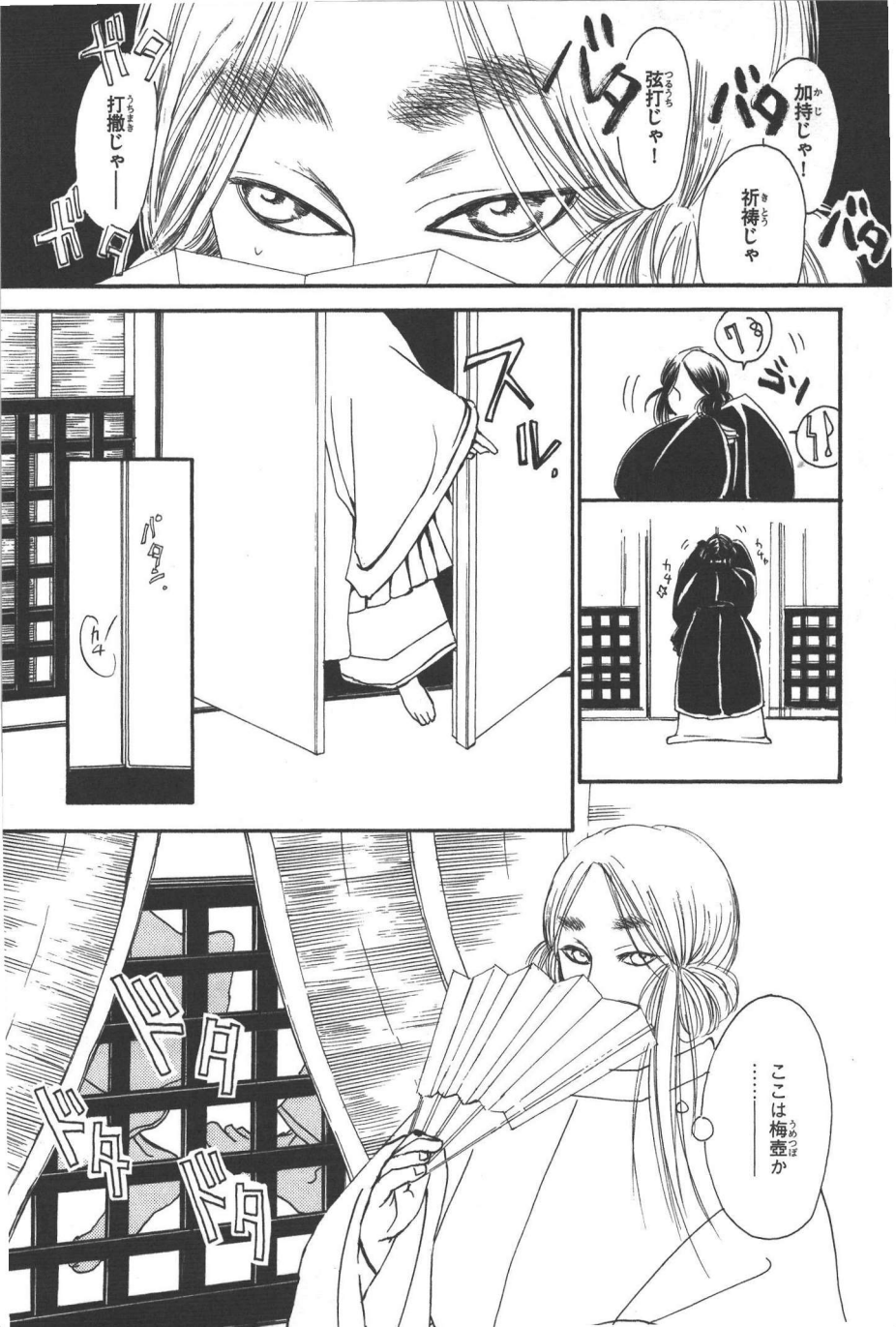
――の僧都どの？
ことぎれておられる！

あれ大変じゃ
夜居のご僧が……

物の怪じゃおそろしや

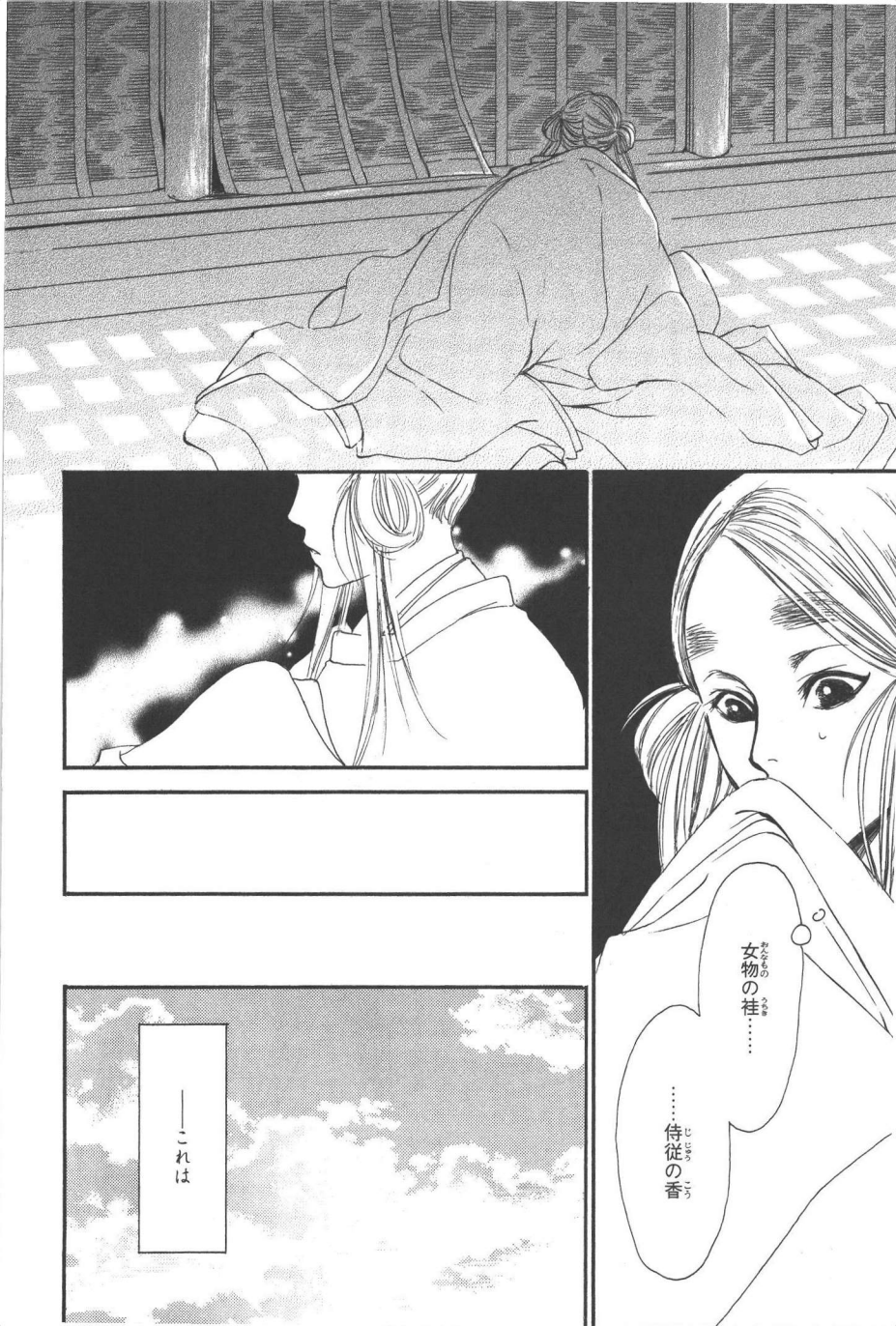
鬼のしわざじゃ――


びっくりした……
女房がいきなり
入ってくるなんて
ふ…
あんな偶然が
あるものか
なまぐさ坊主め
女房に手を出して
いたとしか思えん
目立たぬように
内裏から脱出
したいものだが
参ったな
こうも騒ぎがひどいと
――


加持じゃ！
祈祷じゃ
弦打じゃ！
打撒じゃ――
バタ
ガタ
スル。
パタン。
ゴソ
ドタ
ドタドタ
ここは梅壺か……


梅壺の女御は
後ろ盾もなく
ひっそりとお暮らしだ
よそよりは
人目につかんだろう
すこし…ここで
休んでも……
大丈夫……
だろう……
あの坊主には
全く
疲れた……


スー…
1ヶ月。


女物の柱……
……侍従の香
——これは


鬼の王に仕える
小鬼のひとりの
あえかな
恋の物語で
ございます
……
富士丸
こっちに来い
まさしく
空蝉の恋だね
小鬼丸！
ばしん
なぁに？
アイタっ

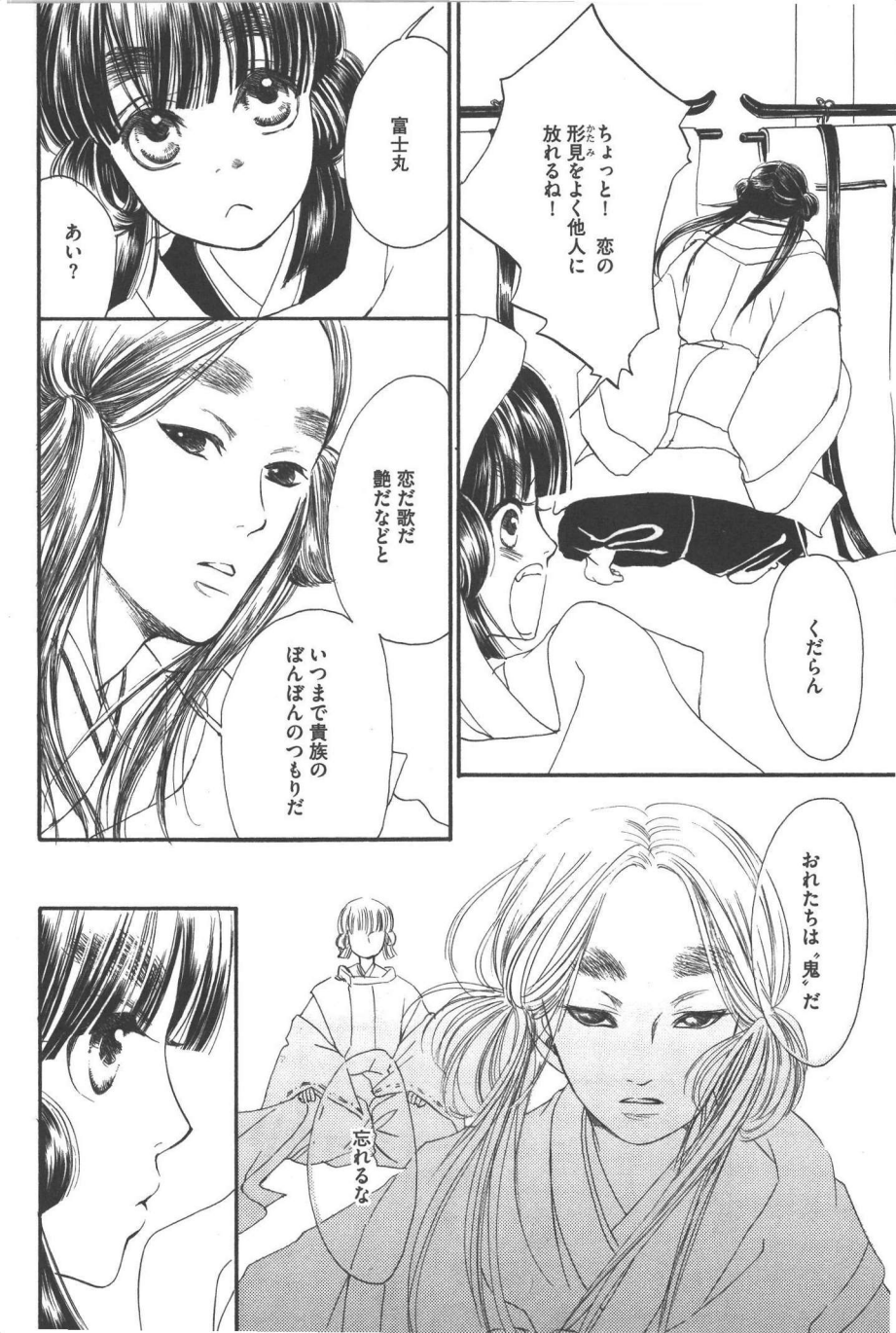
暗殺任務に行って
女に姿を見られたという
話をどうしてそう
能天気に考えられる？

ゴメンナサイ
ゴメンナサイ！
あなたの握力で
やられたら
ぼく死んじゃいます



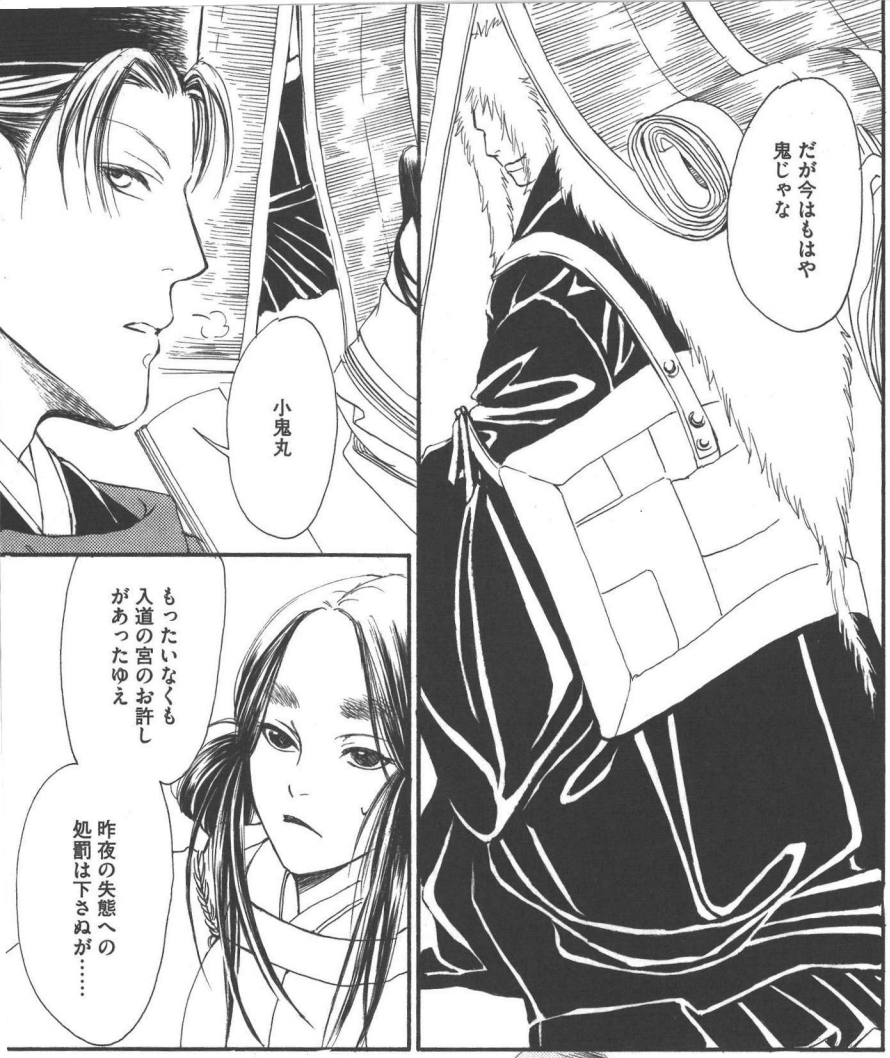

まだほのかに
薫る……
ふふっ
何だ？
バカ丸
艶だなあと
思って……
空蝉の女はきっと
あなたに一目で
恋したに違いないよ


バッサ
わっぷ


ちょっと！　恋の形見(かたみ)をよく他人に放れるね！
くだらん
富士丸
あい？
恋だ歌だ艶だなどと
いつまで貴族のぼんぼんのつもりだ
おれたちは〝鬼〟だ
忘れるな


昨夜は珍しく
不覚をとったようじゃの
小鬼丸
恥ずかしくて……
面も上げられませぬ
入道の宮
なぁに！
良い良い かの坊主は
しとめたのであろう！
はっはっは
はい…闇にて
経脈に針を
ひとさし……
ぱち～
見事じゃ
小鬼丸
ズル ズル…


さすが
わしの小鬼
かわゆい
小鬼よ……
かの僧はあの時……
右府に味方し今上に
わしの讒言を申し上げ
父院を呪い奉った
僧がひとを呪い
おとしいれるなぞ
まさに末世よ
のう？伴周
は……
入道の宮……
おうっ
わしも僧では
あったの！
おしはば


だが今はもはや
鬼じゃな
小鬼丸
もったいなくも
入道の宮のお許し
があったゆえ
昨夜の失態への
処罰は下さぬが……


わかって
おるな？
〝鬼〟の正体を
知られたとしたら
――


その衣をよこした女人(にょにん)……
お前の手で後々の憂(うれ)いなきようにせよ
……かしこまりまして
ぐぐぐ
小鬼丸承(こおにまるうけたまわ)りましてございます
何と……いとおしいことをさせるではないか
伴周(ともちか)は〝鬼〟の中の鬼なのじゃなあ
……応爾(まさちか)さま……

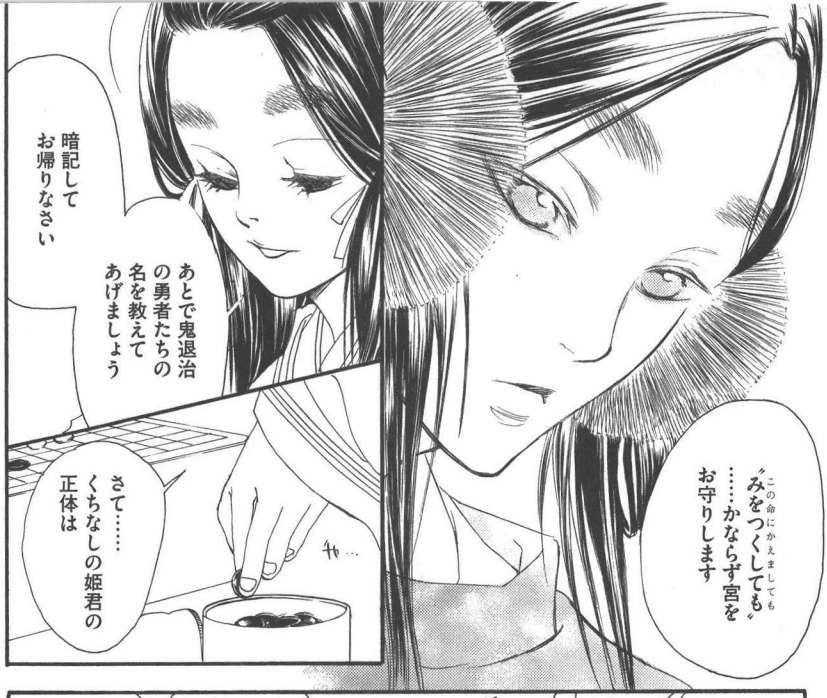

おそれながら……
小鬼丸は院の
童随身のひとり
それが〝鬼〟と知れ
れば疑いは院の
御身にまで
及びまする
父上に
ご心労はおかけ
しとうないもの
ま・こ・と・に
院は応爾さまの
ご意志を
ご承知の上で
小鬼丸を童随身に
加えて保護して下さい
ました
これ以上は……
わかっておる
わ
――〝鬼〟とは
先帝の八番めの皇子
応爾の秘密裏に有する
私兵である
院御所には
切れ者のたま君が
おる
小鬼とたま君で
どうとでも片を
つけてくるで
あろう

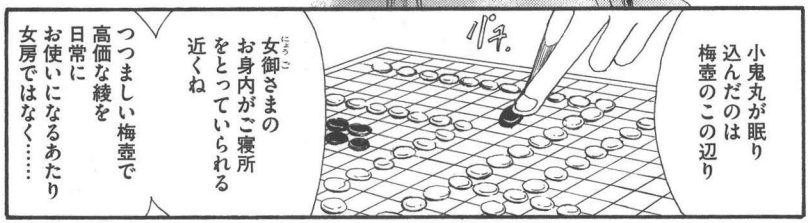

その主な任務は
暗殺・諜報……
表むきの冠位官職は
さまざまなれど
共通すること ただ一点
今上帝をお恨み奉り
八の宮 応爾に
忠誠をささげ申し上げること
……ですから
私が申し上げたいのは
院にこれ以上ご迷惑を
おかけ申し上げるなと…
コタ聞いてんのか
と申し上げたい心から
ポン
キリキリ
おー
そーか
――院御所――


さう…
お文をありがとう
存じました
小鬼丸さま
おなつかしい
文遣いでしたから
このたま君 つい引きとめて
おしゃべりしていましたのよ
文遣いが……ですか？
やあ
富士丸上！
どちらも院の側近 →
（院＝先帝）
富士丸さまの
父君は前蔵人頭
母君は前典侍で
いらしたんですもの
院にお仕えする者に
とってはお身内のように
感じるのですわ
バカ丸 貴様あ 御簾の内に入って
院の女房どのの気安く な
気になさらないで
小鬼丸さま
それに富士丸様は
気を遣ってそっと
件の桂を持って
いらしたの
すてきな
空蝉の恋のお話
……わくわくして
しまいましたわ
あれは……
どうぞ
お入り下さい
まし
ぱちん
なくした…


着込んだ袿だけれど
とても上等な綾……
わざわざ黄に赤を
かさねて透かせているわ
ことによると
少しややこしいわよ
小鬼丸？
このかさねは
黄紅色の暗示
ではないかしら
不言色……
口外しませんって
ことね
このかたは
何を〝口外しない〟と
暗示しておいで
なのかしら？
単にどこかの
宿直の童がさぼって
居眠りをしていると
思われた？
それならいいけれど
あの僧の怪死と
童と結びつけて
いたら最悪
もっと最悪なのは
くちなし色が〝ニセ東宮〟
八の宮を暗示して
いること
くちなしは禁色……
東宮さまの黄丹の袍
と色が似ているから

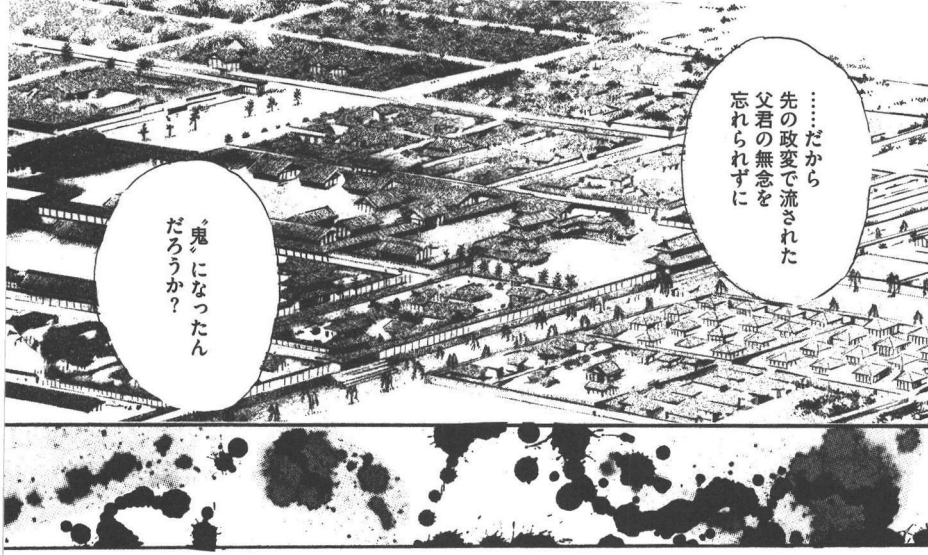

先の政変では
幼い親王さま方も
犠牲になったわ
でも迷信ぶかい
者ばかりではないわ
特に右大臣家は
生きている者のほうが
怖いんでしょうよ
先の政変でかつぎ出され
いわれなき罪を
着せられて出家した
八の宮……
――〝二セ東宮〟
……以来 御所には
童姿の幽鬼が跳梁
するという噂が絶え
なくて
八の宮さまはそれを
利用してあんた達を
巧みにお使いになる
では……
右大臣家の
三人息子の内の
ひとりが……
〝鬼〟退治を
任されたという噂よ
ともあれ……
八の宮が〝鬼〟の
総帥であると
疑われてはならない
……
ふん
つかまる
もんかい


〝みをつくしても〟
この命にかえましても
……かならず宮を
お守りします
暗記して
お帰りなさい
あとで鬼退治
の勇者たちの
名を教えて
あげましょう
さて……
くちなしの姫君の
正体は

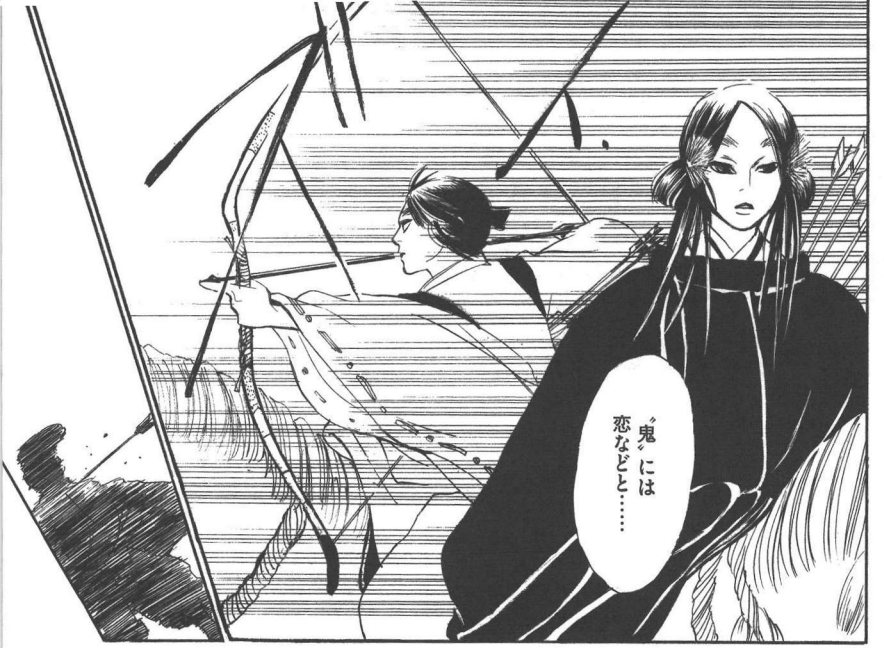

小鬼丸が眠り
込んだのは
梅壺のこの辺り
女御さまの
お身内がご寝所
をとっていられる
近くね
つつましい梅壺で
高価な綾を
日常に
お使いになるあたり
女房ではなく……
パチ


おそらく女御さまの
御妹君の透子姫
でしょう
評判の美人で
お頭も切れる方
だそうよ
敵の敵は味方……
と考えたいけれど
透子さまは
右大臣家にとっては
敵方


透子さまの真意をさぐりましょう
小鬼丸の正体に気づいたのかそうでないのか
空蝉の恋を楽しむのもいいけれど
――もし八の宮の御為にならぬようなら〝鬼〟から死を
富士丸
ごめん 今話しかけないで
耳と口から暗記したものが出てきそう
たま君はすごいよなー…
おまけに律令から古今万葉和漢四書その他も諳んじているんだろ
……だからなのかなあ
本人曰く
「一度見たら忘れないだけ」
……ということだが


……だから
先の政変で流された
父君の無念を
忘れられずに
〝鬼〟になったん
だろうか？


カポ。
……まあそれでも
空蝉の恋がどうとか
言うのだから
たま君のしたたかさ
にはおそれいるが
……おれなども
罪におとしいれられた
父上の死に顔は
忘れられぬし
一生わすれぬ……とも
思うが
ああはなれないな
〝鬼〟として生きる
のは単に……
もはや戻れぬ
からだ

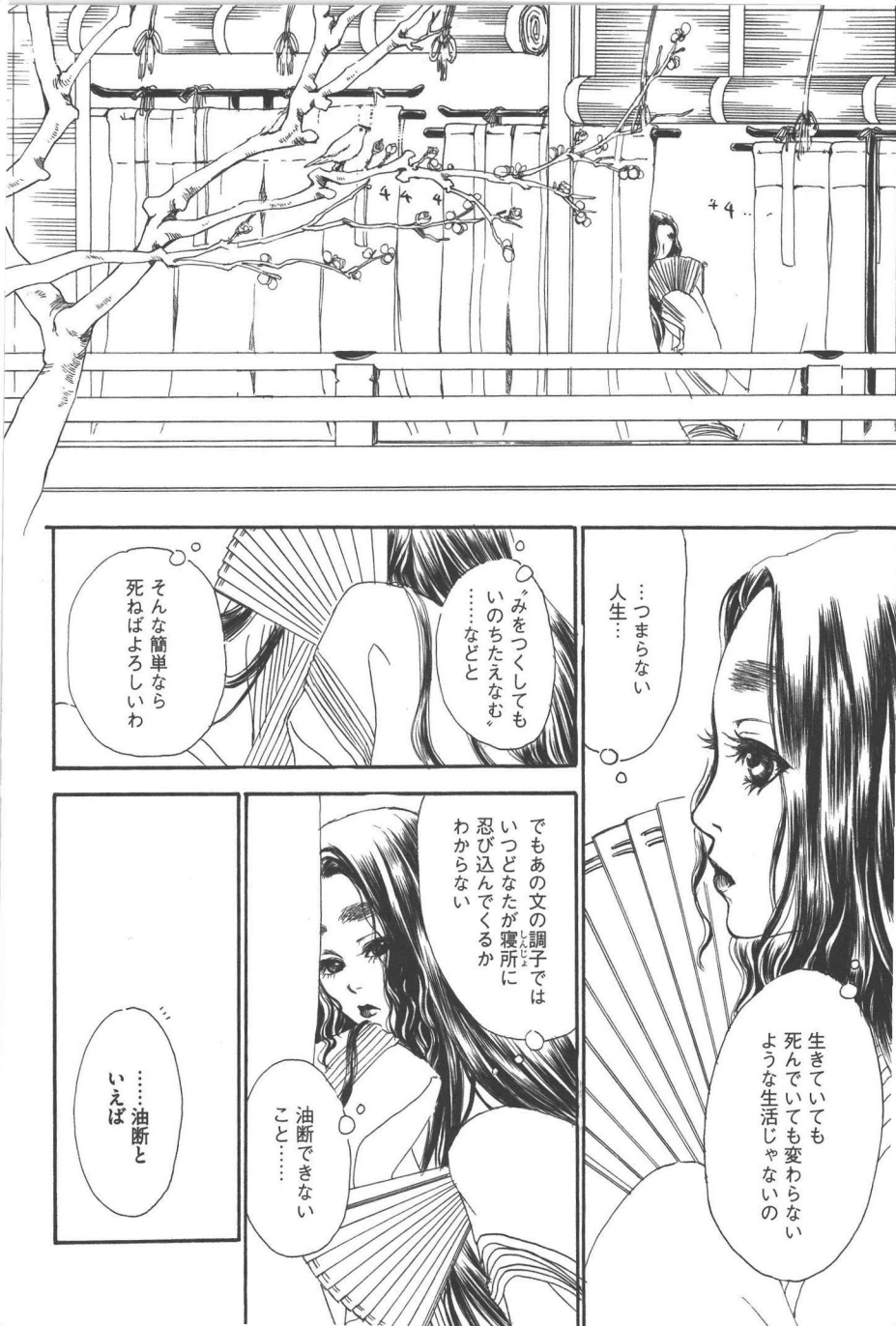

〝鬼〟には
恋などと……

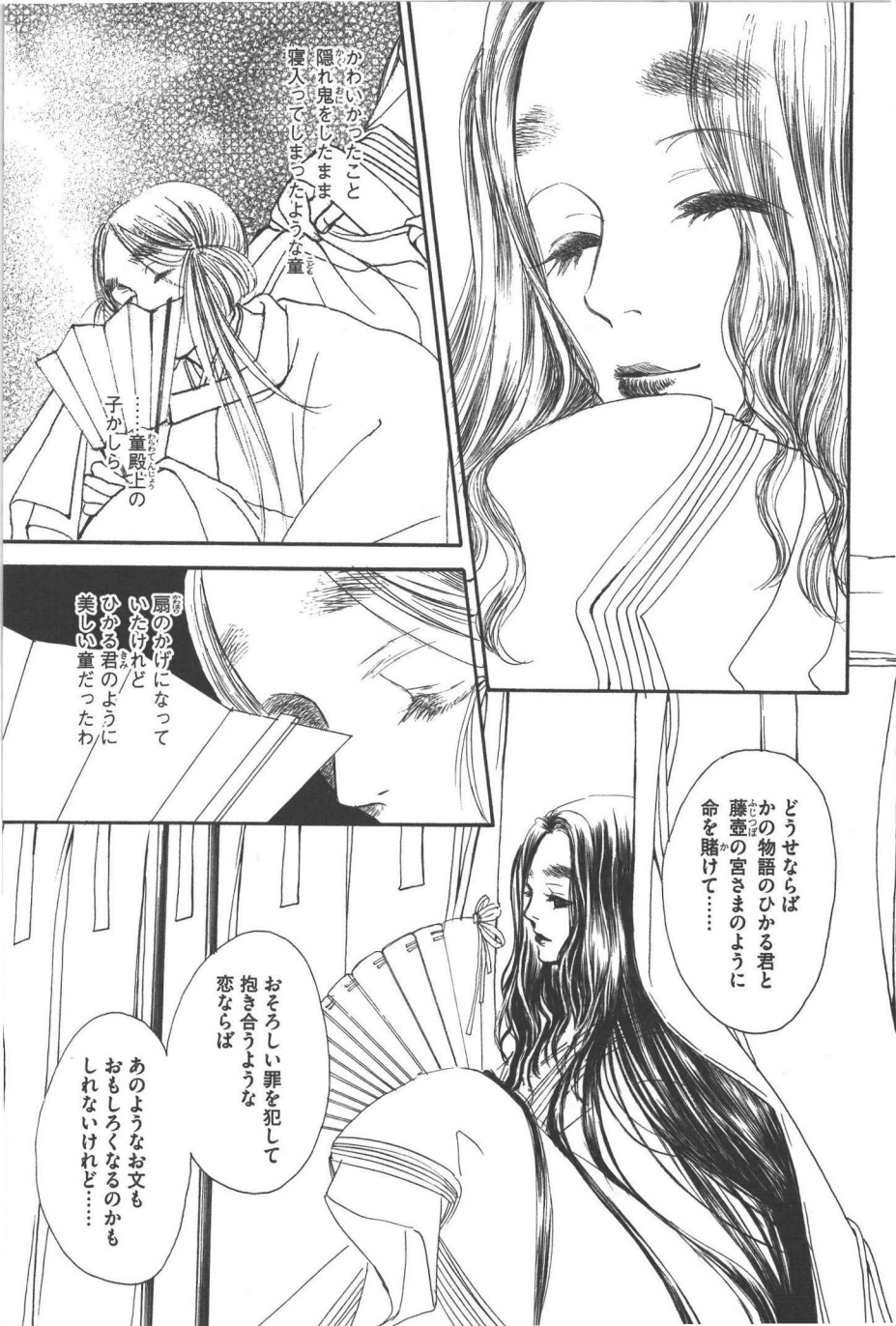

戻れないのは
ぼくも同じだよ
小鬼
あの間者の死体
参内の行き触れに
ちょうどいい位置だね
皆よろこぶ
かな
伴周どのは
さぼる口実に
しそうだな
……しかしおれは
明日つつがなく
参内したかった
ゴメン
ゴメン


何やっている
富士
!!
んー?
間者っぽかったから
射っといた


——凝華舎（梅壺）——
つまらない
お文ばかり……
姫さまったら
何でもったい
ないことを……
いずれも当代の
名だたる貴公子
さまでございますよ
皆様 姫さまに
焦がれて狂い死んで
しまいそうじゃ
ございませんか

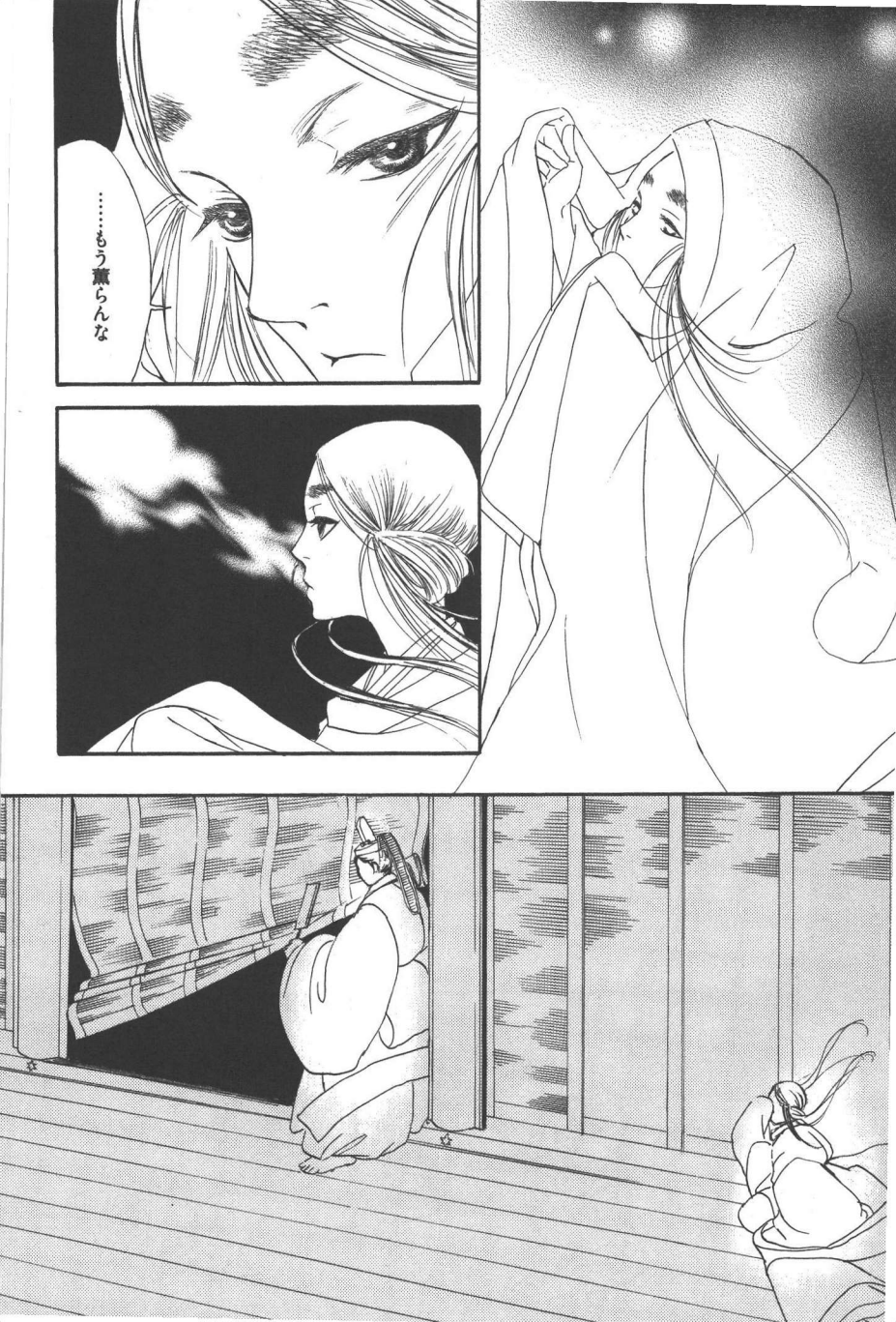

わたくしそれほど
馬鹿に見えるのかしら
小侍従？
お父様も亡くなって
何の後ろ盾もない女に
言い寄るのは北の方を
お持ちの方ばかり
薄幸の美女たる
梅壺の女御さまの妹を
お味見なさりたいのよ
あの……ご実家の
財力ではなく姫さま
のお美しさゆかしさに
惹かれておいで
なのでは…
財力をあてこんだ
ご縁は味気のう
ございますれば……
誰もかれも
恋に死ぬ死ぬと
……女には
うすっぺらい嘘も
見ぬけぬと
お思いか
こんなたいくつな
殿方を通わせて
……
わたくしの人生に
何のおもしろいことが
あるものですか
姫さま！
あまり端近には
……
せめて外くらい
見せてちょうだい
侍をすこし
遠ざけて
はい！


…つまらない人生…
生きていても死んでいても変わらないような生活じゃないの
〝みをつくしてもいのちたえなむ〟……などと
そんな簡単なら死ねばよろしいわ
でもあの文の調子ではいつどなたが寝所に忍び込んでくるかわからない
油断できないこと……
……油断といえば


どうせならば
かの物語のひかる君と
藤壺の宮さまのように
命を賭けて……
扇のかげになって
いたけれど
ひかる君のように
美しい童だったわ
おそろしい罪を犯して
抱き合うような
恋ならば
あのようなお文も
おもしろくなるのかも
しれないけれど……
かわいかったこと
隠れ鬼をしたまま
寝入ってしまったような童
……童殿上の
子かしら


残念なことには
〝鬼〟の子の
身をつくすものは
恋ではありませんが……
この妻戸
だったか
ギィ
まるで恋に
忍び込む男
みたいだ
さり
さり

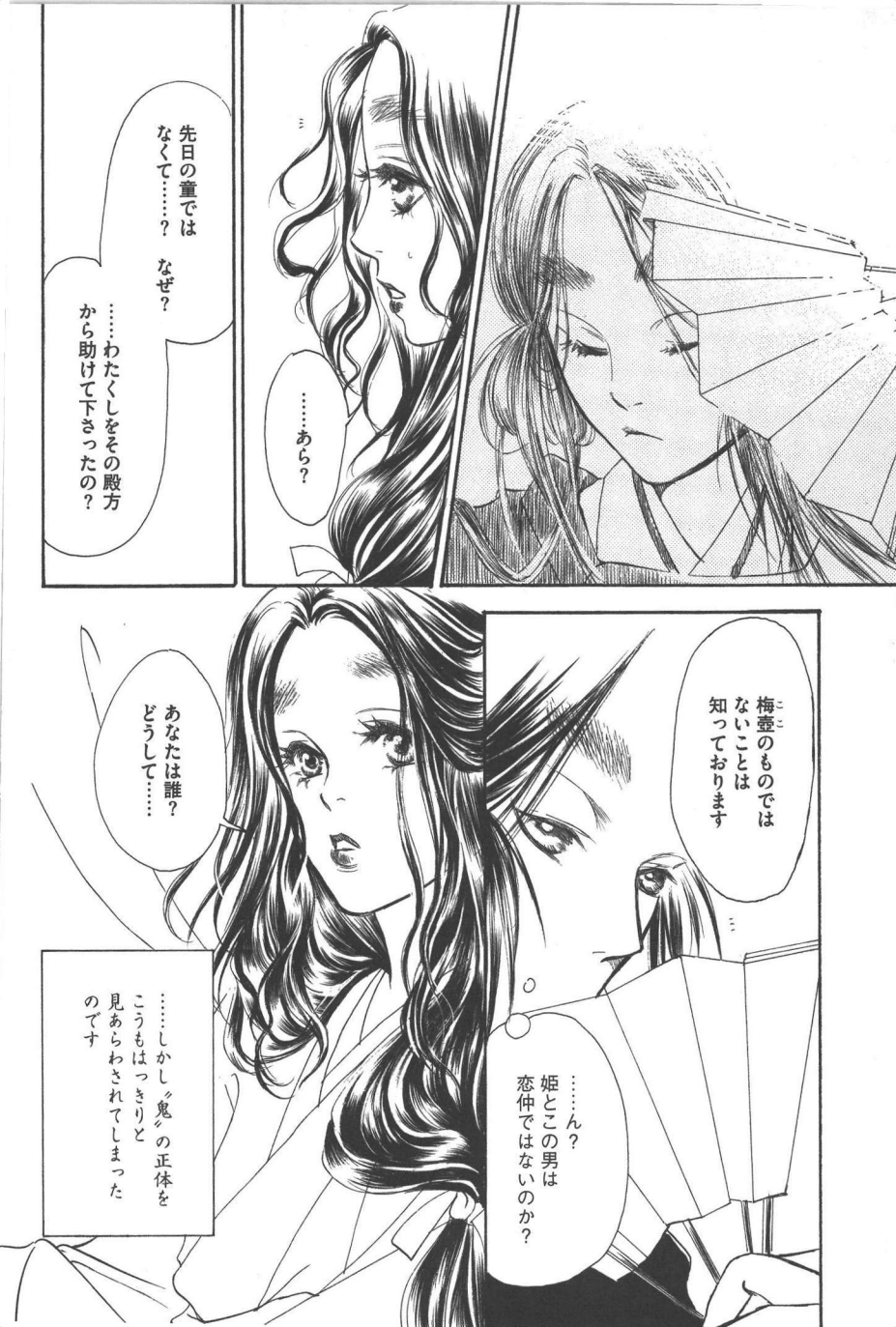

かの姫が
世間知らずで
世のことに
何も興味のない
女ならいい
殺めることも
ないだろう
たま君の言うように
〝敵の敵は味方〟の
ような女なら
……この袿が
その謎かけならば
新たな〝鬼〟に
なってくださる
のかもしれぬ
けれど…


……もう煮らんな

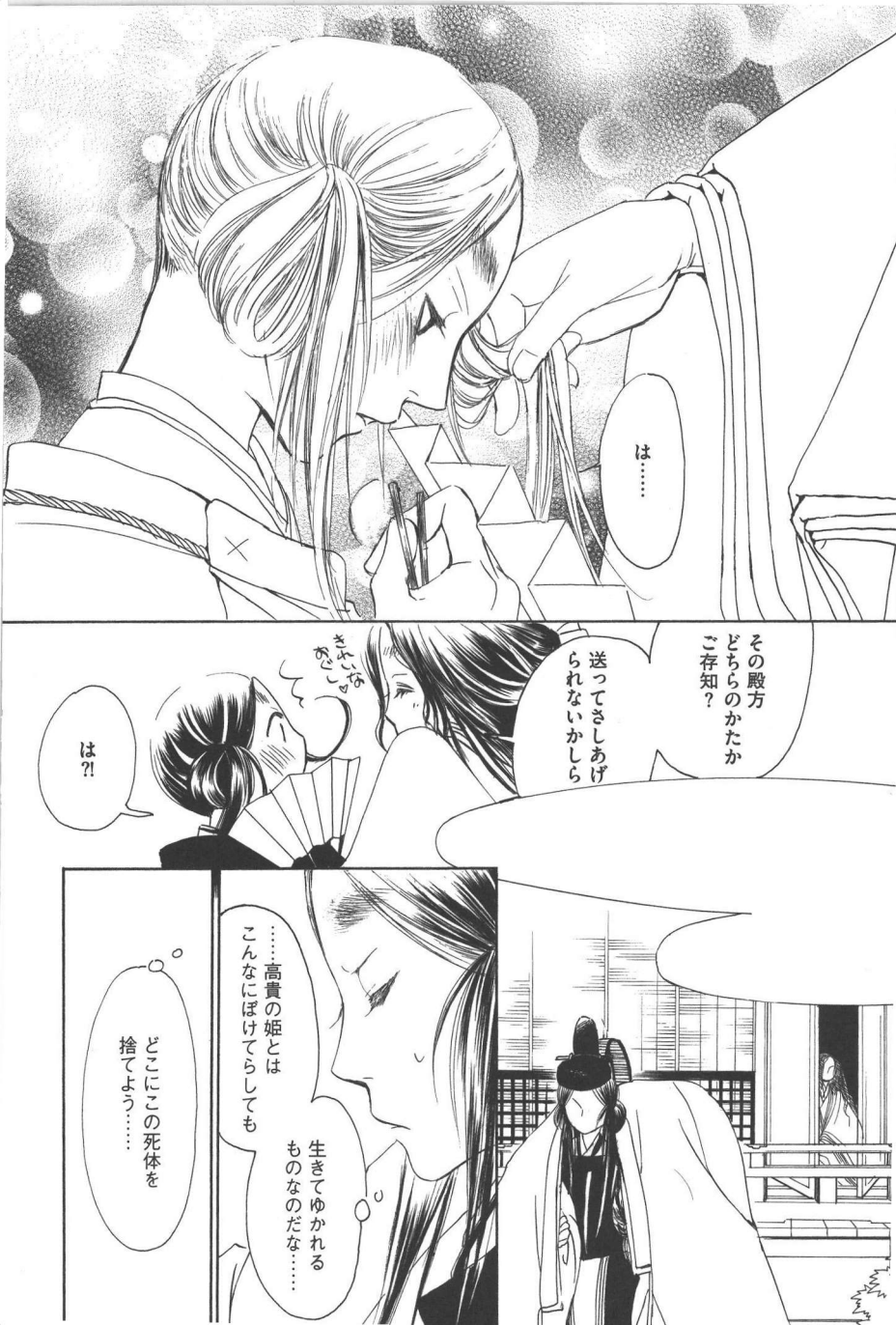

あの貴族は……
右大臣家に
媚(こび)を売るのを
見たことがある……！
あの姫の恋人なのか……!?
まずい 寝物語に
おれのことを話されでもしたら
〝鬼〟の存在が
右大臣家に
つつぬけになる……！
……あ

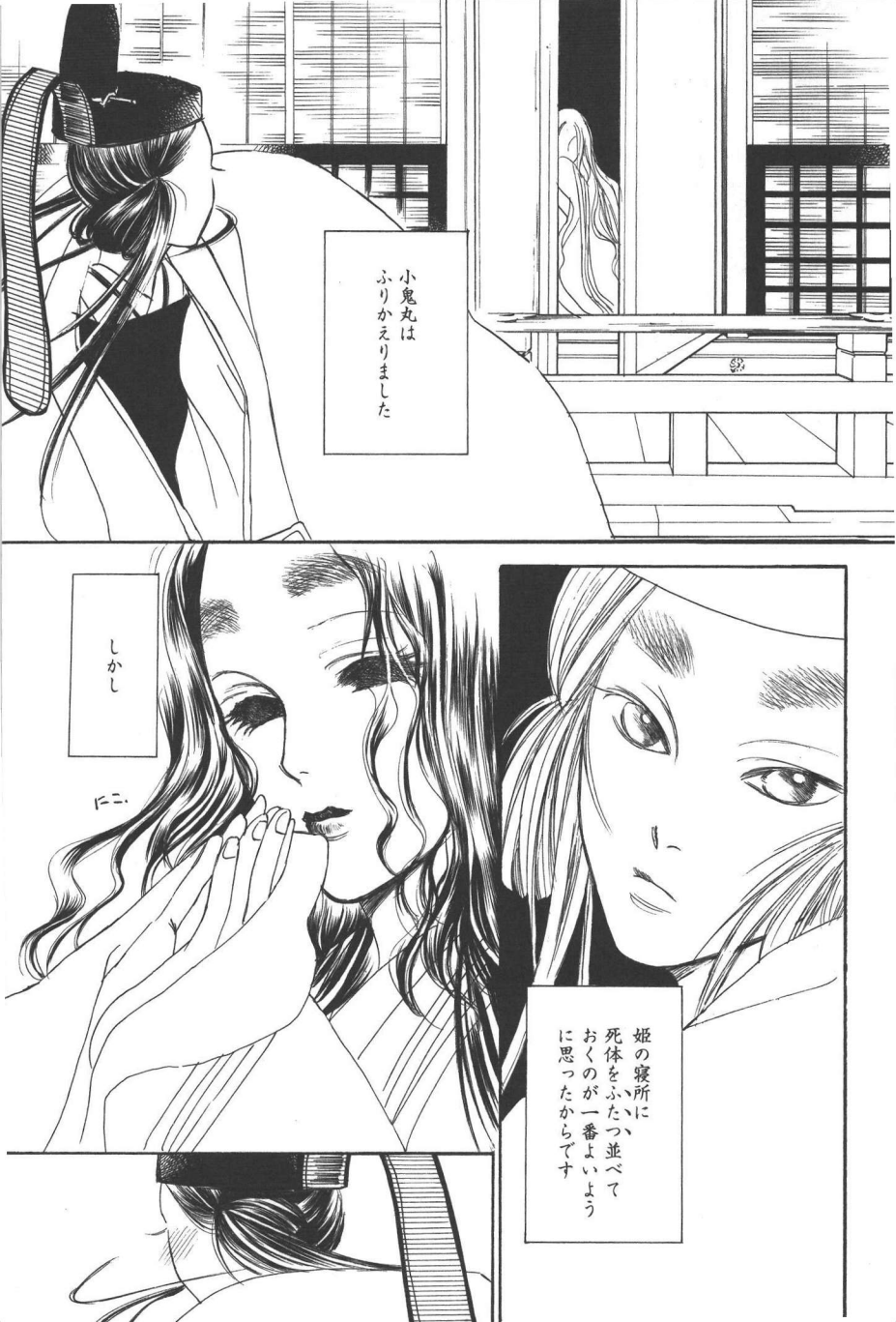

いや……！

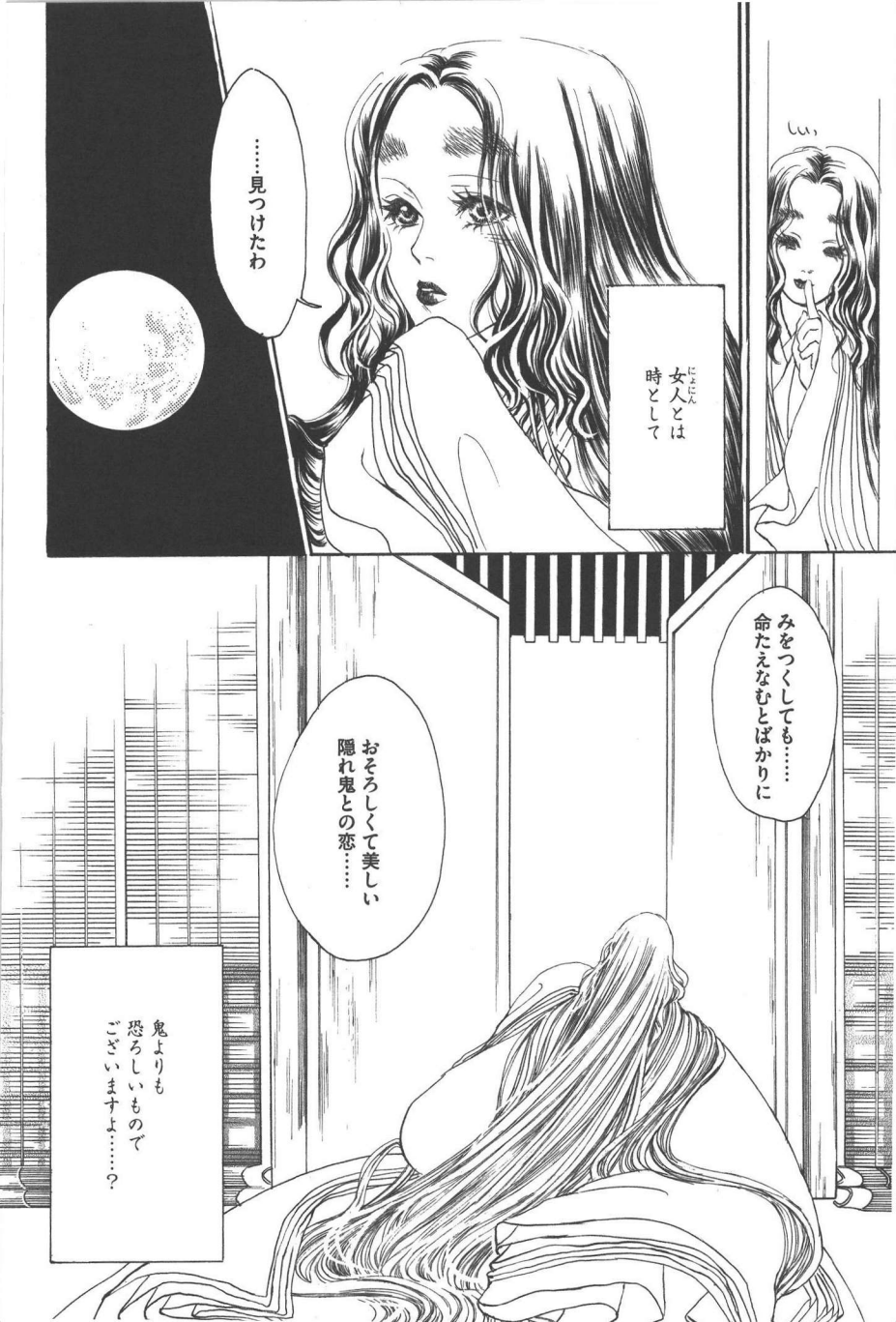

何……？
どなた？
暗くて
見えないわ
ばっ


……あら？
先日の童ではなくて……？　なぜ？
……わたくしをその殿方から助けて下さったの？
梅壺のものではないことは知っております
……ん？
姫とこの男は恋仲ではないのか？
あなたは誰？
どうして……
……しかし〝鬼〟の正体をこうもはっきりと見あらわされてしまったのです


姫をこのままには
できません
……申し上げられ
ませぬ
お許しを
ご寝所に
立ち入りましたことを
おゆるし下さい
無位無冠の
童です
……恥ずかしい
……そんな……
それは……
あなたに姿を
のこりなく見られた
わたくしのほう
でしょう
殿方とお話する
のも処めての童
ですわ
先ほどの殿方は
ほんとうに恐ろしゅう
ございました
助けて下さって
ありがとう
存じます
小鬼丸が
高貴の女人の笑顔を
見たのは遠い日の
母君のそれが
最後でした


は……
その殿方
どちらのかたか
ご存知？
送ってさしあげ
られないかしら
きれいなおなご
は?!
どこにこの死体を
捨てよう……
……高貴の姫とは
こんなにぽけてらしても
生きてゆかれる
ものなのだな……


小鬼丸は
ふりかえりました
しかし
にニ、
姫の寝所に
死体をふたつ並べて
おくのが一番よいよう
に思ったからです


女人(にょにん)とは
時として
……見つけたわ
しぃ
みをつくしても……
命たえなむとばかりに
おそろしくて美しい
隠れ鬼との恋……
鬼よりも
恐ろしいもので
ございますよ……？


……で
——院御所——
結局透子姫は味方なの？　敵なの？
ぼくが始末してこようか？
あーん
……さあ
……どっちでもいい
味方に決まってるでしょ小鬼丸！
ねこすきまのおや
あんたそでに入ってた姫の恋文をちゃんと読んだの
すごく情熱的じゃないの！


恋に溺れた
姫君を利用して
後宮の情報を
ひきだす……
まさに
鬼の恋ね
身分違いだ
成り立たない
そんなことないでしょう
あなたは
いつか八の宮さまの
御代になって父君の
汚名が雪がれたら
つりあう身分に戻れるよ
いつか
八の宮の
御代になったら
さ お返事を
書きなさいよ
小鬼丸！
いや……でも
こちらの正体を
明かす訳には
裏切ったら
殺スって
書いてね
ばかね
恋に真実の
正体なんて
いらないわよ
終

いつかの御時世に

第一話

僕たちは"鬼"として生きる



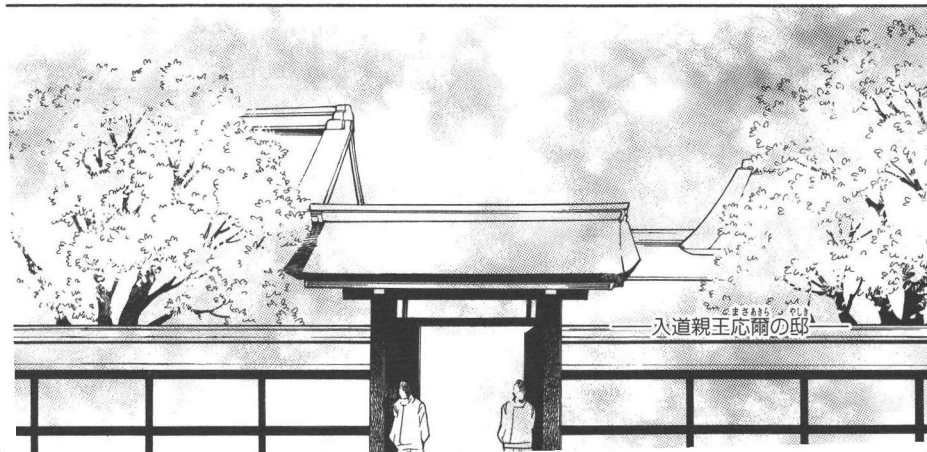

第一話


いつの御時にか


我れ 鬼の王なり

結局のところ
その春も美しかった

僕たち〝鬼〟にとっても
やはり春は春だし
花は花　恋は恋だったから




やあ
ヒュ
どちらが勝つ？
伴周（ともちか）
刀剣や弓矢ならば
富士丸（ふじまる）でしょう


たま君はどう思う？
わたくしは小鬼丸に賭けまする
伴周よ切れ者のたま君が小鬼に賭けたぞ
女童ふぜいが何の賭けものをお持ちというのか
ロコロコロコロコ。
真実みめうるわしい女房がたの情報などいかがです
殿方の恋の冒険にお役立ちですわ♡
……
ロコロコロコロコ
成立。
さて
伴周の賭けものは？
だん
何が欲しいんだ
何でもよろしいんですの？


それでは……
ト・ト・ト・ト・
ト・ト・ト・ト・
……刀剣にこだわらない小鬼丸の勝ちでございますね
ほほ
ちょ
ちょっと……
飛び針。
……
なるほど


へい
ひぃ
そこまで！
はっ


入道の宮……！
美事じゃの
わしの
小鬼ども

いづれの御時にか――……
……どの御代のことで
ございましたか…

この平安の都にて
大きな政の争いが
ございました

東宮とその外戚である
右大臣家による強硬な
政権奪取

世の中は麻のように乱れ
多くの皇子と貴族たちが
犠牲になり
帝は譲位なさいました

これは

復讐の鬼と
なられた

高貴な
ひとりの皇子と


その遣いとして働いた
小鬼たちの物語
でございます……
鬼の王からの
ほうびじゃ
この桜の枝を
とらせる
小鬼丸に


あーっもう！
刀剣だったら
僕が勝っていた
のに！
あなただけ宮に
ごほうびを賜る
なんてずるいよ
小鬼丸！
ポッポッ
ふふん
くっそ～～～
そのイヤミな笑い方すら
艶なんだから～～～
カァーン
見てろよ
僕だってそのうち
暗殺術の腕もあなた
なみになってみせるから！
だったらまず
音を立ててお菓子を
食べないことね
富士丸

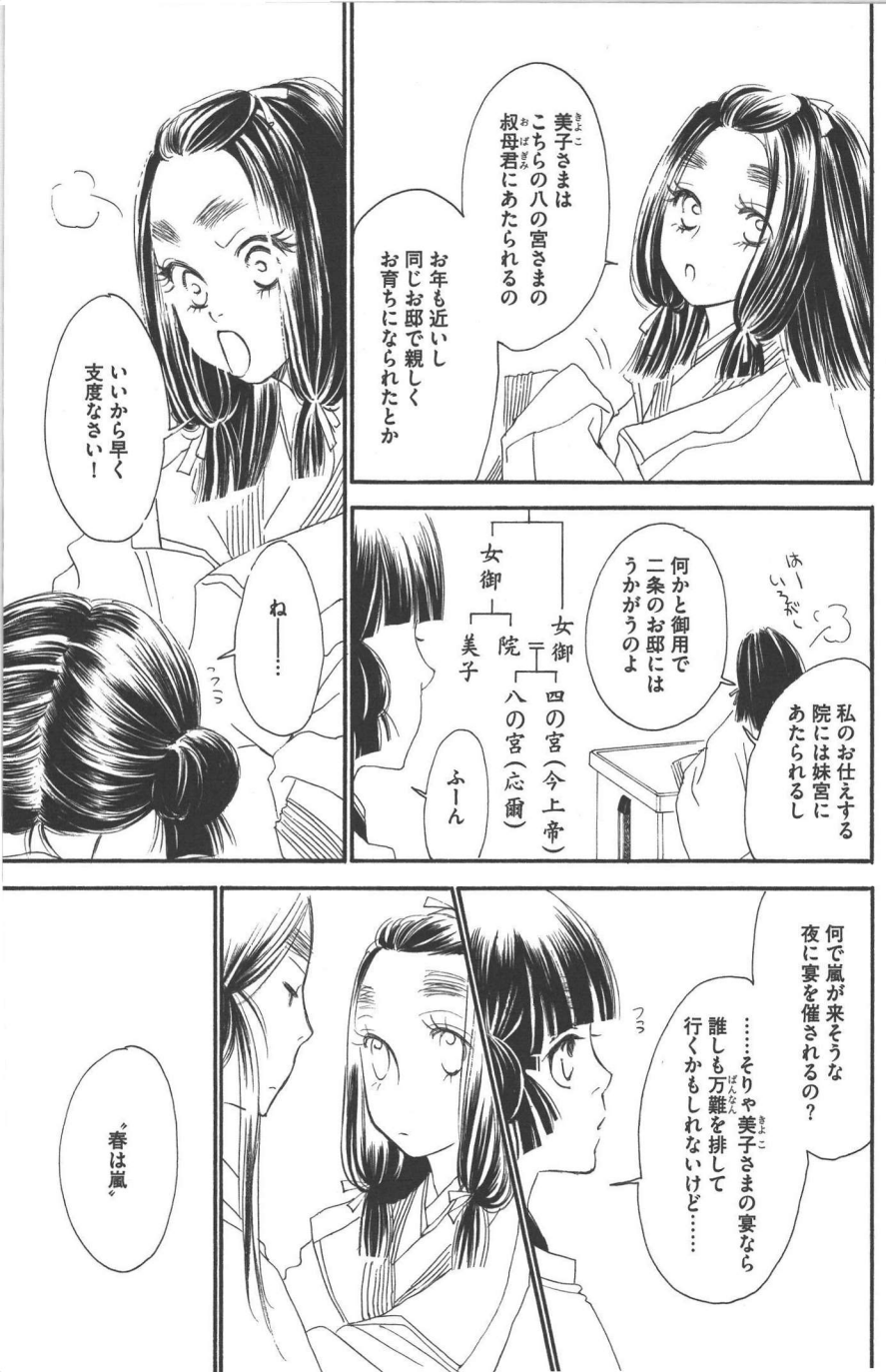

ばかな貴族たちを暗殺するには闇が一番なんだから
それをボリボリとよくもまあ
ちょっとしたしぐさにも色香が匂うくらいじゃないと
たま君……
バカ丸はまだまだ
花より菓子なのだろう
そりゃあなたはその花のほうが似合っていますよ！
樺桜の君とでもお呼びしたいくらい……
風が強くなってきたわね
ゴオ…
夜には嵐になりそうよ
かの物語の〝野分〟ではないけれど
※夕霧が紫のひとを樺桜にたとえる


ああ…
桜が散ってしまうね
もったいない
あら
いいのよ
ゴゴゴ
〝春は嵐〟ですもの
……
ああ
え？　え？
何？　何の
隠語なのそれ
小鬼丸
わ
花吹雪……
……富士丸
たま君
小鬼丸


伴周どの！
任務だ
今宵ものずきにも
桜の宴を催される
お邸がある
二条の宮こと
美子さまの
お邸だ
えっ前の帝の
内親王の…?!
そうだ
知ってる?
美子さまはじめ
女房雑仕女に至るまで
美人ばかりで
都中の
公達のあこがれ
のお邸で……
コク
知ってる
知ってる
その宴において
お前たちの任務は
二ツ
ポン
何だろう
一ツは院からの
出し物として三人で
楽を奏すること


うええ?!
だって…
美子さまの御前だよ
……
……
当代一の貴婦人の前で笛なんて吹けないよ!
大丈夫よ美子さまはあんたの笛なんてお聞きになられちゃいないから
ぷぅ
伴周さま
この任務のあとに……
〝賭けもの〟をいただけまして?
……
ああ
期待していますわ伴周さま♡
演目は……
そして
それとは別に……


しかし
二条邸のものには
傷ひとつつけるな！
その宴で
検非違使別当どの
の暗殺を命じる
なるべく早く
死体をひとに
見つけさせ
騒ぎを大きくしろ
鬼の王より
小鬼たちへ
ご下命だ
承わりました
ねえ
たま君と小鬼丸は
美子さまを
よく存じ上げているの
？


美子さまは
こちらの八の宮さまの
叔母君にあたられるの
お年も近いし
同じお邸で親しく
お育ちになられたとか
いいから早く
支度なさい！
ね――…
つう
私のお仕えする
院には妹宮に
あたられるし
何かと御用で
二条のお邸には
うかがうのよ
あーいうぶし
女御
院
女御
美子
四の宮（今上帝）
八の宮（応爾）
ふーん
何で嵐が来そうな
夜に宴を催されるの？
……そりゃ美子さまの宴なら
誰しも万難を排して
行くかもしれないけど……
つう
〝春は嵐〟


美子さまは
春は嵐をお好み
なのですって
「いけません」
「いけません、よ
八の宮」
「叔母の宮」
「今なら誰も
見ておりません」
「叔母の宮」
「さあ」
「お抱き申し上げます」


「ほら」
「桜でできた
あずまやのようでしょう」


「おやめ
下さいまし
八の宮」
「なぜです？」
「ご降嫁なさったら
臣下は内親王を
御車から抱き下ろし
申し上げて
我が家に
お迎えするのだとか」
「存じております！
でもあなたは……」
「私はたしかに
至尊の地位にのぼる
かもしれませんが」

「でもあなたを
王女御にいただいたら
きっとお抱き申し上げて
御車からお下ろししますよ」

「まあ何てことを！」

「だって私が乞うて
来ていただくのだから！」

「あなたが好きです
叔母の宮」

「必ずわたしの
女御になってください」

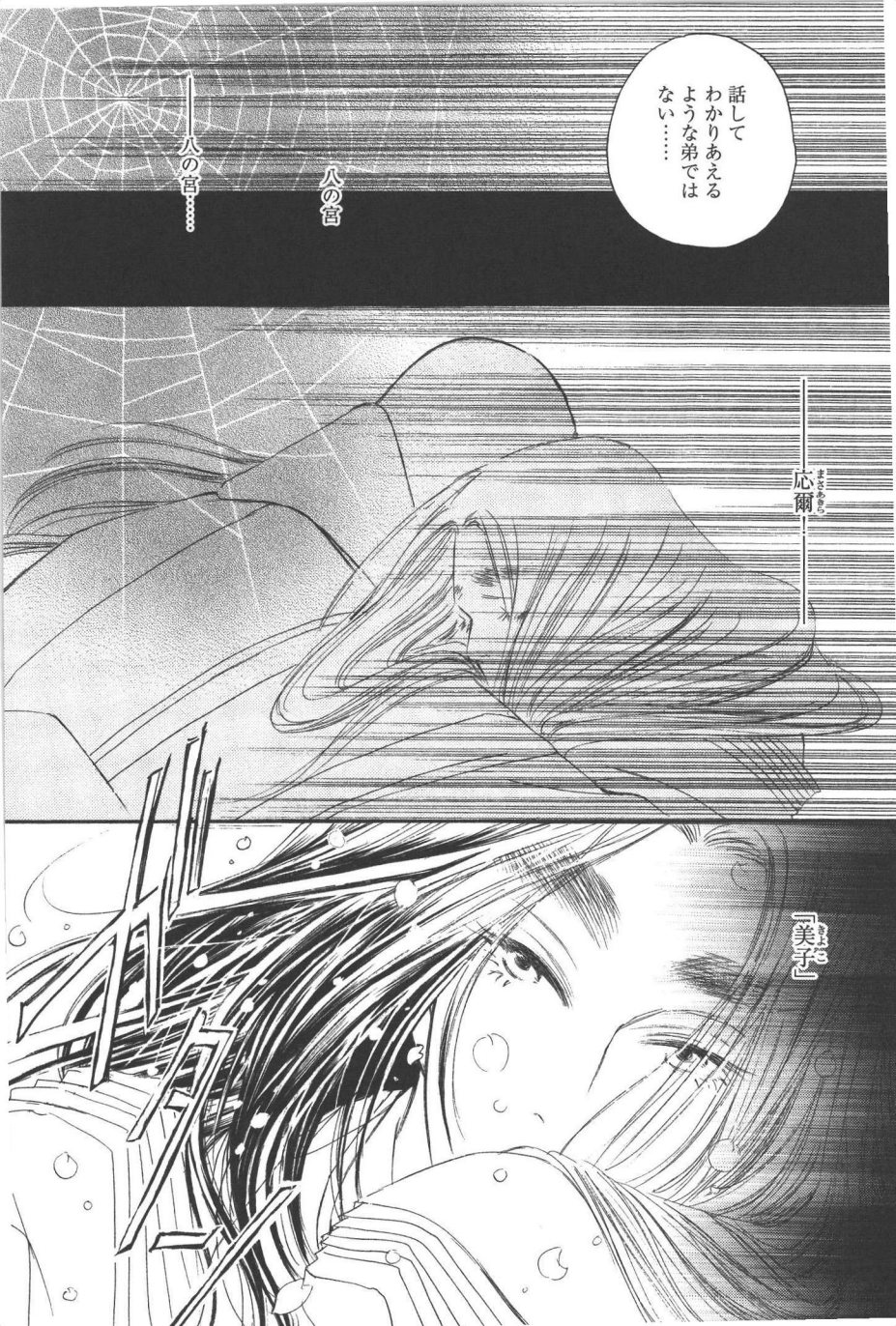
東宮さま……

よい

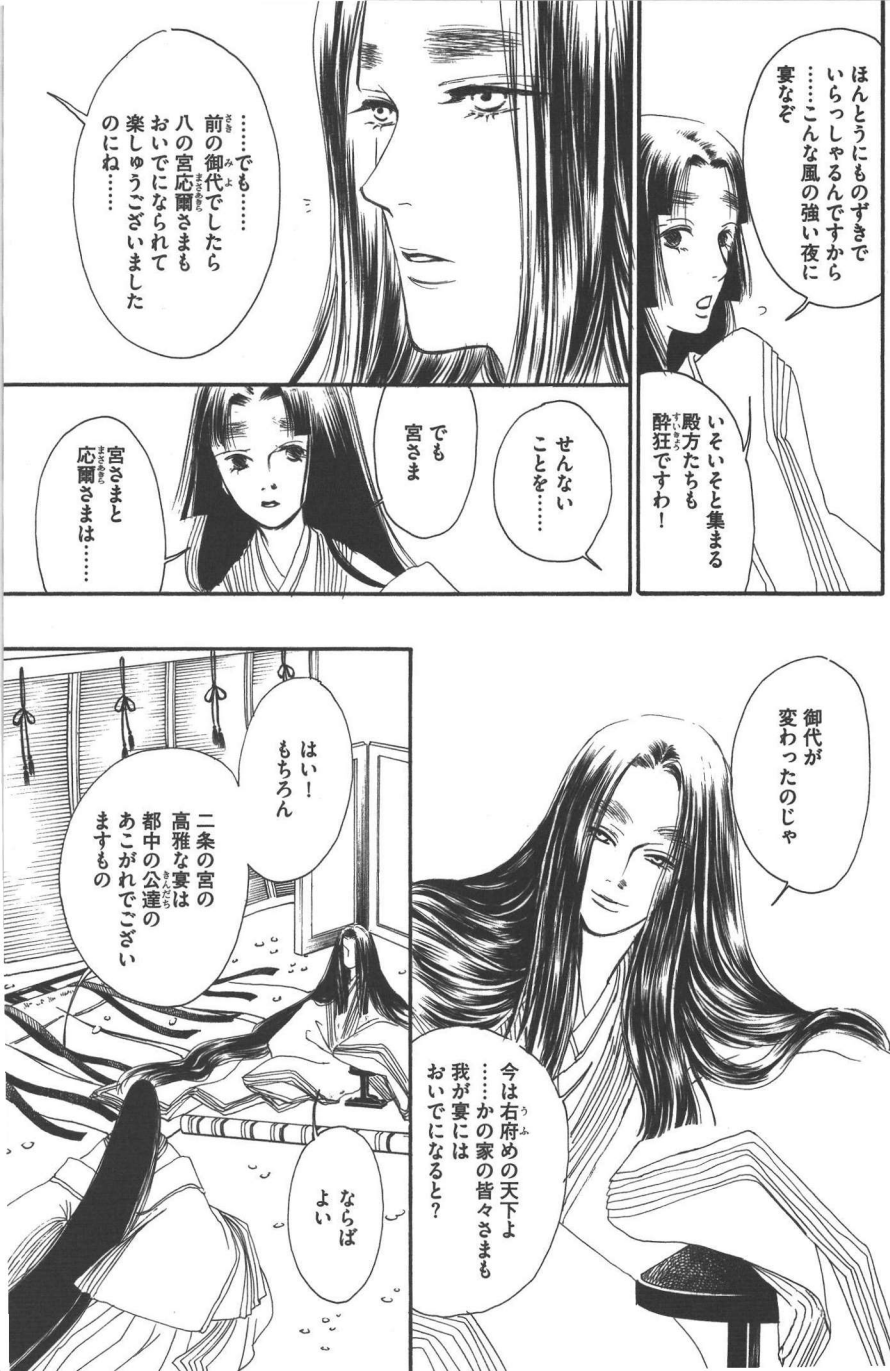
ご注意申し上げて
まいりましょうか？

やんごとなくございあそばす。

八の宮は
言って聞くような
人間ではない


話して
わかりあえる
ような弟では
ない……
八の宮
八の宮……
応爾(まさあきら)
「美子(よしこ)」


ああ 風が……
春の嵐が
几帳をたおして
いま御格子を
お下ろし
いたしましょう
いらぬ
しかし……
宮さま
お騒がせして
申し訳ございません
よい
かの少納言は
春はあけぼの…
とやら申したとか
まろならば
こう言う
春は嵐がよい
桜のころの
女の髪をかき乱す風
……荒々しさに息もできぬ
若々しい春がよい


ほんとうにものずきで
いらっしゃるんですから
……こんな風の強い夜に
宴なぞ
いそいそと集まる
殿方たちも
酔狂ですわ！
せんない
ことを……
でも
宮さま
……でも……
前の御代でしたら
八の宮応爾さまも
おいでになられて
楽しゅうございました
のにね……
宮さまと
応爾さまは……
御代が
変わったのじゃ
今は右府めの天下よ
……かの家の皆々さまも
我が宴には
おいでになると？
ならば
よい
はい！
もちろん
二条の宮の
高雅な宴は
都中の公達の
あこがれでございます
もの


……風が強いな
ならばよい……
さて 春の嵐は
おとずれるであろうか


頭中将
はっ
主上
このような風の
強い日は
つけ火があるやも
しれぬ
内裏の警護を
厳にせよ
は……
しかと申しつけ
ましょう
……鬼は
今宵は
出るだろうか
……時おり
主上は
鬼と出会うことを
待ち望んでおられるの
ではないかと
思うことがある

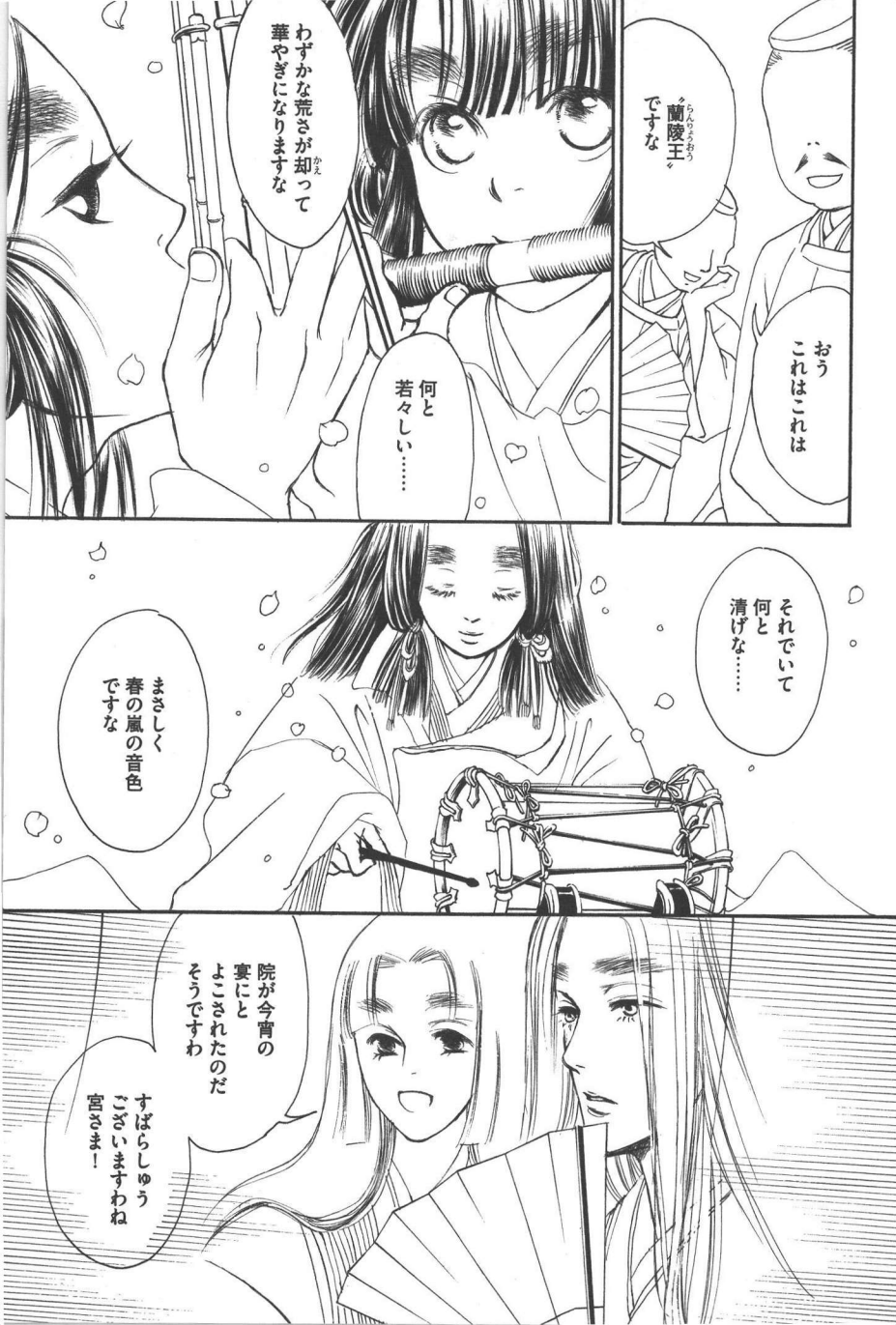

今宵は……
中将は宿直か？
いえ…仰せと
あらばそのように
いたしますが……
二条の宮の宴へ
招かれているのか
は……
二条は
評判のようだね
多くの
みめ良い女房と
手ごたえのある
やりとりができると……
二条はかつて
私も親しんだ
邸だ
二条におられる
宮は……それは
愛らしい御方だった
……とても
なつかしい
いや
今はもはや…
あの宮も……

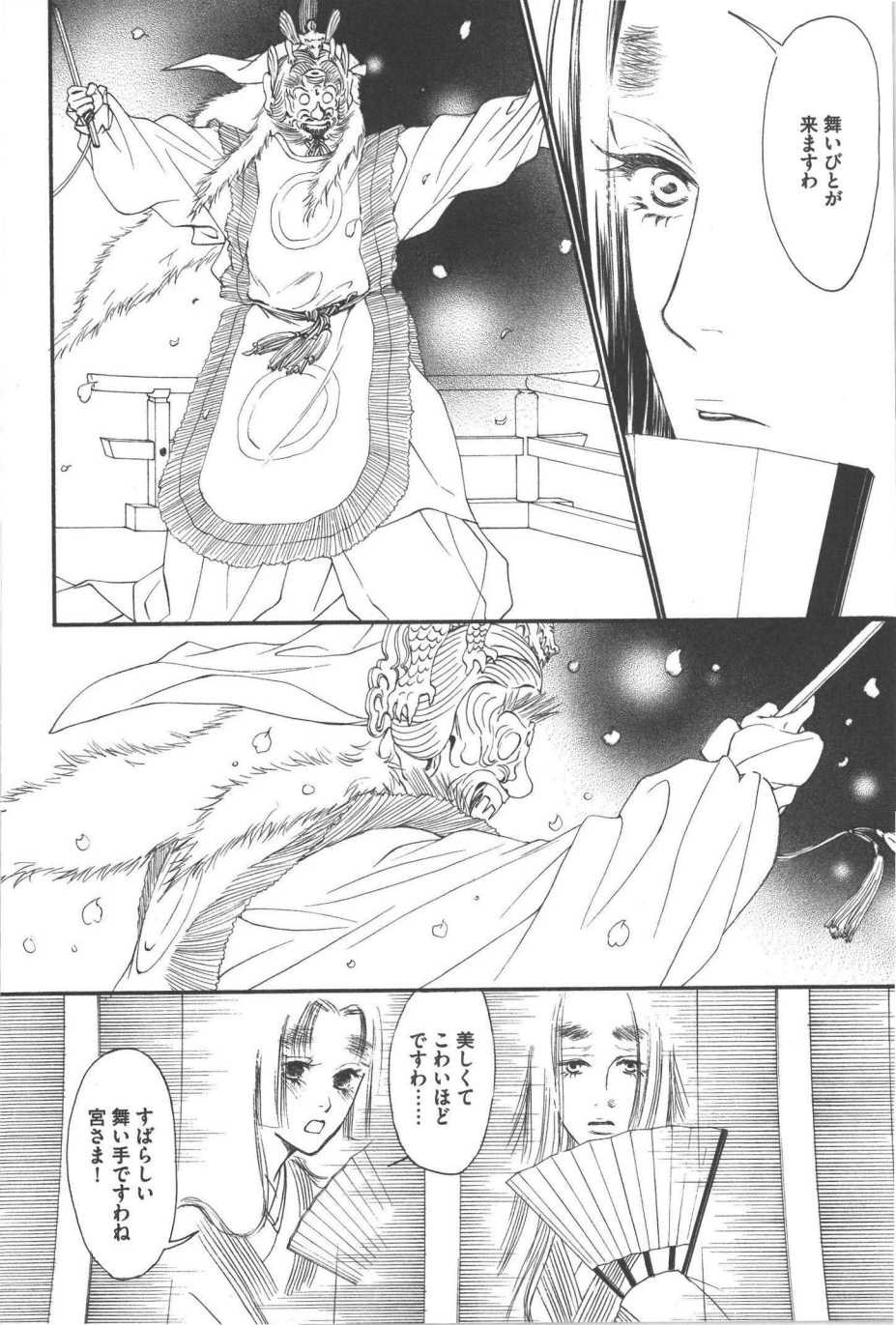

——あの宮も　鬼となられただろうか
いつか御身を滅ぼされますよ
応關さま
伴周か
……行かれるのですか


参る


ほら！
宮さま
右大臣家の
若君たちが
参られましたわ
藤原の
夏政さま秋人さま
純冬さま……
当代きっての
貴公子たちと
評判ですのよ
夏政さまの
笑顔といったら……
あら わたくしは
秋人さまが……


……華やかなこと
なるほど美しい公達
八の宮も……
あのような政の争いさえなければ
あのようにして……


おう
これはこれは
〝蘭陵王(らんりょうおう)〟
ですな
わずかな荒さが却(かえ)って
華やぎになりますな
何と
若々しい……
それでいて
何と
清げな……
まさしく
春の嵐の音色
ですな
院が今宵の
宴にと
よこされたのだ
そうですわ
すばらしゅう
ございますわね
宮さま！


舞いびとが
来ますわ
美しくて
こわいほど
ですわ……
すばらしい
舞い手ですわね
宮さま！

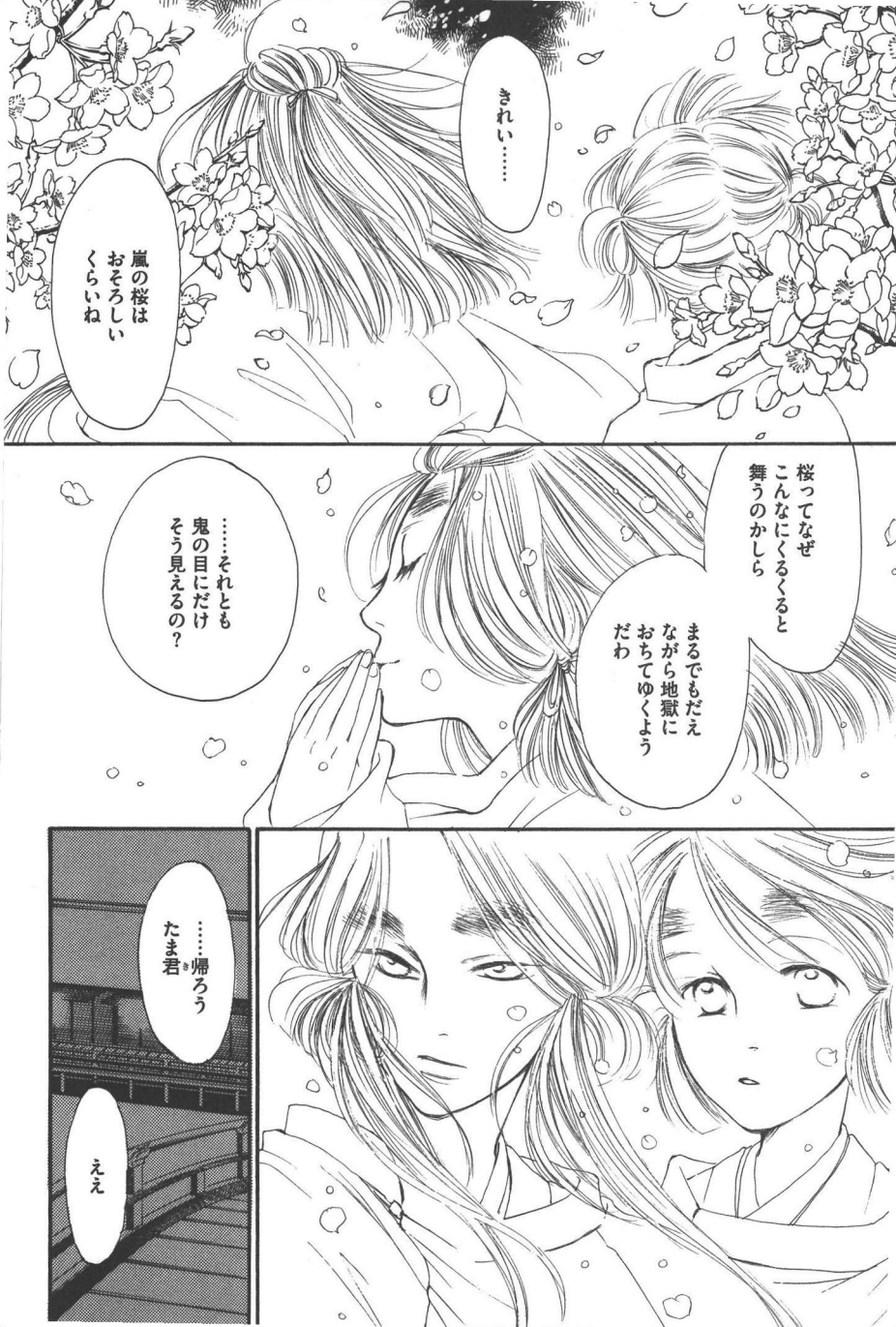

…ええ


ああ……
飲んだ飲んだ
たいぎじゃ……
おお
非違の別当どの
お足元お気をつけて……
もし
お足元……
あぶのうございまする
おそでをお引きいたしましょう
おお……
おお
こっこれは
何と
何と美しい
女房どのじゃ！
あれ
おやめください
何の
放さぬぞ
もし
わしは
検非違使の
長官ぞ！


検非違使の……
別当さま？
そうじゃそうじゃ
主上とは別の意味で
何をしても許さ
れる身でな
ひっひっひっ
まあそれは
冗談じゃが
都の治安を
守り罪人を
裁いておる！
わしと仲良う
しておくと何かと
得じゃぞぉ……？


おみごと！
小鬼丸！
すごいわ小鬼丸
あんた本物の
鬼ね！
やめてロづけてくださいやめてやめてください！
……
女房装束…
うわもったいない
すぐに脱がないで
くださいよ
すっごく
きれいですから！


わぷ
バカ丸
さ ゆきましょう
……腐った人間が
多すぎるな
この世は
くだらん！
さっさ
あら
だから鬼が
いるのでしょ
バフッ


きれい……
嵐の桜は
おそろしい
くらいね
桜ってなぜ
こんなにくるくると
舞うのかしら
まるでもだえ
ながら地獄に
おちてゆくよう
だわ
……それとも
鬼の目にだけ
そう見えるの？
……帰ろう
たま君
ええ


あれえ
非違の別当さまが
ひぃ――っ
どどなたかぁ――
失礼申し上げます
こたびの祈禱を勤めさせていただきます……
蘭陵王の恐ろしい面にお顔をかくしていられても……
……まろにはすぐにわかりましたよ


八の宮 応爾どの
きっと
おいで下さると
思っておりました
長官を
亡くして……
検非違使も
今宵はろくに
動けませぬなぁ
お悪い
お方だ……
蟄居の身では
このような大騒ぎ
でもなくては……
……宮家の
奥深くにいられる
美しい珠には
とても手がとどき
ませぬ
……鬼じゃ
ほんとうの
鬼になられたな
でも
お会いしたかった


あなたは
鬼をも
愛されますか
美子と
美子……
〝春は嵐〟……
と仰せられた
ええ
私は
嵐に散る花には
なれぬゆえ
……
鬼となって
生きます
まろは
散らぬ花よりも
嵐に吹き
ちぎられる花で
いたいのです


仕事のあとのお酒は格別だねえ
伴周(ともちか)どのこのお酒なかなかおいしいわよ
じゃんじゃん持ってきて！
この餓鬼(がき)ども
賭けに負けたんだからブツブツ言わないの！
ちぢ
まったくなんて子供らだ
まさに鬼だ
ふじまるの無いまーすっ
くいっくいっ
ぱちぱち


あんな仕事のあとで
疲れていないのか？
もったいない！
明日にはもう
花が散ってしまいますもの！
だってきっと
この嵐で
「……花を踏んでは
同じく惜しむ
少年の春」
……か


その　一夜の嵐に
桜は　もだえるようにして
散り果てた


第二話
ゴリゴリ
さあ……これで
またしばらく
地中に埋めておかない
と
……でもその前に
少しだけ
たいて
みよう
コロコロ

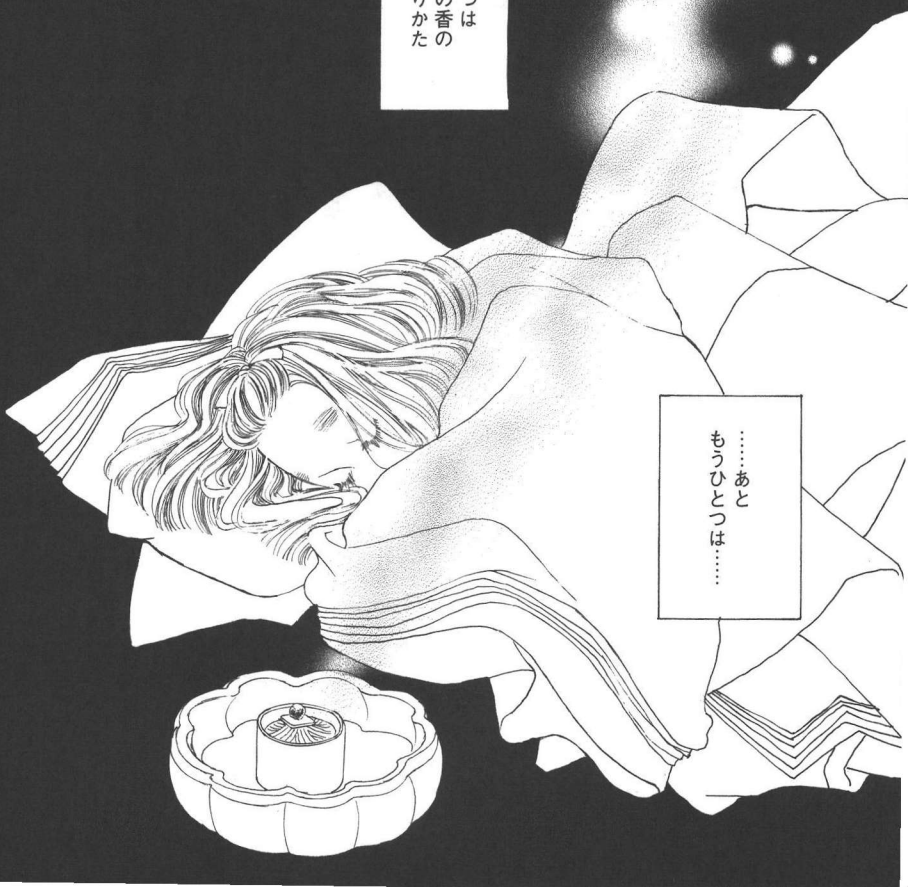
第二話

わたくしね
おかあさまのひみつを
知っているの

わたくしと
おかあさまだけの
ふたつのひみつ

ひとつは
秘伝の香の
つくりかた

……あと
もうひとつは……




ぱち。
院御所
ん……
伴周どの？
もう行って
おしまいになるの？
まだ宵の口よ……


鶏の声が
聞こえたよ
そら音で
ございましょ？
世に逢坂の……
いいえ逃がしません
わよ
夜をこめて 鳥のそら音は
はかるとも
世に逢坂の
関は ゆるさじ
孟嘗君の鶏は
函谷関を開きて
三千の客
わづかに去れり
逢坂は 人越えやすき関なれば
鳥鳴かぬにも あけて待つとか
めんどくせ。
コケッコ――

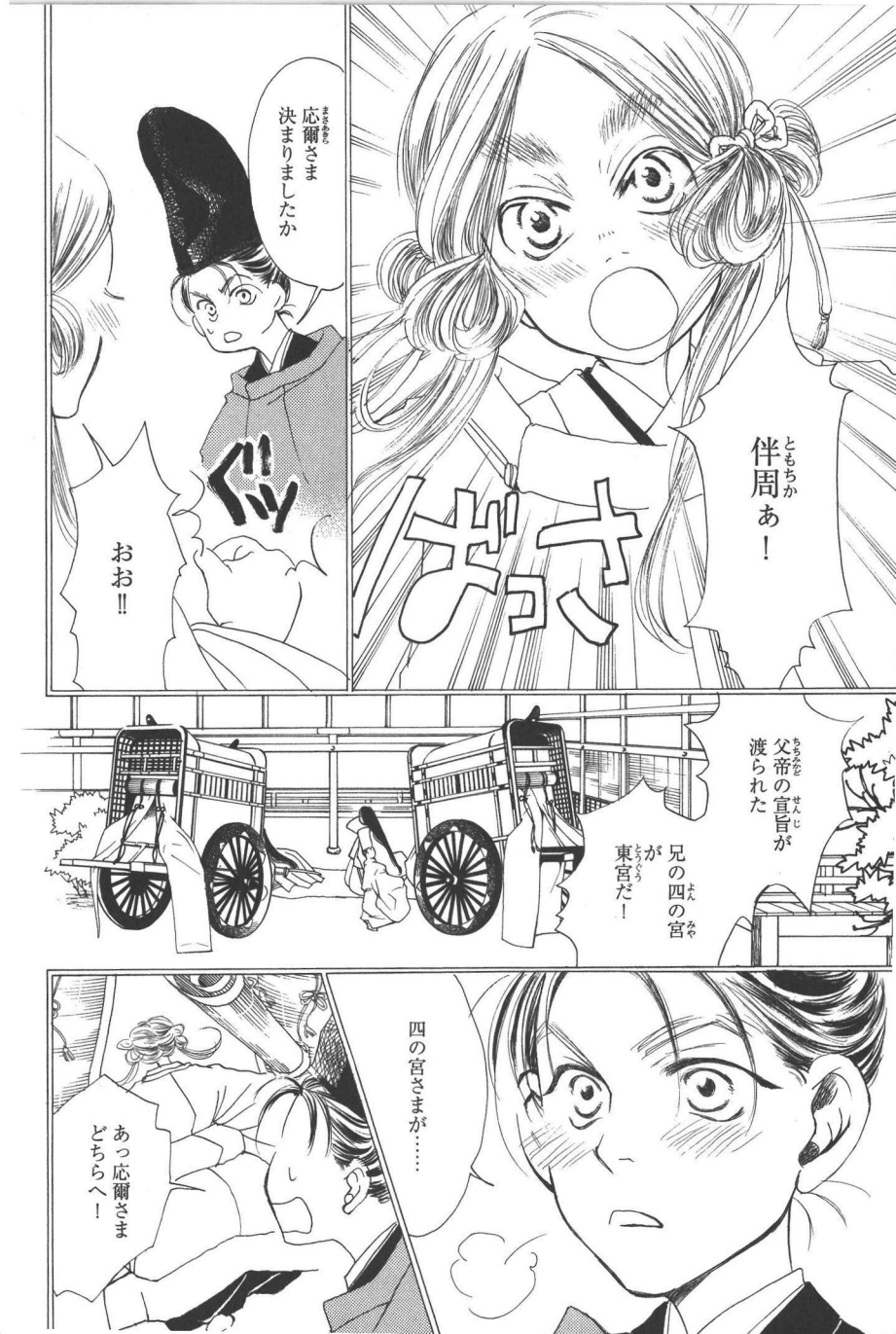

あいたた
たた
最っ低な男！
あれでもご政変の前にはそこそこ権勢のある家のお坊っちゃんだったというから
ちょっとはおもしろいかと寝てやったのに――！
源伴周
やっぱり落ちぶれ貴族の若造なんてだめね！


ああ……
きつかった
耐えがたい
小雨がおっくうで
誘いに乗ってみた
ものの
あの女房
趣味のわるい
薫物がきつくてきつくて
……
しかし
参ったな
夜が明けるまで
どうにか屋根のある
ところにいたいもの
だが……
侍所に知り合いが
いるか見てくるか……
別のなじみの
女房を探すか……
ごほん


ん？
ん
ん
ん
とっとっとっ
雨上がりに
どこかの女房が
薫物をしているな
いい風情(ふぜい)だ

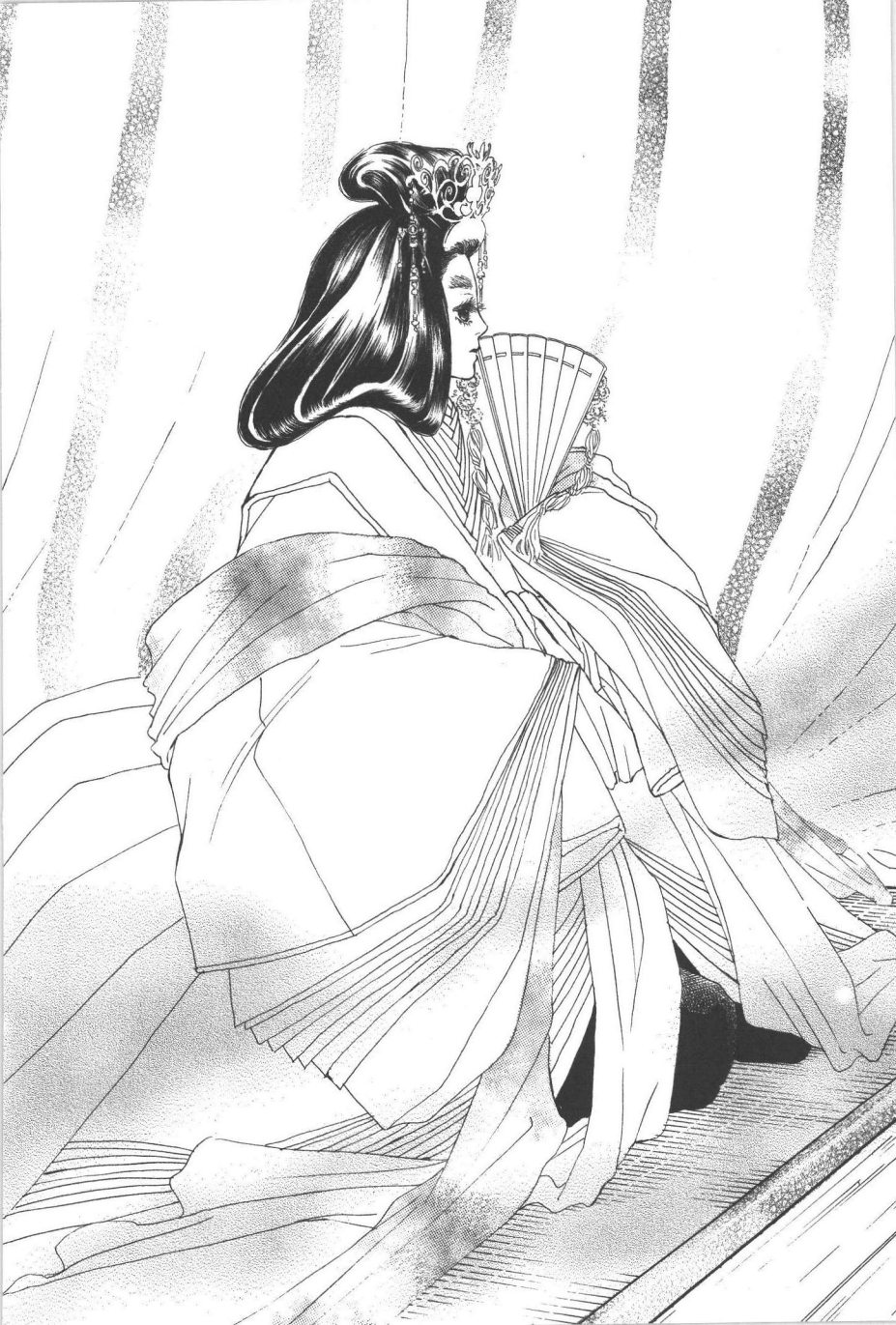

うん…いい
……いいな
これは大した
いい好(この)みだ
今夜はこちらで
仕切り直しとするか
ほんの一足
あゆみよるだけで
薫(ふすべ)の色が
変わる
上等な
香ならではだ
遠きには
苦(にが)みのあるつれない
薫煙(くんえん)
近づくたび
徐々に増してゆく
からさに熱くなる
やがてあふれる
とろけるような
濃厚な甘さ
ほのかに入りまじる
酔(すい)いと塩気(えんき)が
淫靡(いんび)で……


この香が
教えてくれる
極上の女が
この先にいると
……こりゃ
見すごせん
いつかに知った
香と似ている
……あの天女の香……
ああ……
これはいい
とろけそうだ
伴周！
伴周！
――十五年前　二条邸――


伴周あ！
ドッ
応爾さま
決まりましたか
ゴッ
おお!!
父帝の宣旨が
渡られた
兄の四の宮
が
東宮だ！
四の宮さまが……
あっ応爾さま
どちらへ！

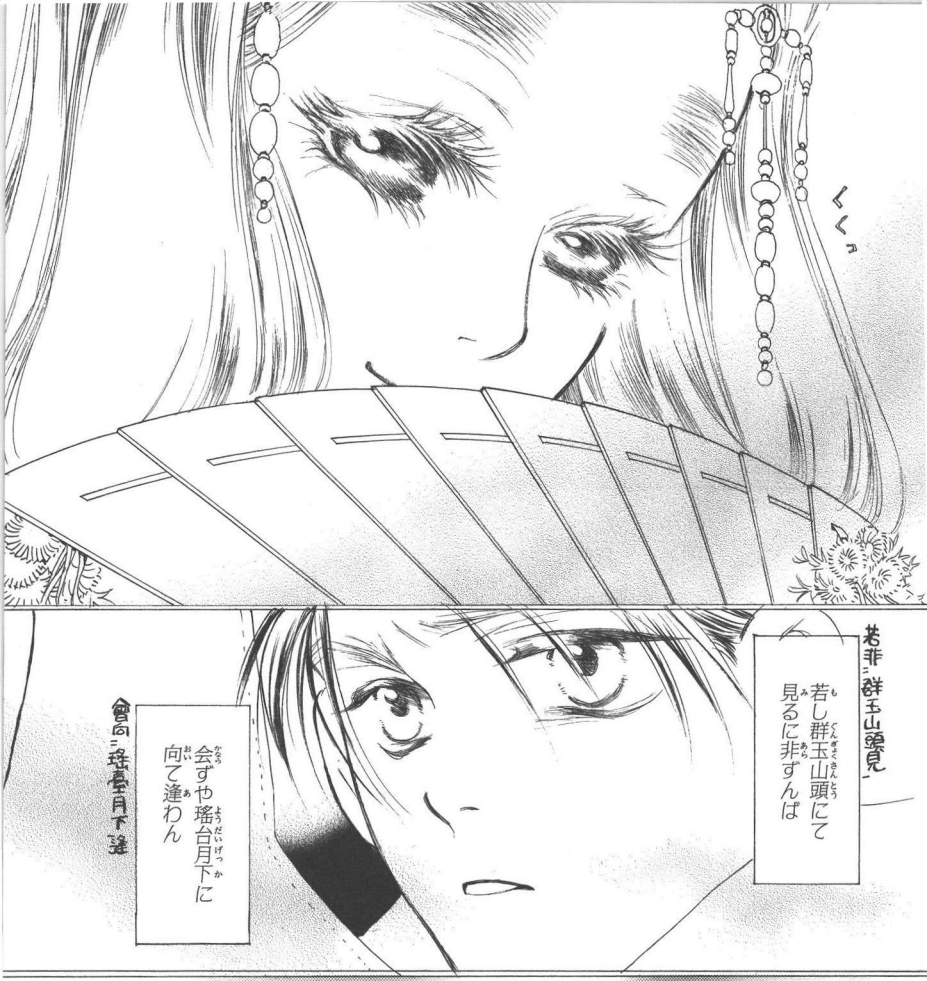

宣旨の君は
御所でも評判の
美女だとか！
透き見を
せずして
どうする！
ご兄弟もまだなのに
なにゆえここも
女好きでいらっしゃるのか…
……
お前も来い
伴周!!
もう……っ
ばたばたばた


良いか……
ここから
そうっと……
おお……！
応爾さま
しいっ……
ふ〜ぅ




唐の天女のようだな
ほー…
宣旨の君……
今上のお側近くに仕える三役の女房とはこういうものか
美々しい女房など見慣れているつもりだったのに
これは……


古の都を
思わせる物具装束
またこの
仙境の芙蓉のような
ふくいくたる香……！
宮中とは
このような世界か
このように
まばゆいものか……
兄宮はこれから
東宮御所に
うつられて
このような女官に
とりまかれて
すごされるのだなあ
……
……案外と
うらやましくない
ものだな
俺は
うらやましい
ですよっ
ヒソ
君のこういう
話だ
応援さえ東宮に
なりかえとりついでください
よ



このような美女は
しょせん下界の
ひとではない

群玉山の仙女か
はたまた
瑤台の仙女か……

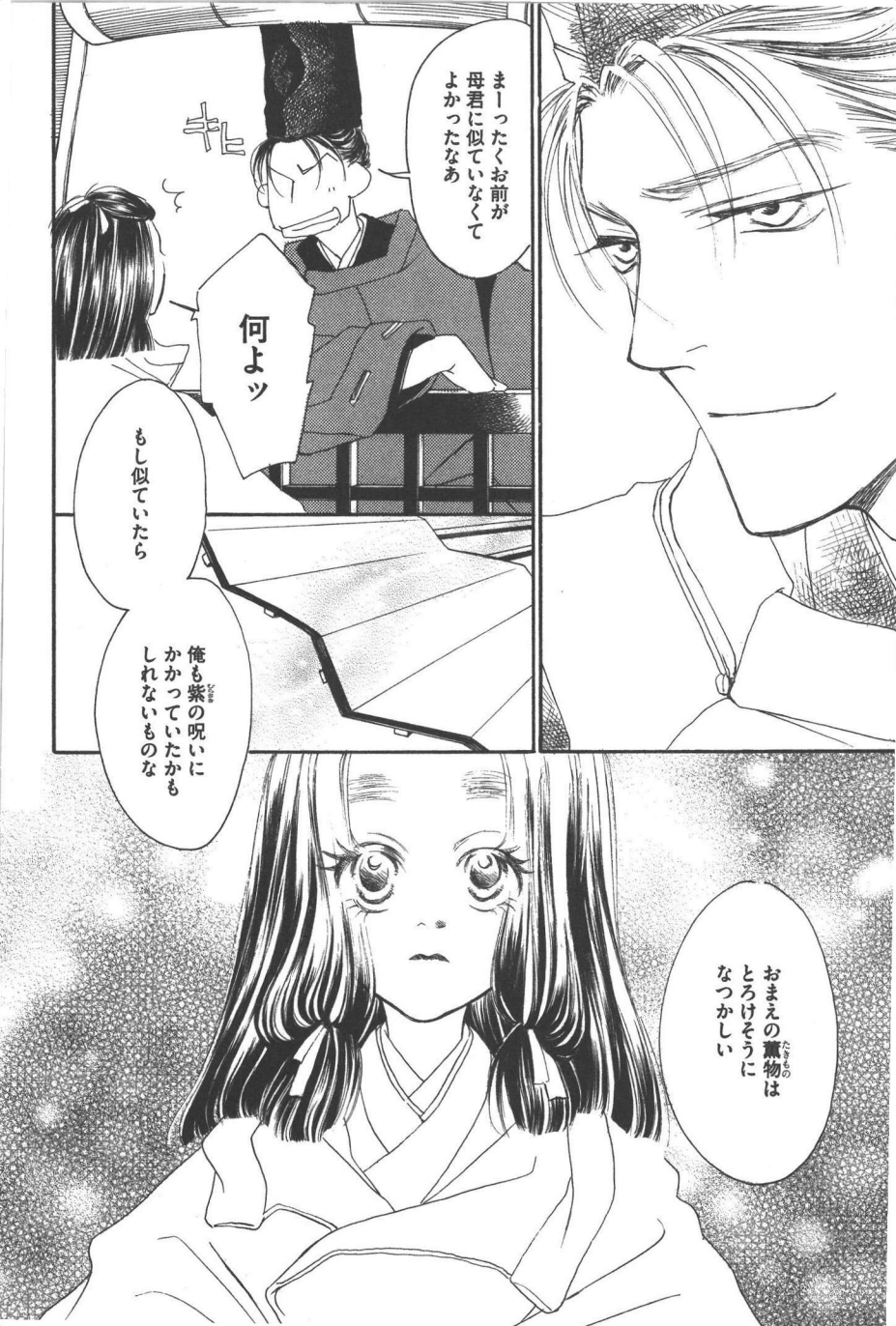
李白「清平調詞」


——思えば
あれが悪かったんだ
最上の花の香を
いちばん最初に
知ってしまった
かの物語の
光源氏(ひかるげんじ)とやらと
同じく
ほとんど
呪いと言っても
さしつかえないほどの
ほど
ほと
花の記憶
……どなた？


私は……
ひとしれず
……
あなたに恋を
していた者です……
伴周(ともちか)どの!?
たま君(き)……
こちらには今
わたくししか
いないわよ


ニヤ。
伴周どのが
若紫好みなんて
知らなかったわ
だーれーが
こんな鬼娘!!
いっそ源典侍のほうが
俺の好みだッ
伴周どのの年増好みは
よーく知ってますわよぅ
まったくおかあさまも
何だってこんな……
き・ち・が・い!!
※源典侍……光源氏が
関係をもつ初老の女人


はっ…
ぽん
……すまん
応輔さまの御用で
こちらの院御所に
うかがっていたのだが
小雨がおっくうで
帰りそこねた
少しばかり
のきを貸してくれ
どうせどこかの
浮かれた女房どのに
追い出されてきた
んでしょうけど
あいっっっかわらず
女人を見る目が
ありませんのね


まーったくお前が母君に似ていなくてよかったなあ
何よッ
もし似ていたら
俺も紫の呪いにかかっていたかもしれないものな
おまえの薫物はとろけそうになつかしい


……光る源氏の君でもないのにずうずうしいと言いたいけれど
……ええようございましたわね
ふくく
若紫好みに宗旨がえをしないですんで
どうせおかあさまには似ていません！
あっコラちょっと待て！
……たのむ
この香が消えるまで
ここにいさせてくれ

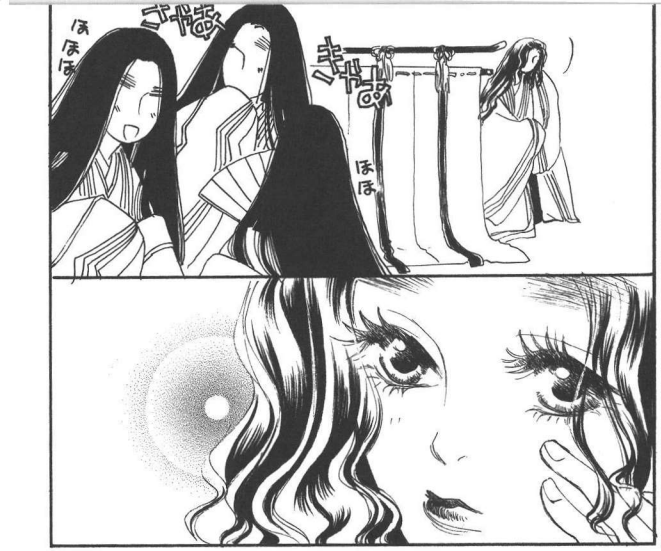

これは……たしかにおかあさまの秘伝の合わせ香だけれど
まだうまくいかないわ……何かが足りないの
ああ——……でも
宣旨の君に……よく似ているよ
おかあさまはじっくり月日をかけて香を熟成させていらしたわ……
たぶん寝かせ方が足りないのよ
そうか
きっと月日をかければ
宣旨の君のようになるよ


おかあさまとの
ふたつめのひみつ
ひみつの恋の
思い出…だったと
思う……
早く
大きくなれよ
たま君


思い出せないの
あの日から
おかあさまの
ひみつ
「ひみつよ」
「たま君」
あら
「ひみつ」
わたくし
源典侍になるほど
長生きしませんわよ
かぱ
応瀬さまに
お仕えする
〝鬼〟ですもの
「ひみつよ……」

第三話

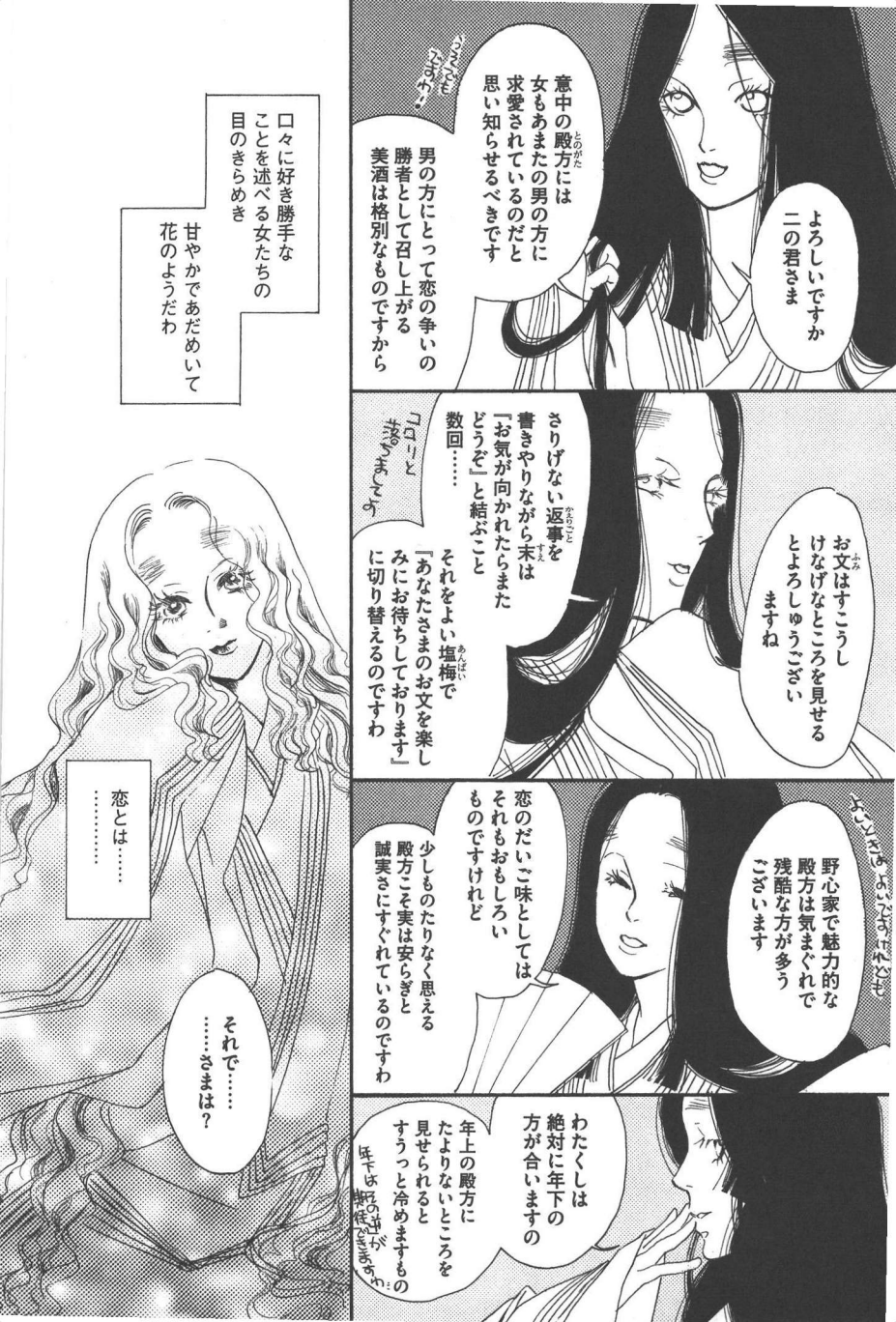

何もなかった
わたくしの日々に
予感と怯(おのの)きを
もたらした
あの小さな少年との
出会いを
恋と呼ぶのはふしぎかしら

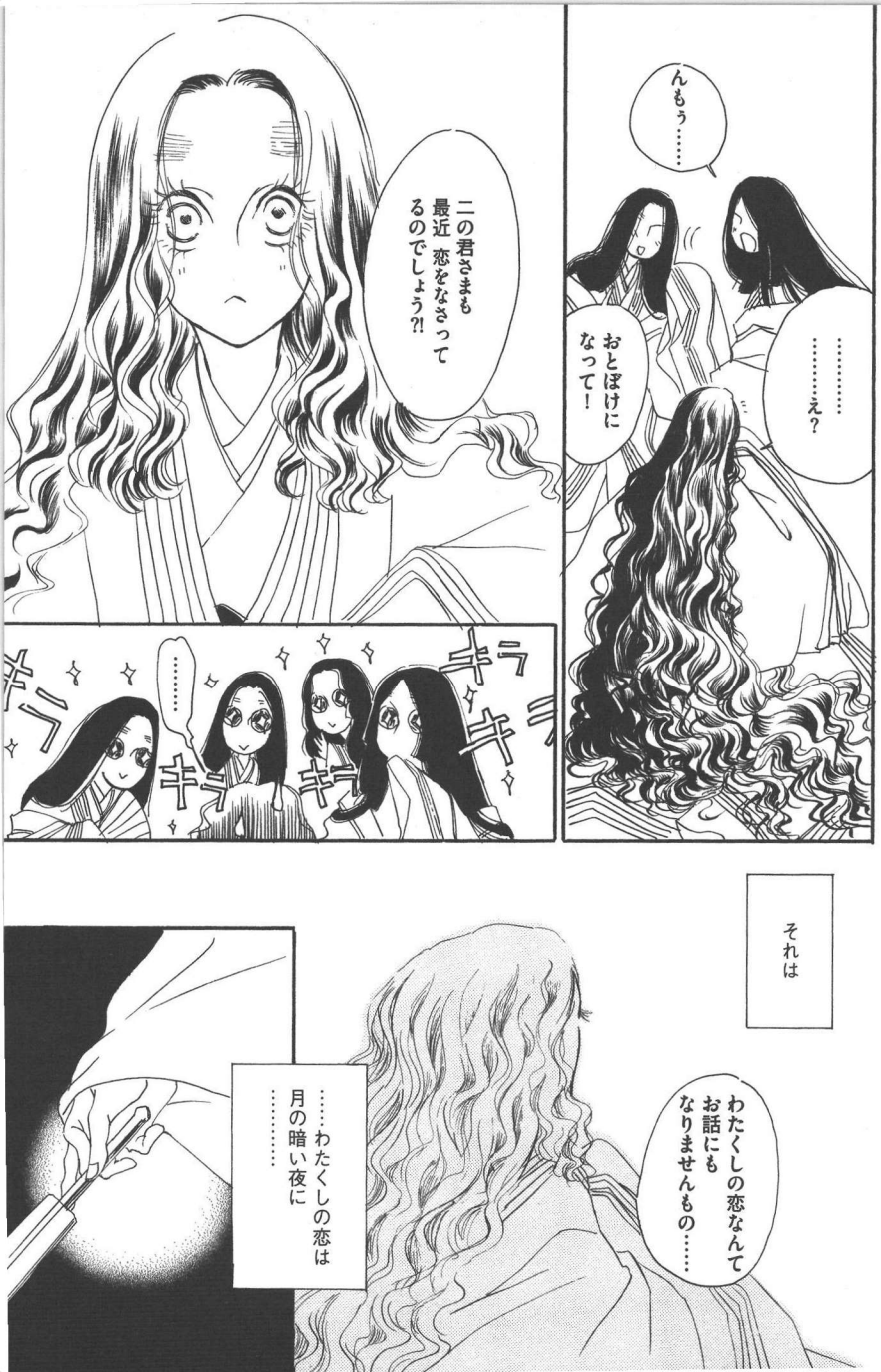

ほほほ
ほほほ
ほほ

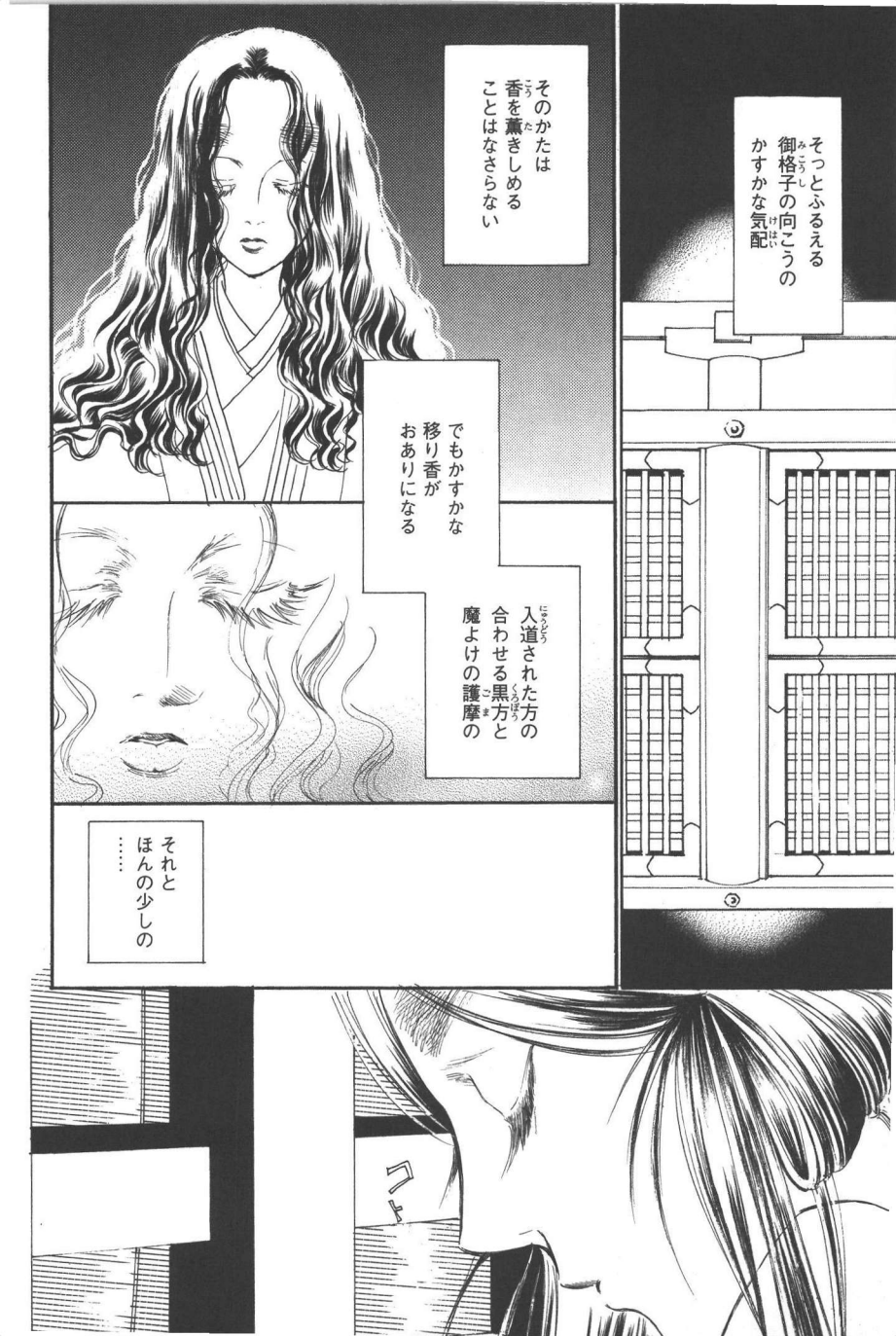



皆さん
なんのお話を
してらっしゃるの？
二の君さま…
んまっ
透子さま
二の君さまは
あまたの公達を
さらっとふっていらっしゃる
ほどのお方ですもの
よくしゃべる
わたくしの恋の話
なんてつまらなくて
お笑いになりますわ
何でも
ございませんわ
ただ
小少将さんが
恋人の君を
死ぬほど悩ま
せているのが
おもしろくて
いやだわ
少納言さんたら

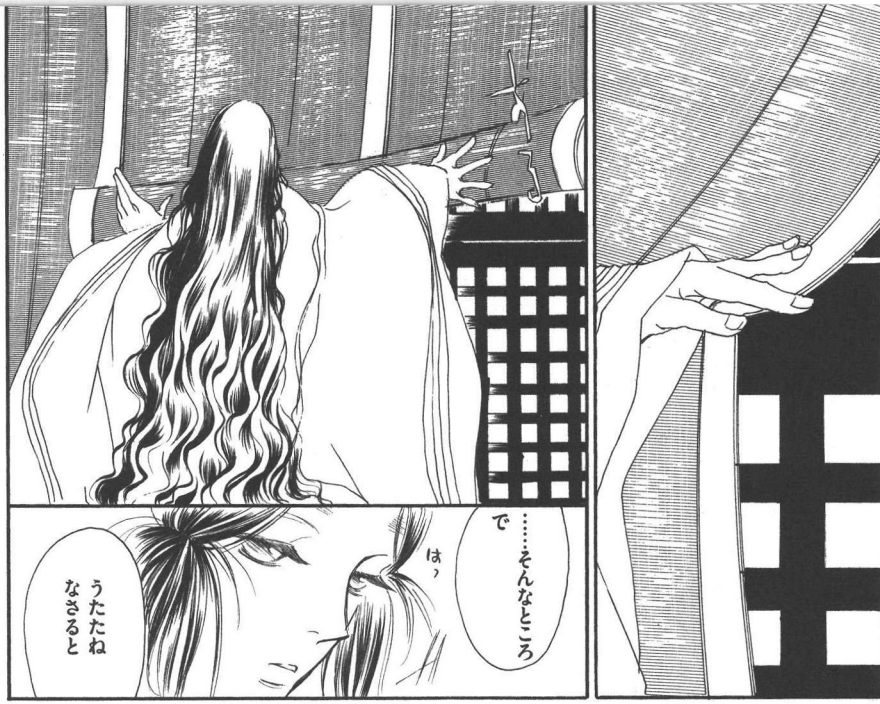

いいえ
とんでもないことよ
わたくしもぜひ
恋のお話聞きたくてよ
うふ
ほほ
ほほ
あら……
いやですわ
では始めから
お聞きに
なります？
まあ
ほんとうは
話したくて
仕方ないのよ
小少将さんは
ほら以前は
つまらないおしゃべり
に聞こえていたものが
突然含蓄のある
博士の言に
思えてきているのだもの
何とあまたの女が
あまたの恋をして
あまたの恋の金言を
たくわえていること！


よろしいですか二の君さま
意中の殿方には女もあまたの男の方に求愛されているのだと思い知らせるべきです
おそろしいですか？
男の方にとって恋の争いの勝者として召し上がる美酒は格別なものですから
お文はすこうしけなげなところを見せるとよろしゅうございますね
さりげない返事を書きやりながら末は「お気が向かれたらまたどうぞ」と結ぶこと数回……
コロリと落ちますわ
野心家で魅力的な殿方は気まぐれで残酷な方が多うございます
よいさまよいでございますね
恋のだいご味としてはそれもおもしろいものですけれど
少しものたりなく思える殿方こそ実は安らぎと誠実さにすぐれているのですわ
わたくしは絶対に年下の方が合いますの
年上の殿方にたよりないところを見せられるとすうっと冷めますもの
年下は期待の星がきらめいて
口々に好き勝手なことを述べる女たちの目のきらめき
甘やかであだめいて花のようだわ
恋とは……
……
それで……
……さまは？


んもう……
おとぼけになって！
……え？
二の君さまも最近 恋をなさってるのでしょう?!
キラ
キラ
キラ
キラ
……
それは
わたくしの恋なんてお話にもなりませんもの……
……わたくしの恋は月の暗い夜に……


そっとふるえる
御格子の向こうの
かすかな気配
そのかたは
香を薫きしめる
ことはなさらない
でもかすかな
移り香が
おありになる
入道された方の
合わせる黒方と
魔よけの護摩の
それと
ほんの少しの
……
コト

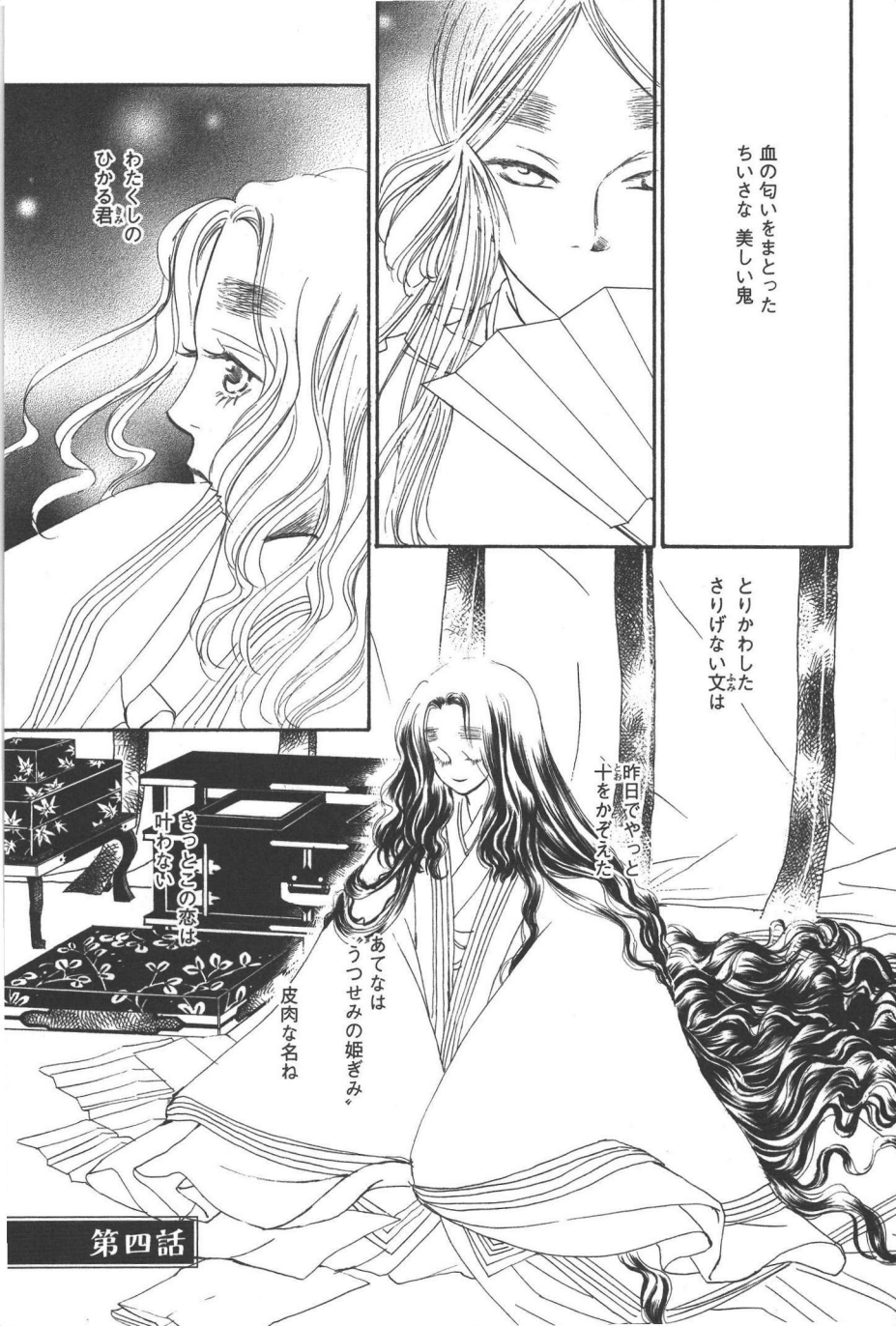

あたらしい
血のしずくのにおい
灯に灼かれる
夏虫のように
そのかたに
引きよせられる
いいえ
分かっているの
このかたは
……





この底知れぬ予感と
怯きを……

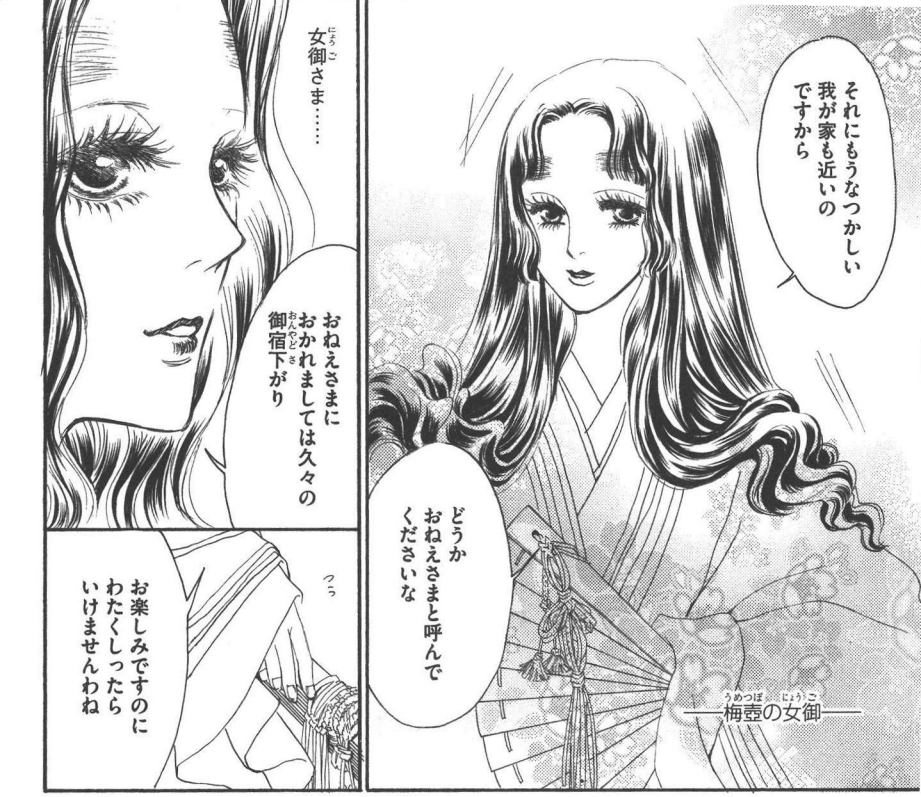
恋と呼ぶのは
おろかしいかしら

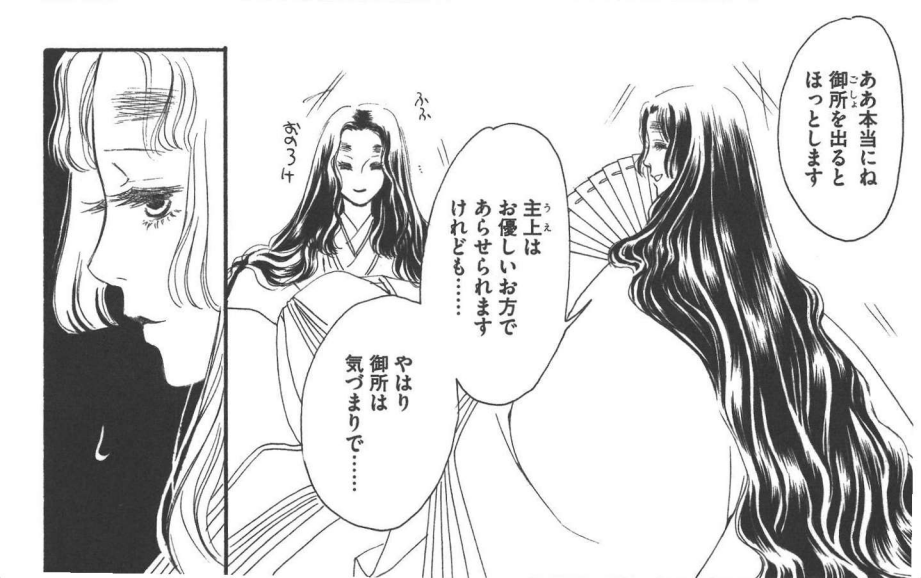

血の匂いをまとった
ちいさな 美しい鬼
とりかわした
さりげない文は
昨日でやっと
十をかぞえた
あてなは
〝うつせみの姫ぎみ〟
皮肉な名ね
わたくしの
ひかる君
きっとこの恋は
叶わない
第四話

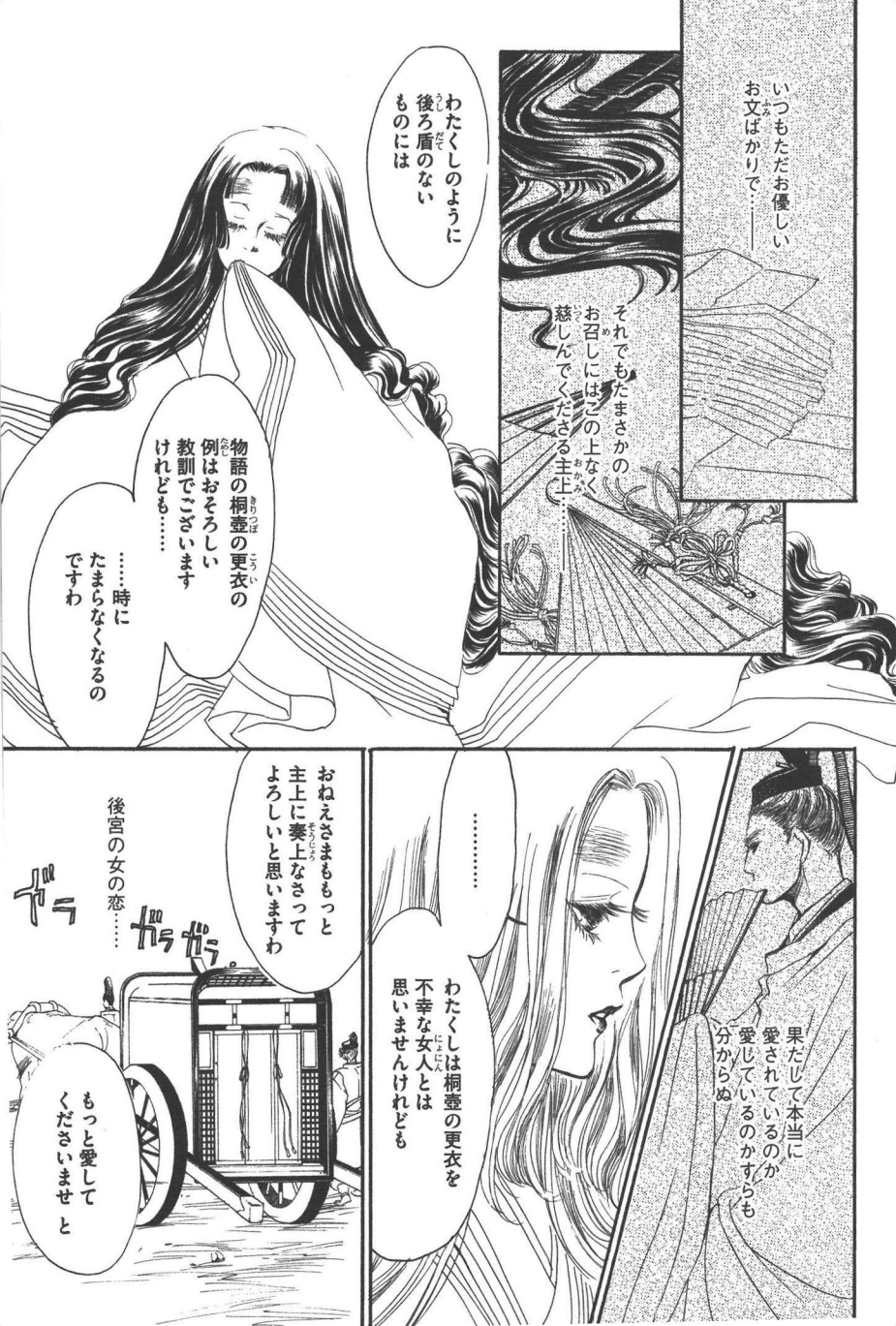
第四話

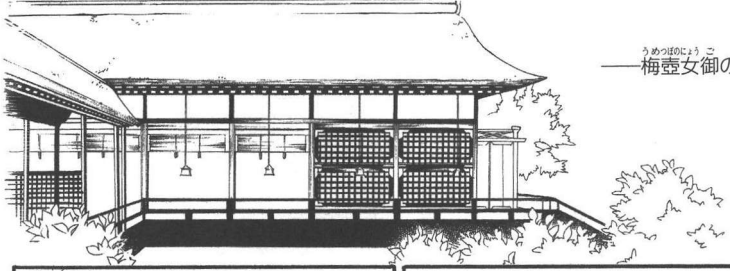



ゴトゴト
二の君……
……透子どの！
はっ
……梅壺の女御さま
どうしましたため息ばかり……

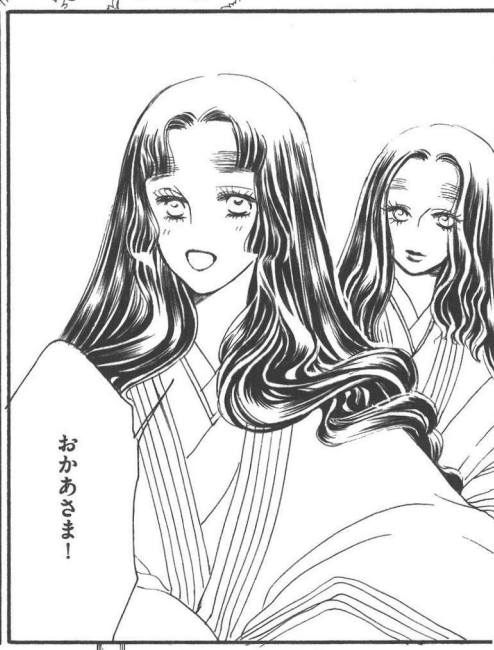

それにもうなつかしい
我が家も近いの
ですから
どうか
おねえさまと呼んで
くださいいな
女御さま……
おねえさまに
おかれましては久々の
御宿下がり
お楽しみですのに
わたくしったら
いけませんわね
——梅壺の女御——


ああ本当にね
御所を出ると
ほっとします
主上は
お優しいお方で
あらせられます
けれども……
やはり
御所は
気づまりで……
ふふ
おのろけ

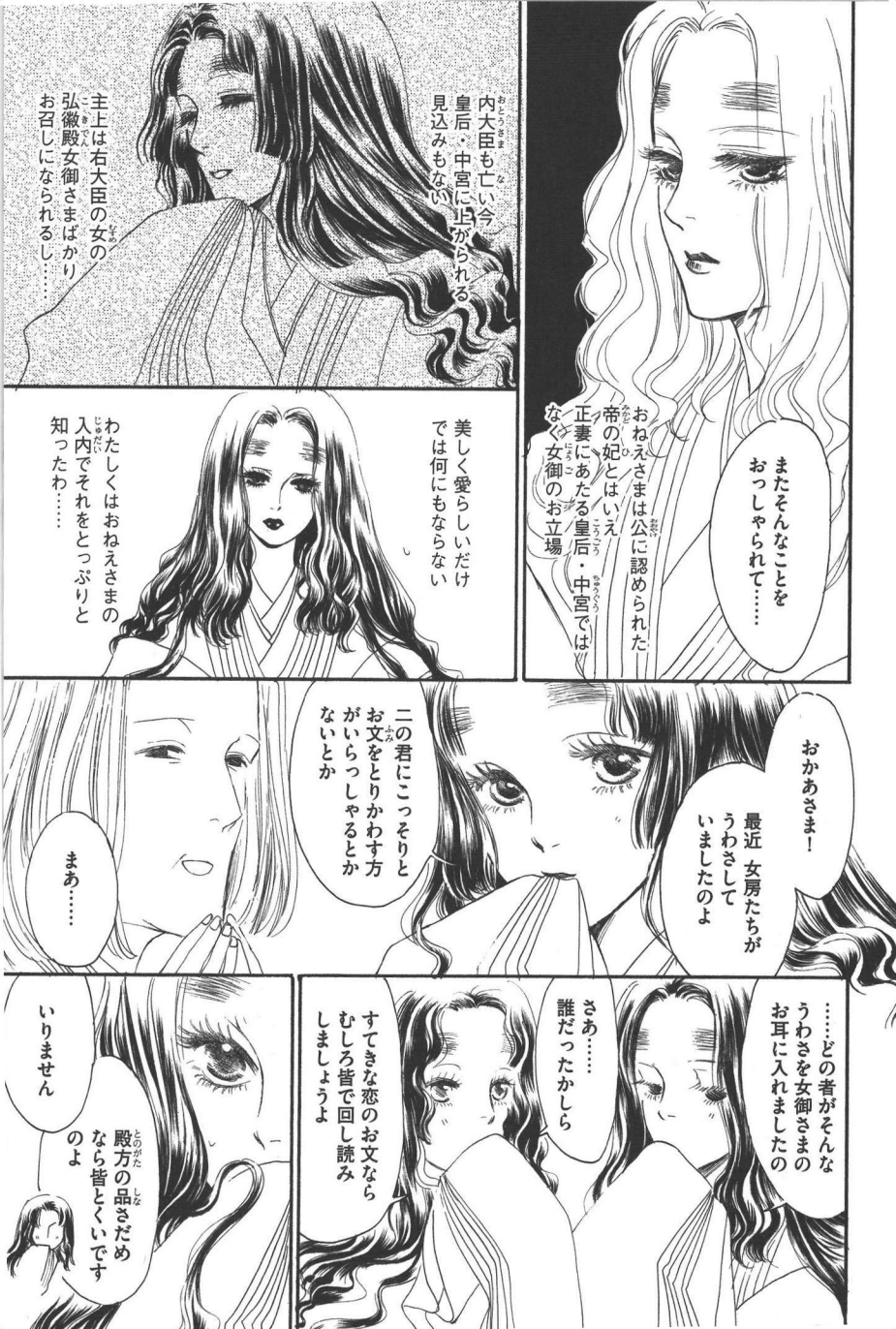

いつもただお優しい
お文ばかりで……
それでもたまさかの
お召しにはこの上なく
慈しんでくださる主上……
わたくしのように
後ろ盾のない
ものには
物語の桐壺の更衣の
例はおそろしい
教訓でございます
けれども……
……時に
たまらなくなるの
ですわ
果たして本当に
愛されているのか
愛じているのかすらも
分からぬ
……
わたくしは桐壺の更衣を
不幸な女人とは
思いませんけれども
おねえさまももっと
主上に奏上なさって
よろしいと思いますわ
後宮の女の恋……
ガラ
ガラガラ
もっと愛して
くださいませ と

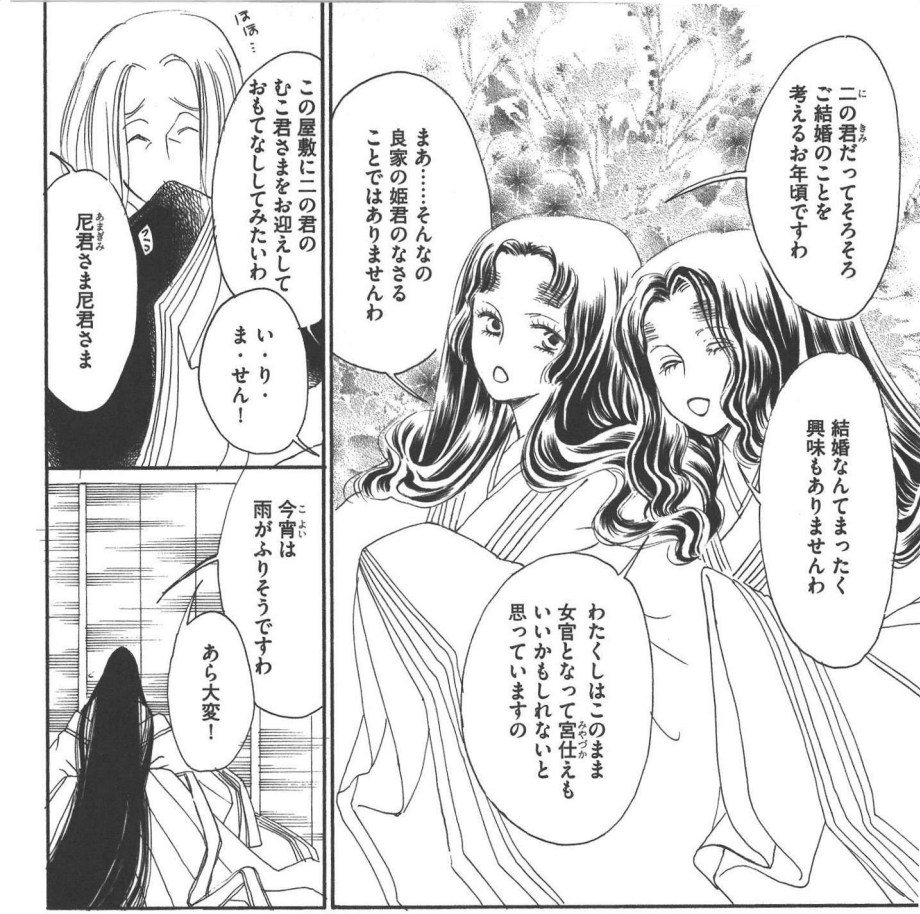


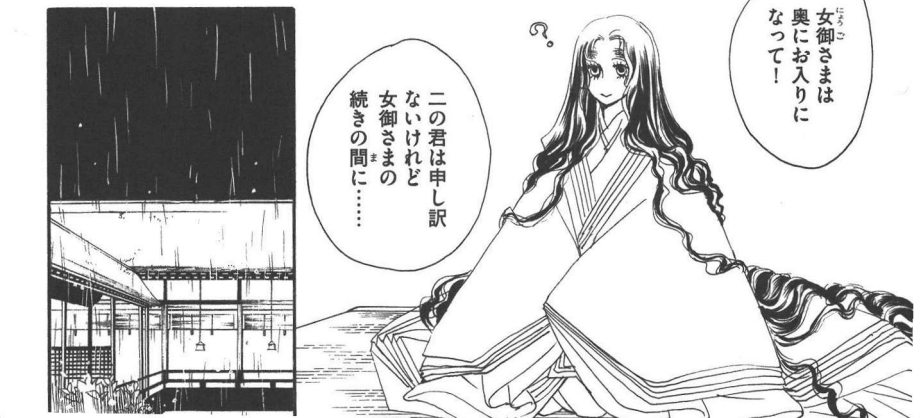

女御さま
お帰りなされませ
二の君も
お疲れさまです

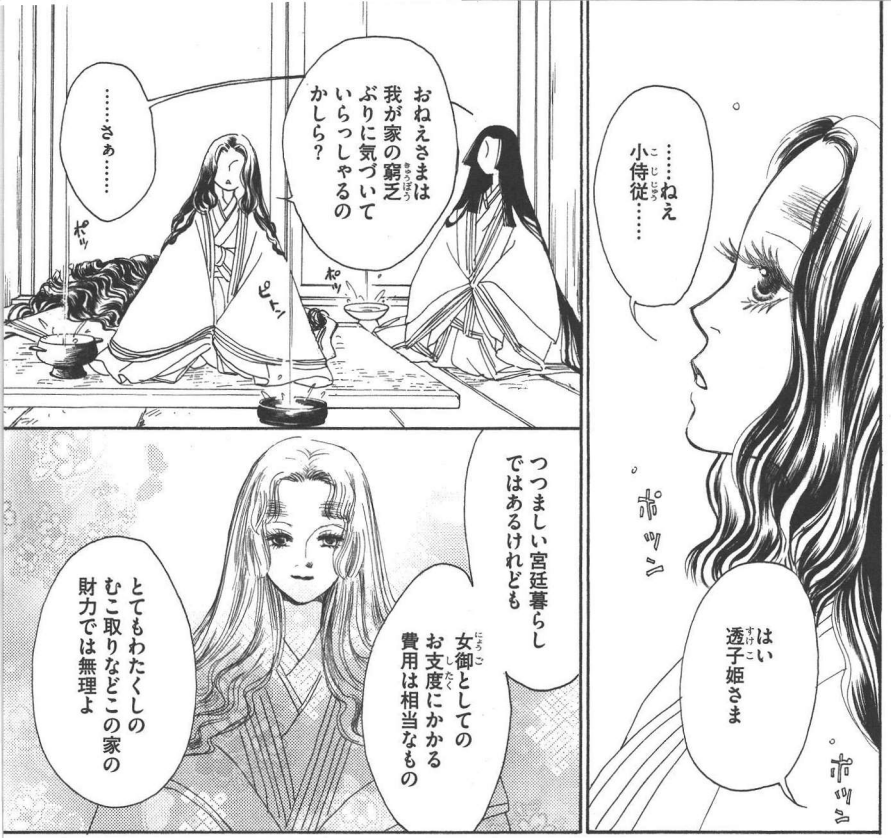

おかあさま！


うれしいこと
ゆっくり
くつろがれて
下さいませね
あまりゆっくりも
できませんわ
主上がお忘れに
なってしまわれます
もの


またそんなことを
おっしゃられて……
おねえさまは公に認められた
帝の妃とはいえ
正妻にあたる皇后・中宮では
なく女御のお立場
内大臣も亡い今
皇后・中宮に上がられる
見込みもない
主上は右大臣の女の
弘徽殿女御さまばかり
お召しになられるし……
美しく愛らしいだけ
では何にもならない
わたしくはおねえさまの
入内でそれをとっぷりと
知ったわ……
おかあさま！
最近 女房たちが
うわさして
いましたのよ
二の君にこっそりと
お文をとりかわす方
がいらっしゃるとか
ないとか
まあ……
……どの者がそんな
うわさを女御さまの
お耳に入れましたの
さあ……
誰だったかしら
すてきな恋のお文なら
むしろ皆で回し読み
しましょうよ
殿方の品さだめ
なら皆とくいです
のよ
いりません


二の君だってそろそろ
ご結婚のことを
考えるお年頃ですわ
結婚なんてまったく
興味もありませんわ
まあ……そんなの
良家の姫君のなさる
ことではありませんわ
わたくしはこのまま
女官となって宮仕えも
いいかもしれないと
思っていますの
ほほ…
この屋敷に二の君の
むこ君さまをお迎えして
おもてなししてみたいわ
い・り・
ま・せ・ん！
尼君さま尼君さま
今宵は
雨がふりそうですわ
あら大変！

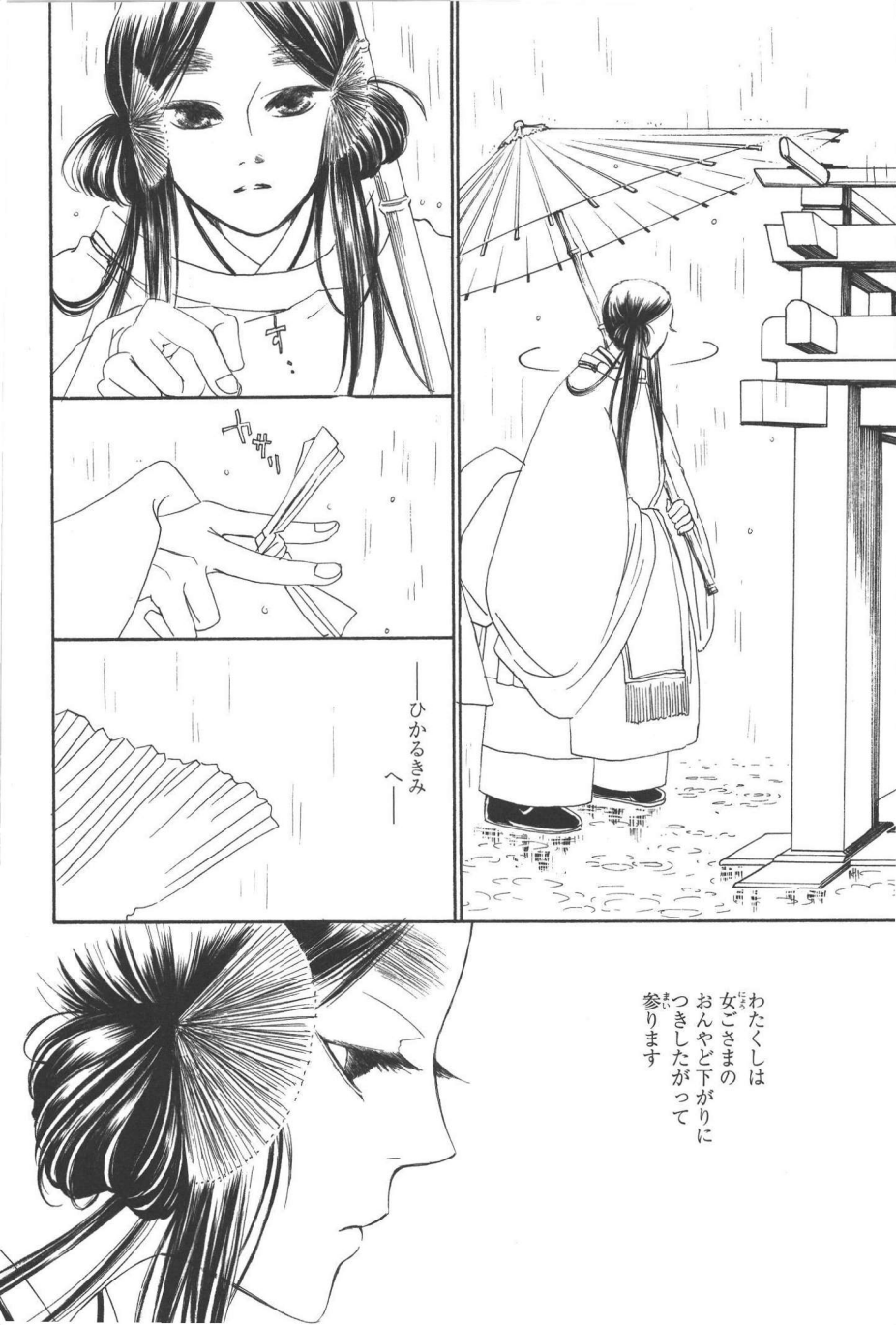

女御さまは
奥にお入りに
なって！
二の君は申し訳
ないけれど
女御さまの
続きの間に……


……ねえ
小侍従……
ポッ
はい
透子姫さま
おねえさまは
我が家の窮乏
ぶりに気づいて
いらっしゃるの
かしら？
……さぁ……
ポッ
ピン
つつましい宮廷暮らし
ではあるけれども
女御としての
お支度にかかる
費用は相当なもの
とてもわたくしの
むこ取りなどこの家の
財力では無理よ


並大抵のお志の
殿方と恋をしても
この家を見たら
きっと逃げ出して
しまわれるわね
そうして私は
うち捨てられ
老いていくのだわ
……
姫さま！
身よりのない恋人を
みな引き取って
大切にされた源氏の
大臣の例も
ございますれば
物語の
中にはね
そんな殿方も
いらっしゃるわけ


わたくしはおとぎの夢は見ません
内侍所の女官にでもなってひとりで生きてゆきたいわ……
物語の空蝉の君はやはりこうして伊予介の妻になったけれど
後宮への入内を望めるほどの姫君だった空蝉の君が……
ご実家がおとろえてお金もちとはいえ身分ちがいの老人に嫁いで
そして貴公子のひかる源氏の君と……
たった一夜の恋をしてその思い出を胸に……
そんな女にはなりたくない
ひめさま……
ひめさま！


何だか
雨の夜というのに
灯も侍も
少のうございます
……家人もずいぶん
少なくなって
しまったのね
いまこの家には
女御さまも
いらっしゃるのに
明日
わたくしのお道具を
売り払ってでも
侍をととのえて
家を守らなく
てはね
姫さま……
凝華舎（梅壺）


すっ
ヤサッ
――ひかるきみへ――
わたくしは
女ごさまの
おんやど下がりに
つきしたがって
参ります

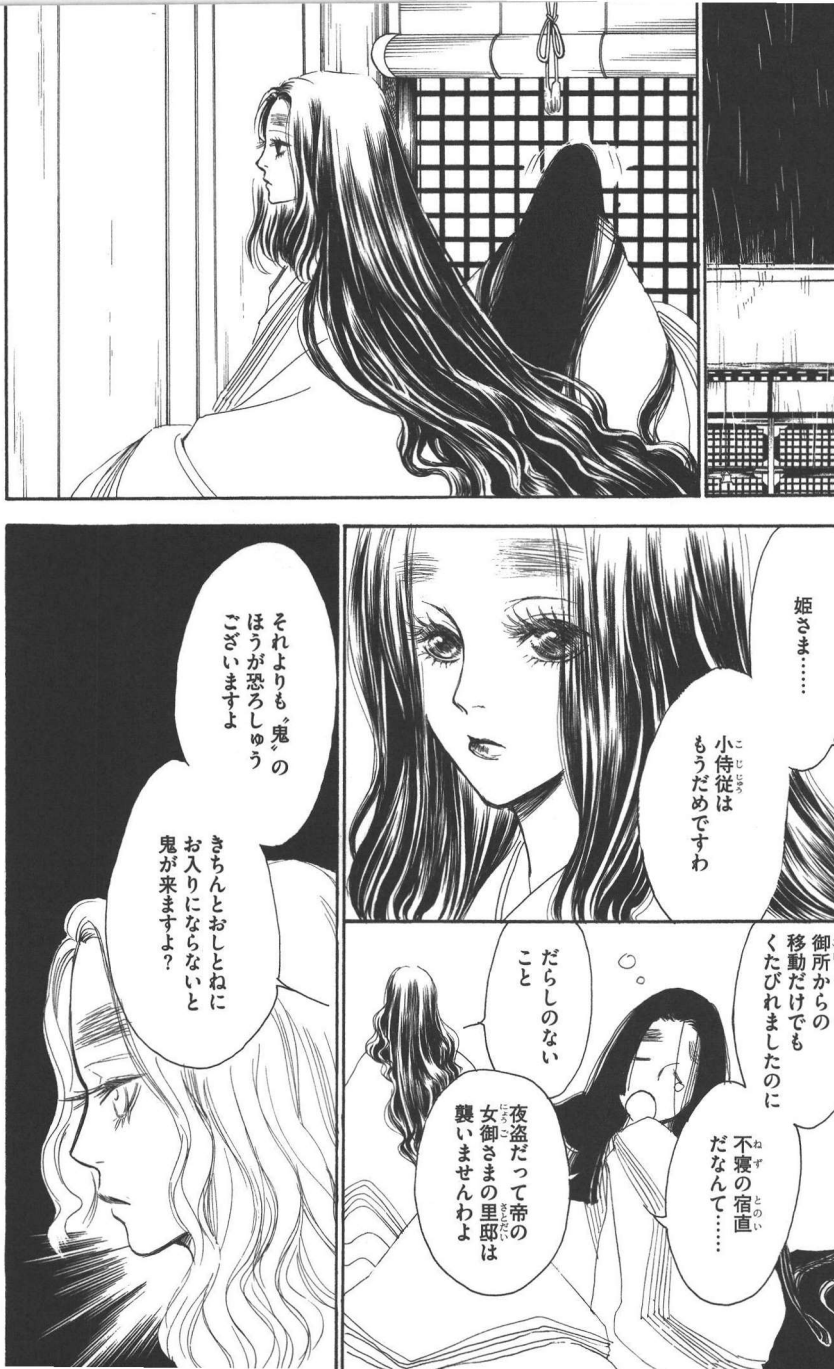

——八の宮邸——
……最近 京に
夜盗が多く
出るようだな
大貴族どもは
ずいぶん強引に侍を
集めて邸を
守らせているらしい
当家の有する
私兵にも
ずいぶん申し入れが
ございます
侍として
借り受けたい
と……
高く貸してやれ
伴周
かといって
我が家の守りも
絶やすなよ


京を騒がせる
盗賊どもが有難いな
侍は多いほど
いい
この不安にかこつけて
我が屋敷も侍を
つのるとしよう
わかりました
京にはずいぶん
夜盗が多く
出るようだな
右衛門佐
宮中宿直所


ああ……
〝鬼〟だけでも
忙しいのに
夜盗までと
来たもので
検非違使庁は
てんやわんやですよ
……〝鬼〟ね
夜盗に備えての
侍あつめに
かこつけて
まるで強大な
私兵の集団を
屋敷にもつ貴族
たちも出てきている
屋敷を私兵で
固めてやんちゃを
された花山法皇の
例もあるけど……
……何となく
似たような話を
聞かないでも
ないね？
……雨夜の
宿直といえば
女人の品さだめと
決まっているのに
なあ
話が固い
固い！
さあ頭中将
何か女の話は
ありませんか
い…いや
俺は……


兄上はてんでだめですよ
別にそんなんじゃないぞ
女人への理想が高すぎるんですよ
それよりも夜盗の警戒に…
やはり石頭の中将には雲居の雁の姫のような幼なじみでもいなければ
いやぁ あいにく兄上にはおりませんので宇治にでもひとっ走り行ってやぶれた宮家に……
もてあそびおってぇ
……
……じゃあどんな女がいいんです？
吐け
……
貧乏を知っている女ですかね


天下に並びなき
右大臣家の貴公子が
なぜ？
末摘花のことか？
本気か!?
あ――…
…まあね
ちょっと
思うところが…
むしろぜいたくが
義務だ！
どんなぜいたくも
思いのままでしょう!?
俺の勝手
でしょう
すこし外に
出て来ます
あっコラ
待て！
……何か
いやな夜だな……


姫さま……
小侍従(こじじゅう)はもうだめですわ
御所(ごしょ)からの移動だけでもくたびれましたのに
不寝(ねず)の宿直(とのい)だなんて……
だらしのないこと
夜盗だって帝の女御(にょうご)さまの里邸(さとだい)は襲いませんわよ
それよりも〝鬼〟のほうが恐ろしゅうございますよ
きちんとおしとねにお入りにならないと鬼が来ますよ?

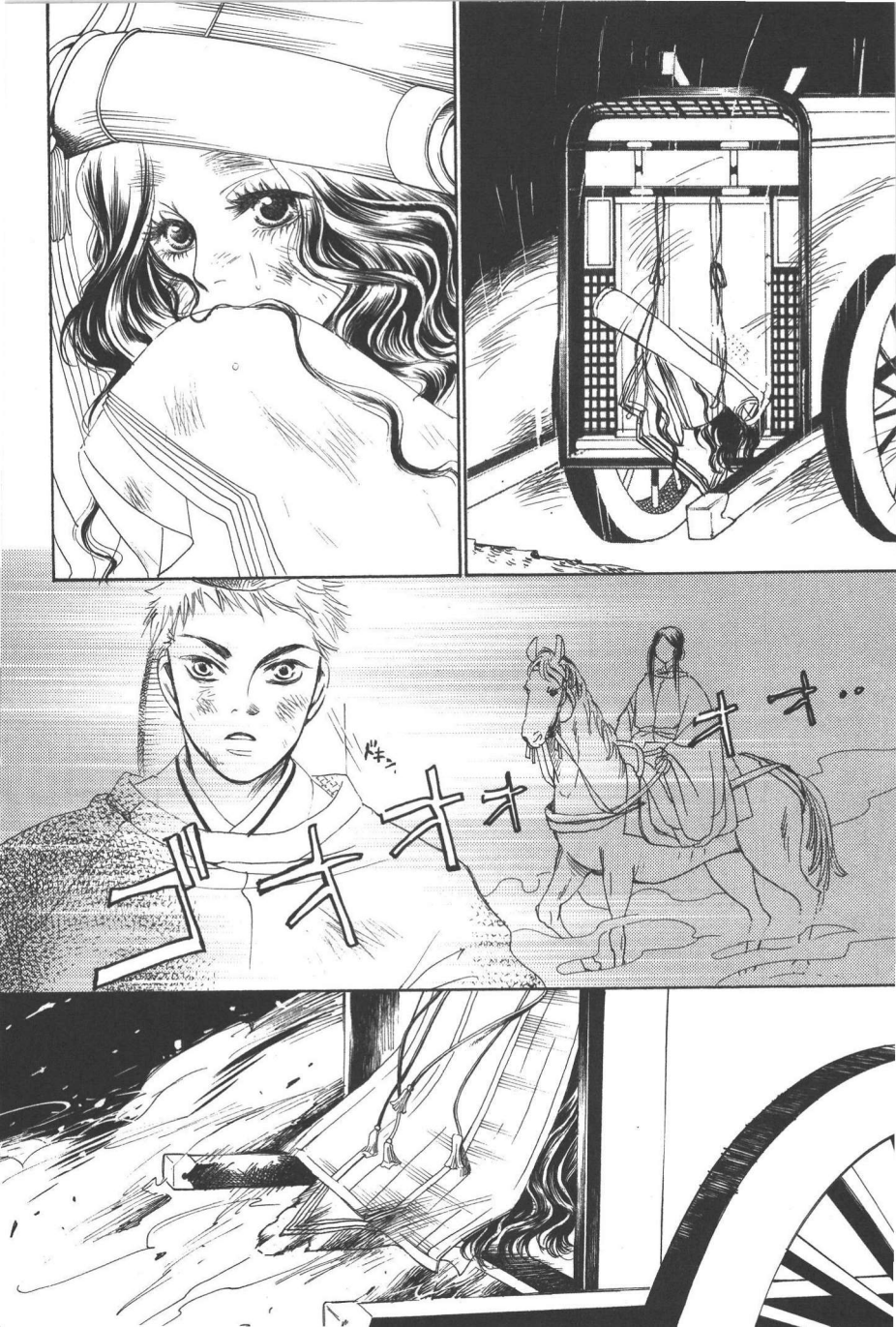

ねぇ 小侍従……
……あら
……
すー
――鬼は
こんな無防備な邸にならば
あの美しい鬼は
朝までもいてくれるかしら
小侍従！
恋人が参りましたわよ（嘘）
ひ…
ひめさま
朝ぼらけがうらめしいほどの恋人よ さあ朝まで……
すー


朝焼け？
まさか
違う
つけ火だ
火が
出たぞう——
女御さまと
尼君さまを
お車に!!
早く!!


ダダダダダダ
梅壺女御さまの
里邸につけ火！
女御さまの
ご無事を確かめよ！
小鬼丸
あぶないよ!!


ヒヅ
パン
小鬼……
んもう！
つけ火だと!!
夜盗か……
それとも
女御さまを
お恨み申し上げる
者か……！


小鬼丸……
あの公達！
右大臣家の
頭中将じゃない……!?

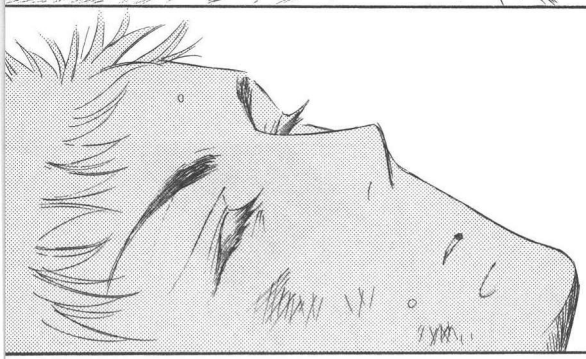

ゴオオオ
ドキン
オオオオ・・


美しい……
応爾さま
……無事に火は収まった模様です
けが人もほとんど出ずに済みました
そうか
……世の声は梅壺女御への同情に傾いております
つけ火は弘徽殿の……右大臣家のしわざという噂も……
流してきたのか？
流して参りましたとも！

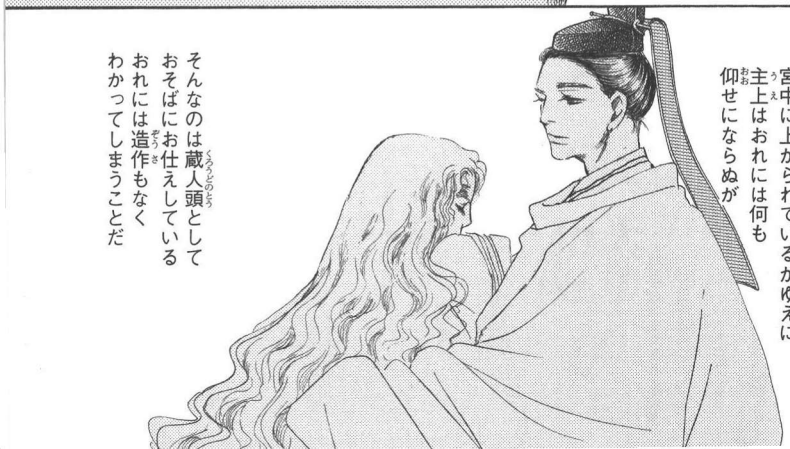

ご満足ですか
宮
そう怒るな
伴周(ともちか)
時至るまでの
ほんのわがままよ
今上帝(あにみや)よ
この炎は
内裏(だいり)からも
ご覧あそばされるか
ご覧あそばされよ

第五話

三条の前内大臣邸
――梅壺の女御の里邸への
つけ火は
邸のほとんどを焼き尽くして
鎮火した

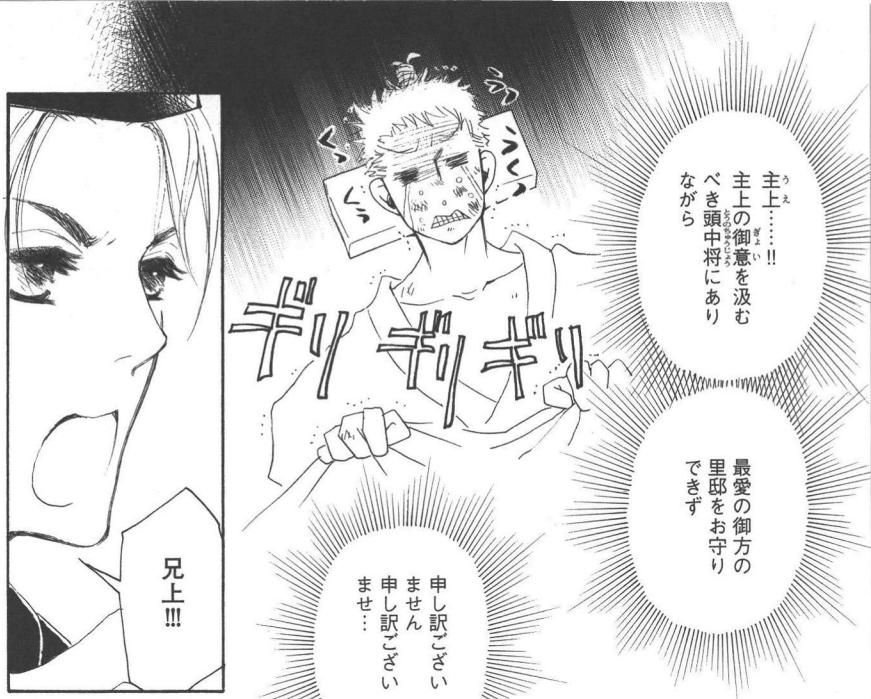


梅壺の女御は
今上帝の
最愛の妃であられる

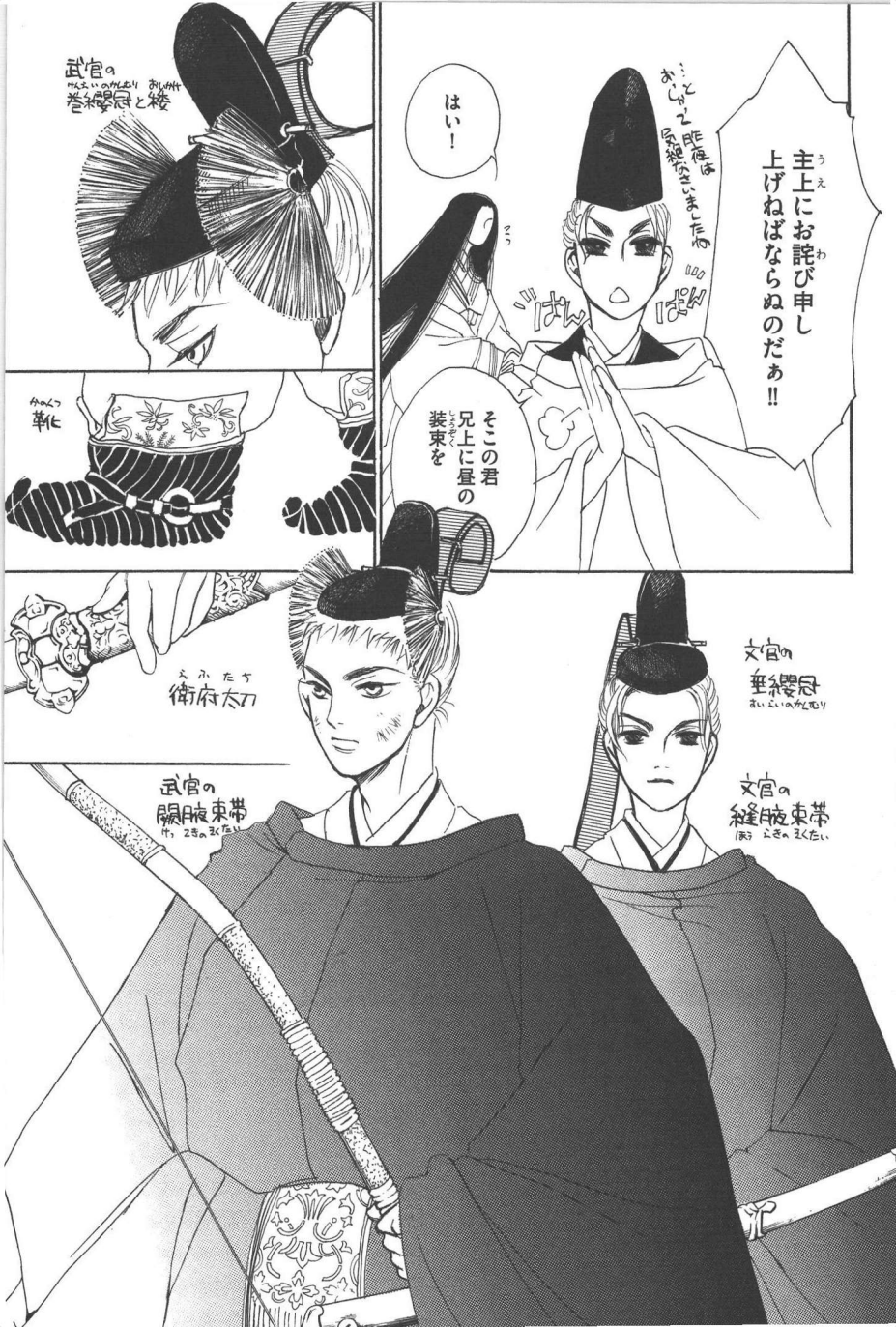


我が姉上もまた
弘徽殿の女御として
宮中に上がられているがゆえに
主上はおれには何も
仰せにならぬが

そんなのは蔵人頭として
おそばにお仕えしている
おれには造作もなく
わかってしまうことだ


主上……!!
主上の御意を汲むべき頭中将にありながら
最愛の御方の里邸をお守りできず
申し訳ございません
申し訳ございません…
ギリギリギリ
兄上!!!


純冬……?
は、
ようーやく起きましたね兄上
……本日の参内はおあきらめになるので?
行く……!
行くぞ、弟よ!!


主上にお詫び申し
上げねばならぬのだぁ!!
ごしゅう泥酔なさいましたね
はい!
そこの君
兄上に昼の
装束を
武官の
巻纓冠と緌
沓
衛府太刀
文官の
垂纓冠
武官の
闕腋束帯
文官の
縫腋束帯



地方においては
受領と呼ばれる
地方官僚たちが
政を担って
いた

彼らの多くは
何らかの形で
大貴族の系累
の下にいるのだが

いつの世も
出世と権力が
全てと考える
人間ばかりではない


——そんな人間ばかり
ではないと
考えなければ
帝(みかど)は
気が狂うだろう
それでは
来年度の予算
編成につきまして
……の大納言(だいなごん)
の意見……
……の大臣の
意見……
主上(うえ)はいかが
思(おぼ)されますか？


閣議では階位の低いものから順に発言いたすのが慣例でございますが……
このたびは全ての案が右大臣どののご意見にみごとに集約され
まことに諸官一同の一致をここに見たと感に堪えません
いやはや皆同じように憂えておったのだと私も嬉しいです
あとは主上のご英断を
待つばかりでございますが……
ゴホ。。
……そのように
狸じじいどもめ御前閣議などと名ばかりで
全て根回しと策謀の上に決まっているのだろうに
では主上の仰せのとおりに


帝……今上帝
主上……
何と呼ばれようとも
至尊の地位と
あがめられても
では来年度の
予算案は
このように
まとまったと
いうことで！
いやぁ肩の荷が
おりたわい
右大臣……時の権力者
この老人の前で私は無力だ
お疲れさまで
ございました
幼い子供の
頃から……
……この尊い御簾の
中に囚われている


火事は恐ろしゅうございましたが
みな無事にございました
大御心をおさわがせいたしまして申し訳もございません
今はただ……
主上の広いおそでを
恋しく思い申し上げるばかりです

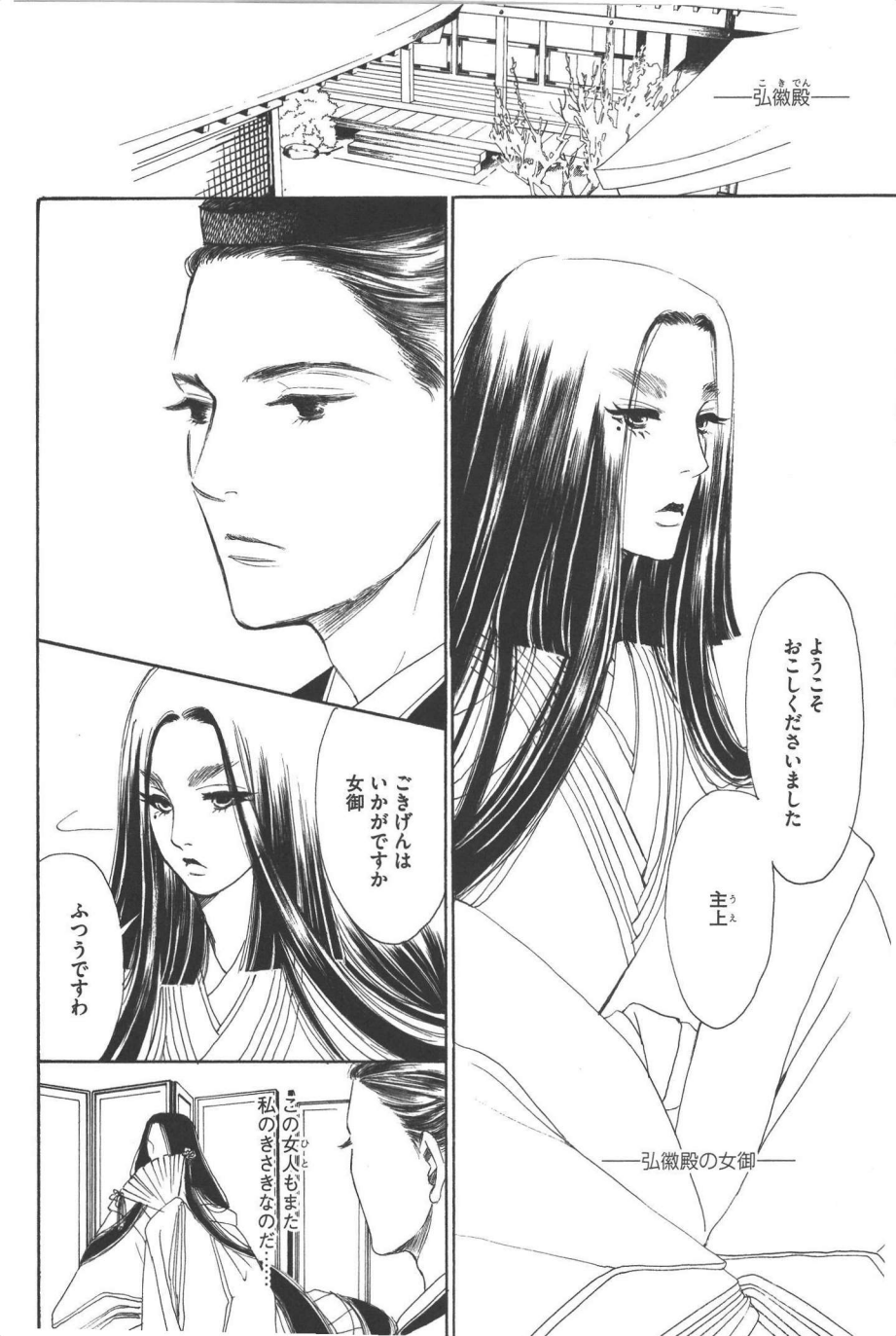

お返事は
どうぞお遣わしくださいますな
宣旨の方をお迎えするには
いま身を寄せている家は
あまりにもちいさいのです
梅壺の女御……
……あわれな弱い……
やさしい女
身を寄せている
のは
さる受領の屋敷とか
——仮にも
帝の妃が……
今すぐにでも
宮中に呼びよせたいが
もはや入内のしたくも
ままなるまい
誰かに世話をさせても
いいが
右大臣が黙っておらぬ
だろう
……私には
何もできぬ……
あぁ……


自ら望んで
至尊の冠を得たのに……
女ひとりも
救えぬとは……
帝位とは何と……
息苦しいものか……
主上……
主上！
お玉体のお具合が悪くてあそばしますか？
頭中将どのが
先ほどから控えの
間にお待ちですが
いかがいたし
ましょうか……


右大臣の三の息子
頭中将藤原夏政
……さすがに
仕事熱心なことだ
石頭の中将と
呼ばれるだけはあるね
今日くらい殿上を
休んでもそしられぬ
だろうに
昨夜の火事の
件については
まことにご苦労
であった
いえ……！
梅壺の女御さま
のお屋敷を
守れず……！
おそれおおくも
帝の御意を担い
手となり足となるべき
蔵人頭として
申し訳も
ございません……!!


いい男だ
——まじめで実がある
右大臣の一の息子でなく
弘徽殿の女御の弟で
なければ
——そして私が
ただの親王でも
あったならば
この男とは心からの
友となれたのだろうな
『梅壺の里邸につけ火をしたのは——…右大臣の意の者か？』
ゴホッ
その方に
何も罪は……
主上……！


下がれ！
何でもない！
梅壺への私の寵愛を
覚れば右大臣ならば
やる
それを私が疑っている
ことをこの男に
知られてはならぬ……！
中将……！
はっ……
弘徽殿のもとへ
ゆこう……お前の姉君だ
ついて参れ
はい…しかし
……もったいない
仰せに
ございます
昨日の火事に
弘徽殿も怯えて
おられるだろう
姉君が
お気の毒ではないか

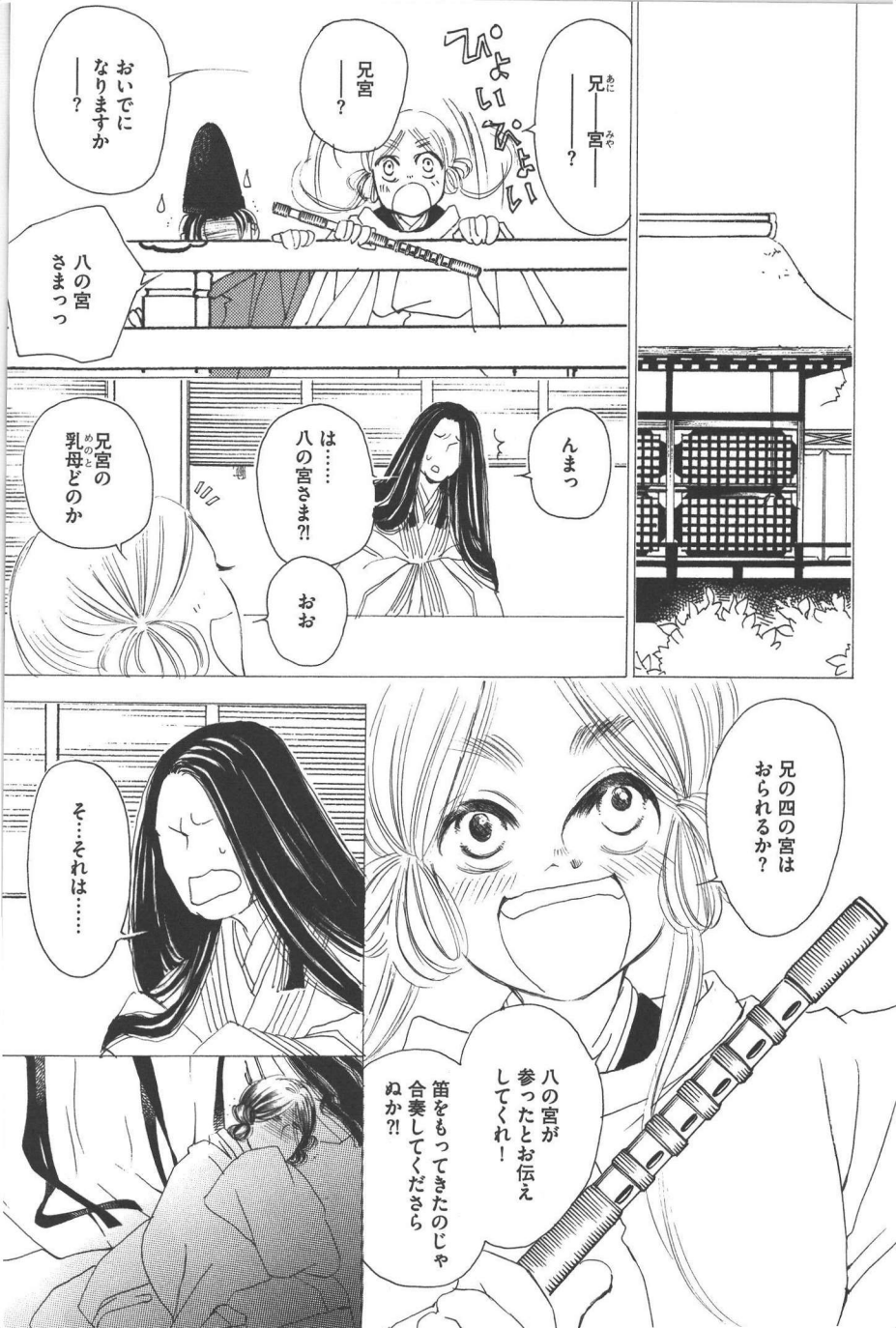

弘徽殿
ようこそ
おこしくださいました
主上
弘徽殿の女御
ごきげんは
いかがですか
女御
ふつうですわ
この女人もまだ
私のきさきなのだ……


ひとの身はどうにもならなくとも……
心だけは……愛だけは自由だと言ったのはかの宣旨の君であったか……
ゴホン
ゴホ、ゴホ
四の宮さましっかりなされませ！
お咳の音をたててはなりませぬ
乳母の君……
外に聞こえさせてはなりませぬ……!!
今上の親王さま方の中では四の宮さまが一番有利なお生まれです
しかしお体のお弱いことが外にもれれば
とても次代の帝……東宮には選ばれませぬぞ！


四の宮さま！
ぐうっ……
楽(がく)を……
四の宮さま?!
私が咳を
はじめたら
楽人に楽を
奏させてください
うんと
にぎやかに
私の咳の音が
外にもれぬように！
おお……！
すぐにも楽人に
申しつけましょう
私は健(すこ)やかに
楽しんでいるように
見せかけて下さい
皆のものも
お酒をふるまって
にぎやかにせよ！
早(はよ)う
楽を！
ゴボッ


兄君の
四の宮さまの
楽人のようですね
お お 何と
きらびやかな
さすが
兄宮(あにみや)
雅(みや)で
あられる


兄宮は学問も
たいそうよく
おできになるそうだ
ものすごく
頭が良いかた
らしいのだ！
八の宮さまも
ちょっとは学問も
楽のけいこもなさいませ
小弓や剣ばかりに
励しまれて……
ひとりで学んでいても
つまらぬわ！
皇子でなければ
お前の行く大学
とやらにも
ぜひ行きたいのに！
弓や剣ならば
お前をいじめて
やれるからな
伴周！
ひとと競う
ならば何でも
おもしろいのだが
うーむ
それだ！
では
兄宮さまに
お願いして
ごいっしょに
学ばれてみては？
よーし
行くぞ
伴周！
ぴ
いざ
兄宮の対へ！
いや
いや
ちょっと……
まずはお文を
遣わして……
宮～!!
ccc

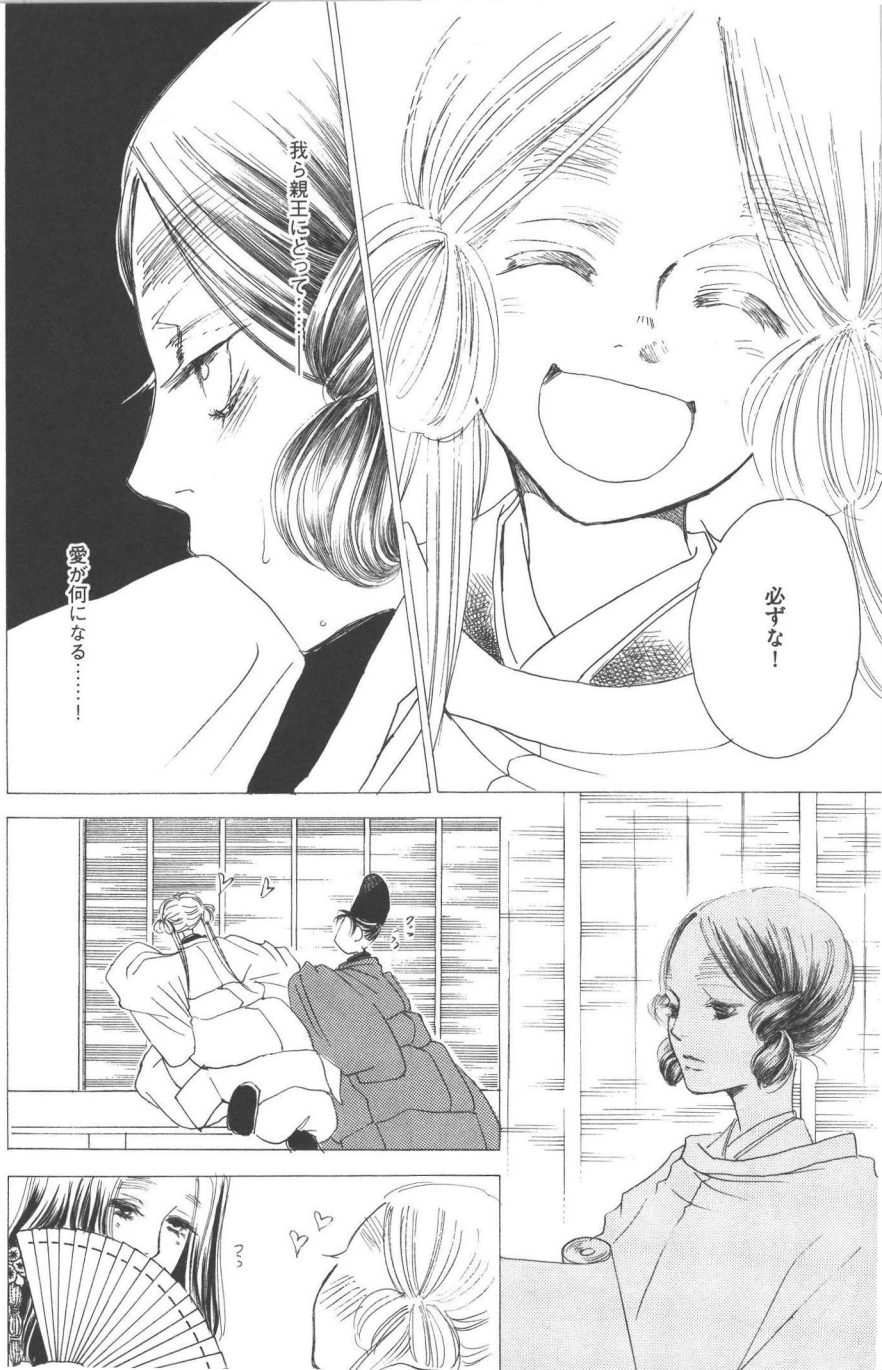

兄宮——？
ぴよいぴよい
兄宮——？
おいでになりますか——？
八の宮さまっ
んまっ
は……八の宮さま?!
おお
兄宮の乳母どのか
兄の四の宮はおられるか？
そ…それは……
八の宮が参ったとお伝えしてくれ！
笛をもってきたのじゃ合奏してくださらぬか?!

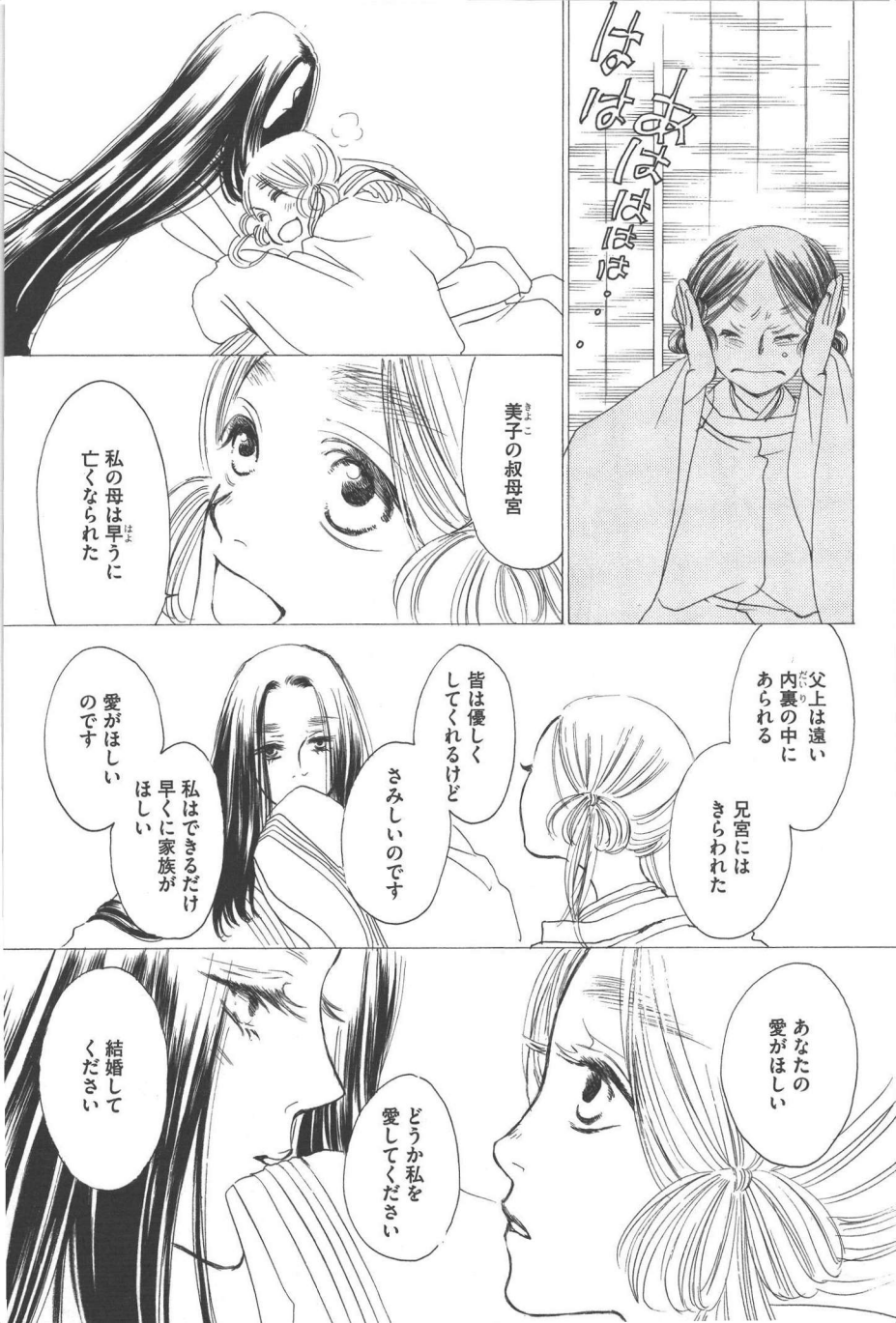

四の宮さまは
楽の間は誰とも
お会いになられませぬ
お引き取り
くだされませ!!
そもそも先触れも
お文もなくては
非常識です
八の宮さまも
親王さまの
ご身分にふさわしく
おふるまい
なされませ!
乳母…どの……


は……
大丈夫……
もう大丈夫ですぞ
四の宮さま
八の宮さまは
追い払ってさしあげ
ました
ゴホ
まったく乱暴な
弟宮(おとみや)ですな
！
ゴホゴホ
あのような方に
お負けになっては
なりませぬぞ！
ゴホ
八の宮さま
……
ずんずん
八の宮さま!!


兄宮は
いつもそうじゃ！
私がいくら
仲良くしていただき
たくても
いつもいつも私を
きらわれる!!!
八の宮……
ひどいお方
じゃ……!!
たったふたりの
同腹の兄弟
だというに……!!
八の宮
さま……
八の宮……
同腹の健やかな弟
もっとも東宮に……
帝位に近い親王のひとり

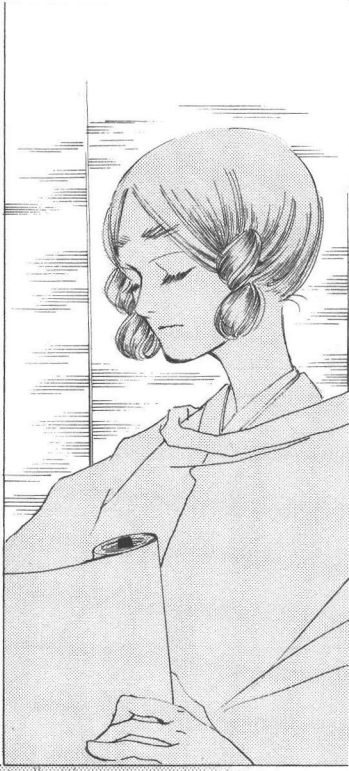

ぐい
ふん 兄宮なぞ
もう知らぬ
きらいじゃ!!
伴周よ
叔母宮のところ
へ参るぞ!
くるり
また美子(きよこ)の
姫宮に
ご迷惑を……?
迷惑と?!
私の求愛が迷惑か?!
ああ
ハイハイ
では今度こそ
お文をまず
書かれてですね……
美子の姫宮は
そのような冷たいことを
おっしゃらぬ!
私を本当に
いとしんでくださる
唯一のおかたじゃ!
それは叔母君
さまとしてのお優しい
情でいらして……
ふっふっ
それがいつか
恋となり愛となる
運命なのじゃ


我ら親王にとって……
愛が何になる……！
必ずな！
レレレ
ドドド
ドドド
ﾏﾏﾏ

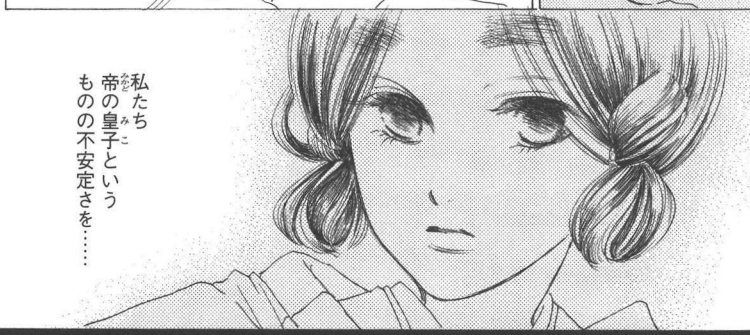

はは
はは
はは
美子の叔母宮
私の母は早うに亡くなられた
父上は遠い内裏の中にあられる
兄宮にはきらわれた
皆は優しくしてくれるけどさみしいのです
私はできるだけ早くに家族がほしい
愛がほしいのです
あなたの愛がほしい
どうか私を愛してください
結婚してください







八の宮……なぜ
そなたにはわからぬか



私たち
帝の皇子という
ものの不安定さを……

政のコマとして
使えぬ皇子に
存在価値はない

私たち兄弟の
母上の血すじは良いが
大貴族との
つながりは無い

つながるには
大貴族の女との
婚姻をもって
この京に地歩を
得るしかないのだ


愛などと……
言っていられる場合か……！
四の宮さまはご学問がよくお出来になりますな
ピク
これは権大納言さま
ああ
続けて
続けて
皇子さまがたのお顔を拝見できて望外の喜びです
しかしやはり四の宮さまはひときわ清らにすぐれていらっしゃる
天地を治める相とはこのような皇子を言うのでしょうな
右近の権大納言……
宮中一の謀略家
野心家だが宮中での地位はもう一歩

この男には
一人娘がいる……

たったひとりの娘を
コマとして最大限に活かすには

外戚のいない皇子を
帝におしあげて
娘を嫁がせ

その恩で娘を
中宮・皇后にし
孫を帝位につける
ことだろう？

これは
権大納言どの

私は特に
漢詩が好きです

あなたの自慢
のお子さん方も
お好きだとか

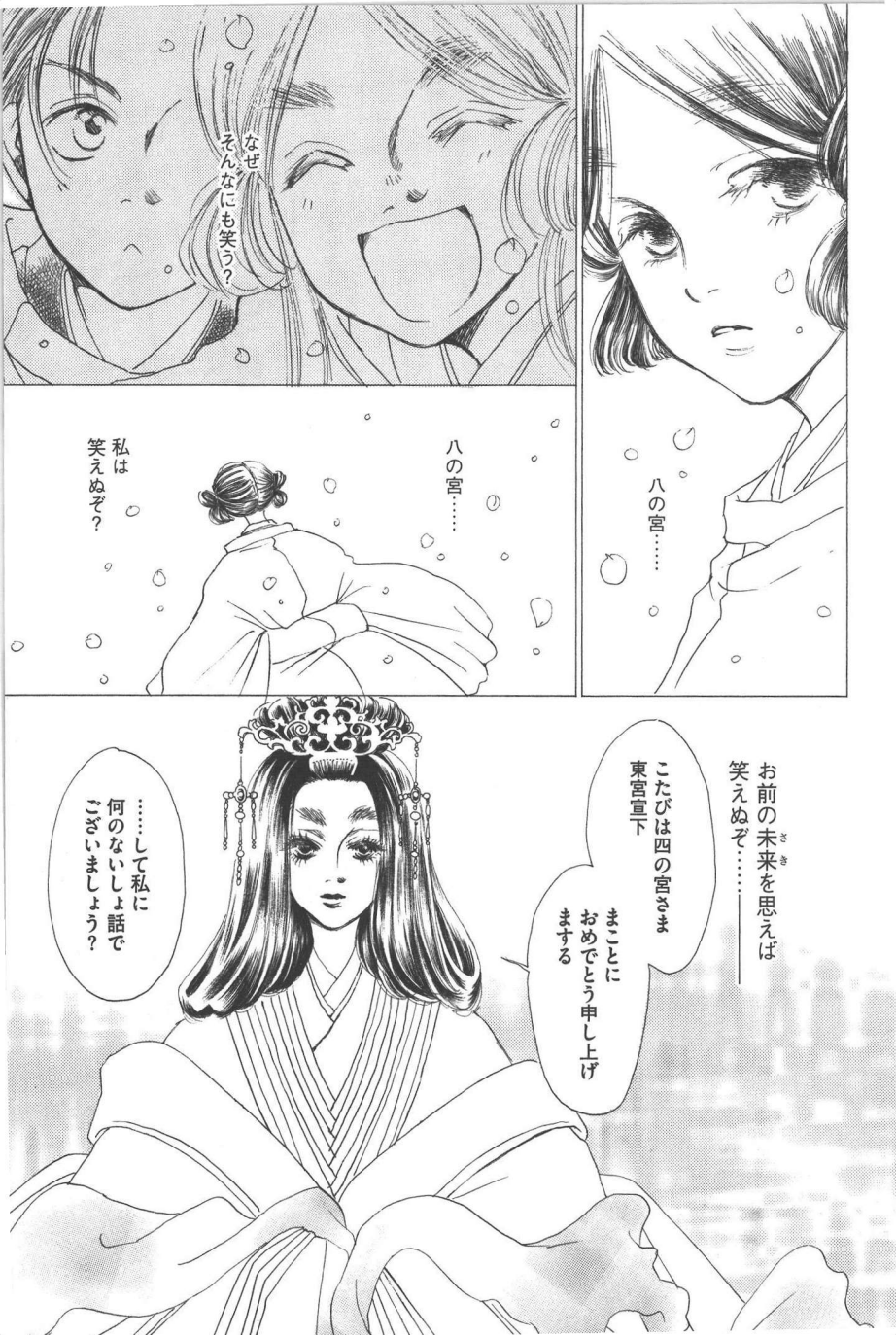
ぜひお話して
みたいものですが
いかがでしょうか？

子らにとっても
まことに光栄で
ございます

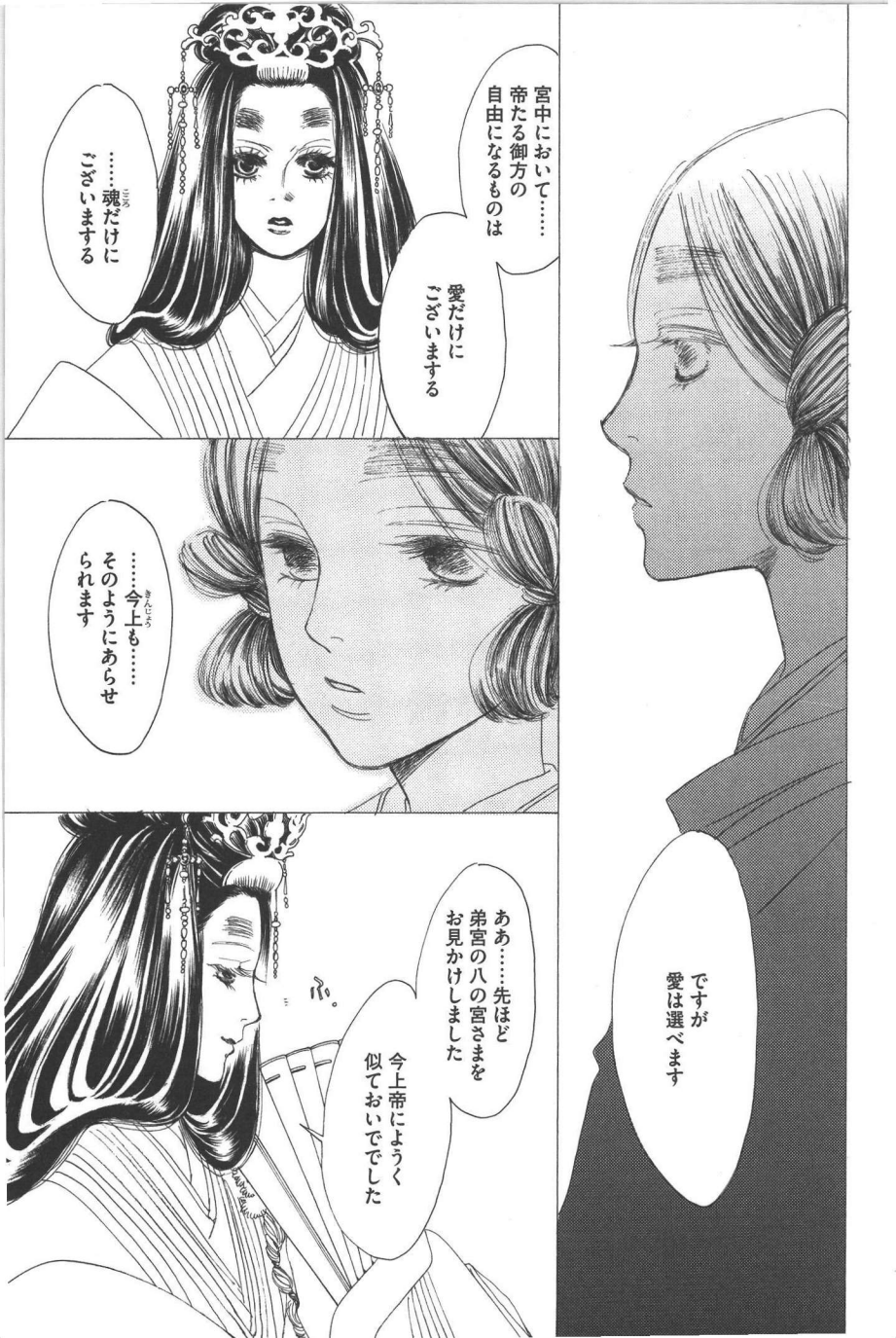
四の宮さま


この男が権力を握れば
ろくなことにはならぬ
だろうな
だが味方にすれば
この上ない保護者となろう……
敵に回せば
恐ろしい……
八の宮よ
お前と私は同じ
立場だぞ
美子の姫宮は
お前に優しかろうが
その姫は無力だ


その愛は何の役にも
立ちはせぬ……！
東宮宣下（とうぐうせんげ）——！


八の宮……
なぜ
そんなにも笑う？
八の宮……
私は
笑えぬぞ？
お前の未来を思えば
笑えぬぞ……
こたびは四の宮さま
東宮宣下
まことに
おめでとう申し上げ
まする
……して私に
何のないしょ話で
ございましょう？


すみません……
宣旨の方は父帝の
おそばづきと聞きました
私は父帝とは
ほとんどお話しした
ことがないのです
父帝は
どんな御方ですか
東宮とされた
私を……どんな風に
お思いでしょう?
在りし日の
母女御のことや
……
宮中のことを
聞かせて
下さいませんか
ゆくゆくは
帝位にのぼられる
東宮さまに……
うそを申しましても
御為になりませぬ
な
宮中とは……
鬼の跋扈する
世界
東宮さまの未来に
ありますのは
血ぬられた道で
ございます
私の思いまするに……
人間は親も選べぬ
子も選べぬ
生まれる地位も
場所も選べませぬ


ですが
愛は選べます
ああ……先ほど
弟宮の八の宮さまを
お見かけしました
今上帝にようく
似ておいでした
ふ。
……今上(きんじょう)も……
そのようにあらせ
られます
宮中において……
帝たる御方の
自由になるものは
愛だけに
ございまする
……魂(こころ)だけに
ございまする


どのような
境遇におかれても
愛を信じ魂に翼の
生(は)やせる御子(みこ)と
お見受けいたしました
……そうできぬ
……のはだめですか
私はそのような
愛など知り
ませぬ
知らぬものを……
どうしろと言うの
ですか！
知らぬことは
どうしようもない
欠損ですか
東宮たるに
ふさわしくない瑕(きず)
ですか……!!


だが勝ったのは私だ
東宮は私だ!!
お求めなさいませ
あまたの女人(にょにん)にあまたのひとに愛をお求めなさいませ
東宮宣下まことにおめでとう存じまする……


ゴホン。
主上


いや
一刻も早く
女御のお顔が
見たくて
急いたものだから
お具合
でも……？
まあ……
しかし女御の
ごきげんもお悪い
ようだから今日は
帰ります
では
つろ
女御さま……
……悪いひとでは
ないのだ
女御も……
誰よりも早く東宮妃として
入内し……しかしながら御子に
恵まれず
つらいことも
多かろう……
ぐっ。
権力者の女として
生まれたこの女人も……
魂だけは自由なのだから……


主上(うえ)?!
――時間が
時間がない


言うな……!!
――誰にも
しまった
この男は右大臣の
知られた――……しまった
弘徽殿に私の皇子のないまま私が死ねば
右大臣家の権力は瓦解する
私は……
わ……わかりました主上
ご安心下さい


不要な
人間になる
姉上……！
御簾(みす)の内(うち)に
失礼します！
夏政(なつまさ)?!
何と不作法(ぶさほう)な……
……主上(うえ)？

第六話

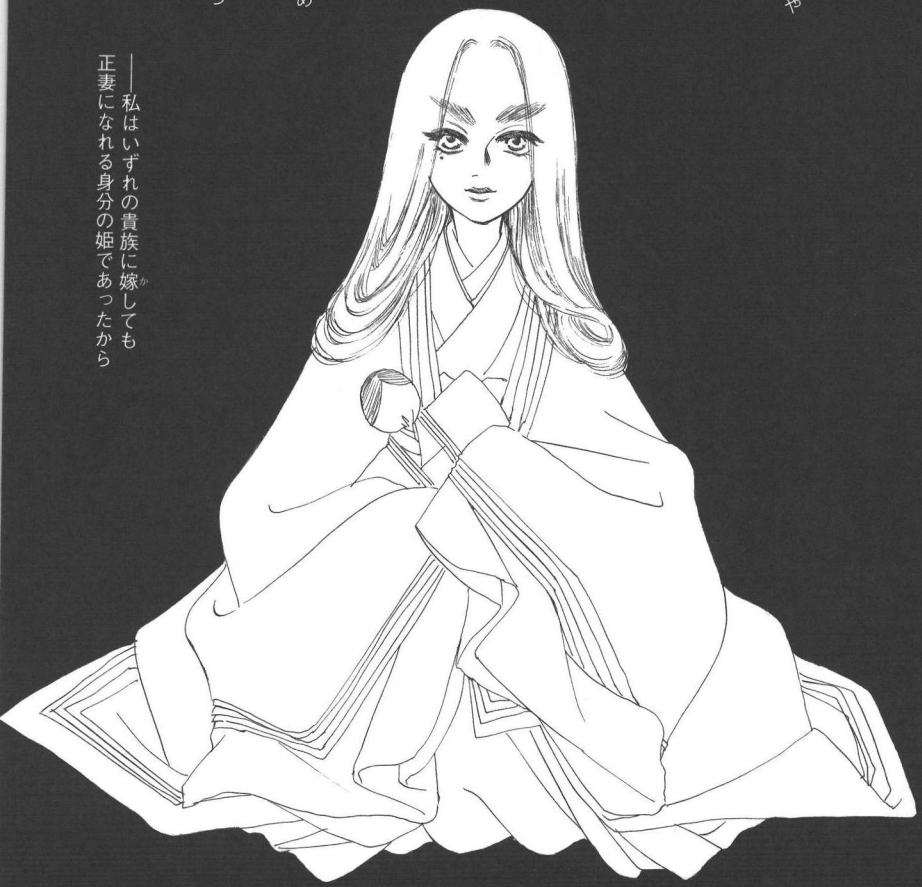
貴族の男は
正妻のほかにも数人の妻や
愛人をもつのが常である

我が父上にも
幾人かの女人(にょにん)がいたが

父は我が母である正妻の
北の方(かた)を熱愛していたため

私は男女の愛に疑問をもつ
ことはなかった

――私はいずれの貴族に嫁(か)しても
正妻になれる身分の姫であったから



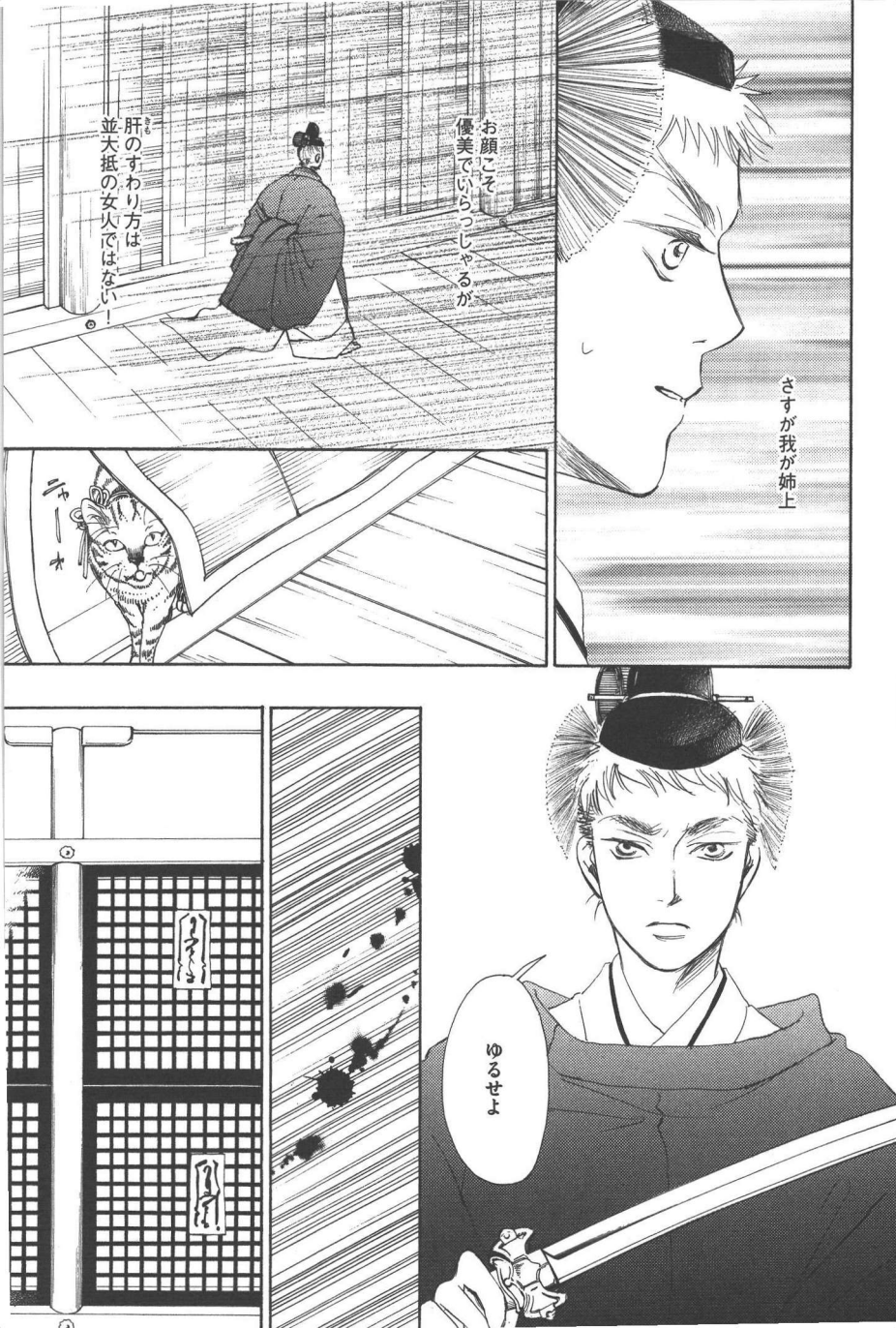

たとえ背の君に
あまたの愛人 側室がいたとしても
その誰よりも愛される
北の方になるのだと思っていた
それが幼い思い込みにすぎぬと
知ったのは今上帝に入内してから
であった
――もう遅かった
第六話

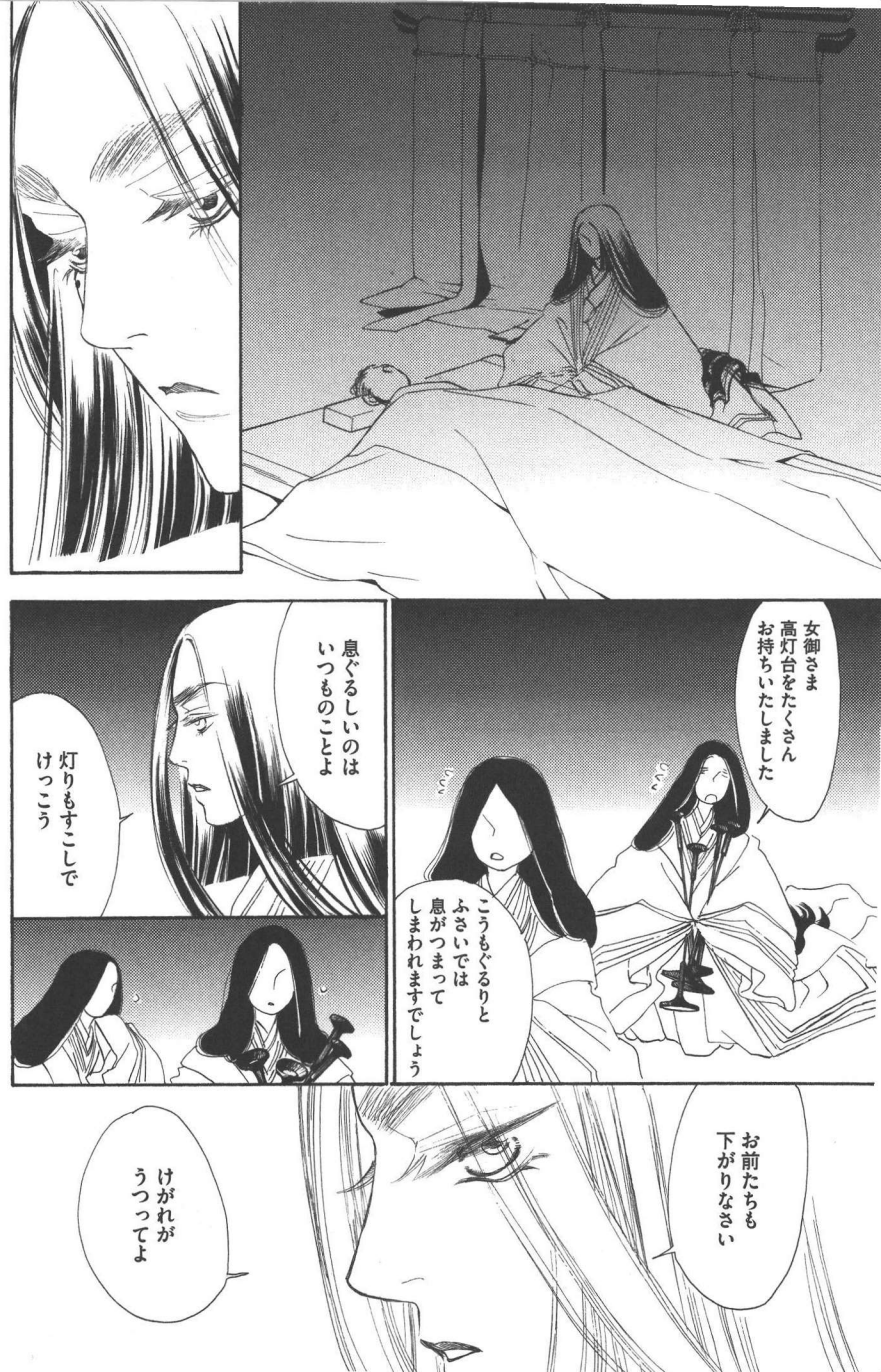

……帝がお倒れになったことは内密に
大きな障りがあったのだと言って……
誰もこの弘徽殿に近づけぬように


は…はい
女御さま
姉上……
姉上 このことは
父上には……
父上にはすぐにも
ご報告するべき
ゆゆしきことね
ご病弱な帝を
拝しては政権が
揺らぎますから
姉上……！
しかしそれでは
主上が……!!
お前に言われる
までもないっ！
夏政！


あの……
女御さま
水と布とを
お持ちいたしましたが……
女御さま
おんみずから
……！
小式部！
帝にふれてよい
身分地位のものが
他におりません
おまえは
外で見張りを
なさい
夏政！
犬の死体のひとつふたつ
渡り廊下にころがして
おいでなさい
おそろしいけがれに
あわれた主上は
弘徽殿にて物忌みに
入られたのです

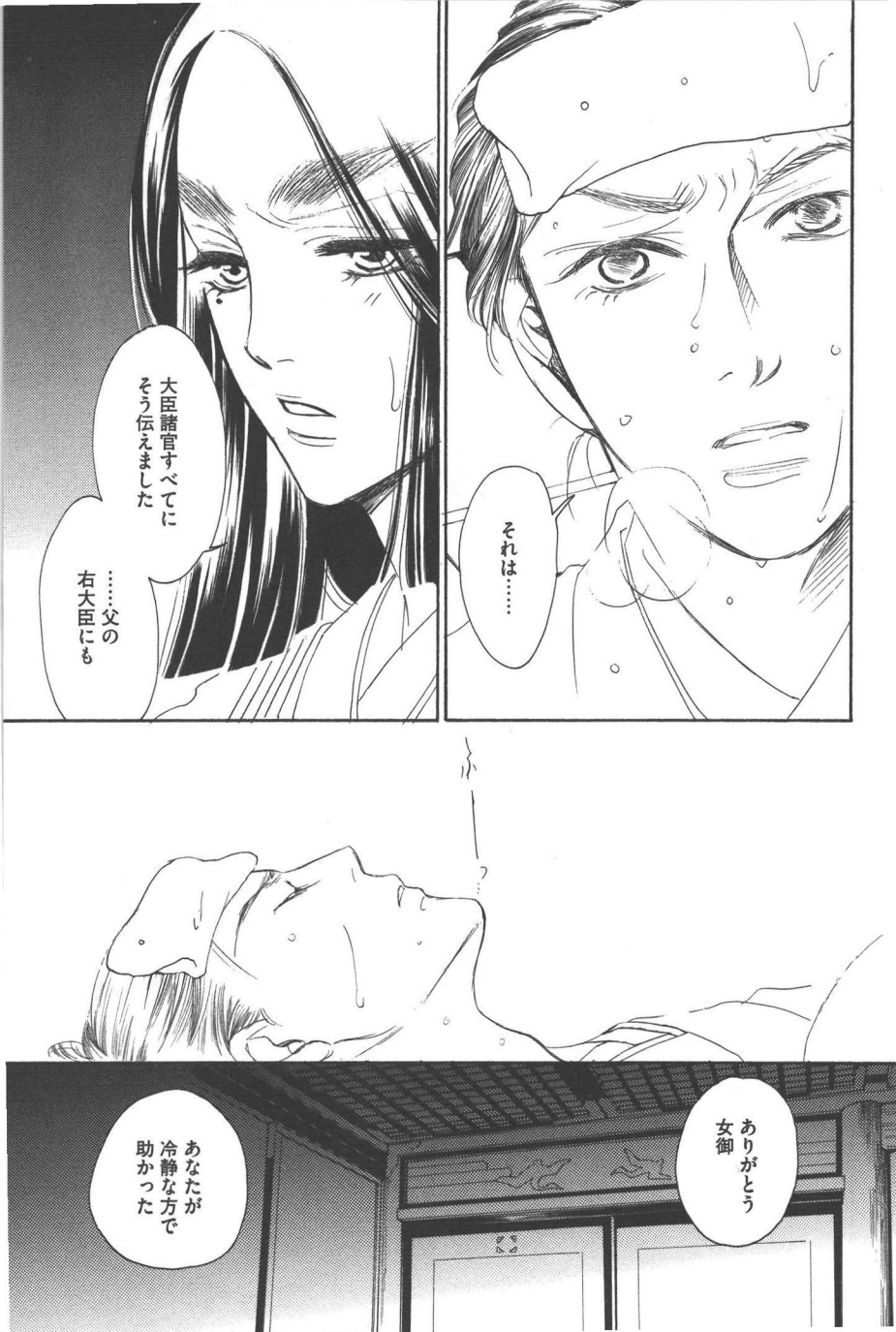

どんな公卿や
大臣にも……右大臣(ちうえ)にも
そう言うのですよ
承知いたし
ました！
ぽろ。。
姉上……


さすが我が姉上
お顔こそ優美でいらっしゃるが
肝のすわり方は並大抵の女人ではない！
ニャーオ
ゆるせよ


女御さま
高灯台をたくさん
お持ちいたしました
こうもぐるりと
ふさいでは
息がつまって
しまわれますでしょう
息ぐるしいのは
いつものことよ
灯りもすこしで
けっこう
お前たちも
下がりなさい
けがれが
うつってよ


……いやだわ
翁のように
まゆをよせていらして
まるでこの世の
苦しみをすべて背負
われたようなお顔……
苦しいのはご自分だけ
とでもお思いなのかしら
……夏政の置いた
犬の死体が見つかったのね
かわいそうに
私もかの草子のように
犬には魂があると
思っているのだけれど
父 右大臣にかかれば
邪魔者は殺される
私のように
魂を殺されるものもいる
何も特別な
ことではないのよ


かわいそうに……
この御殿にいたばかりに
本当に
かわいそうに
この内裏に
いるばかりに……
……
女御？
主上！
ここ…は……
私は……
どうなったのだ？
渡り廊下で
けがれに触れられて
お気を失われたのです
とりいそぎ
この弘徽殿にて
物忌みに入られると
申し伝えました


それは……
大臣諸官すべてに
そう伝えました
……父の
右大臣にも
ふ――っ
ありがとう
女御
あなたが
冷静な方で
助かった

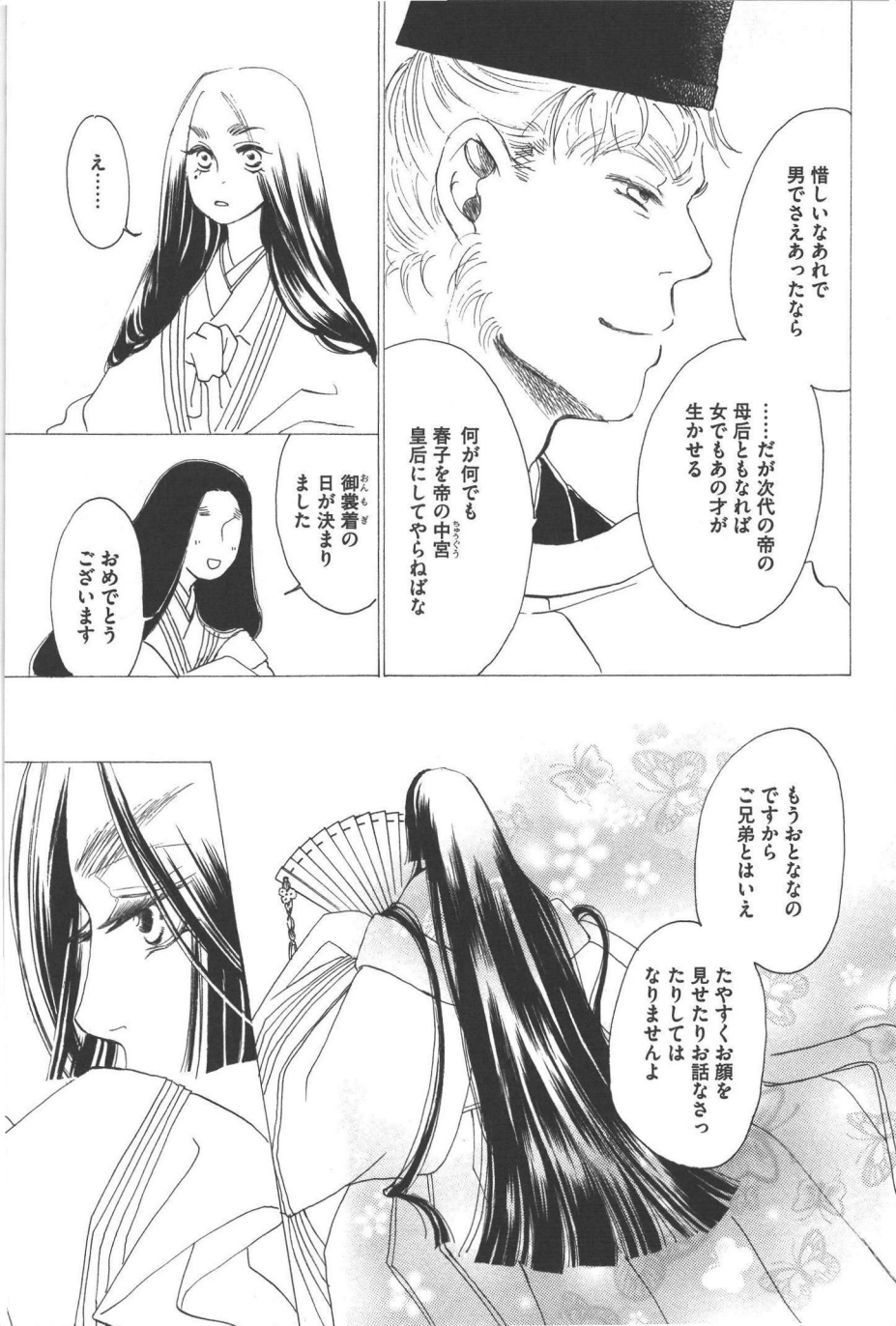

な 夏政(なつまさ)が
そう望んだからです
私は……
そんな……
夏政……
頭中将(とうのちゅうじょう)が
……？
……少しばかり
眠ってもよいだろう
か……
とてもだるくて
息が苦しい……
女房に
うそをつかせて
お薬を参らせ
ます
どんな風に
お苦しいのか
おおせくださいませ
私の乳母(めのと)であった
女房が薬を
もっている


……いつから……
ですの……
……東宮(とうぐう)になる前からだ
死に至る病(やまい)だと
あなたには恨まれるだろうね女御
あなたの輝かしい人生を……
私がだいなしにした
でも魂だけは自由なのだよ
あなたは私を恨んでよいのだ


今上帝のもとに
入内したのは
14の初夏
今上帝は11歳で
いらして東宮の
宣旨を受けたばかり
東宮が誰であろうと
私は東宮妃となる
ことが決まっていた
摂関家の血を引く
姫としてはしごく
当たり前のことではあった
春子さま
お美しゅう
ございますよ
あこめのほうが
動きやすいわね
乳母や
あこめは子供の
着るもので
ございますよ
もうすぐご入内なさる
のですからうんと
おとなになさらないと

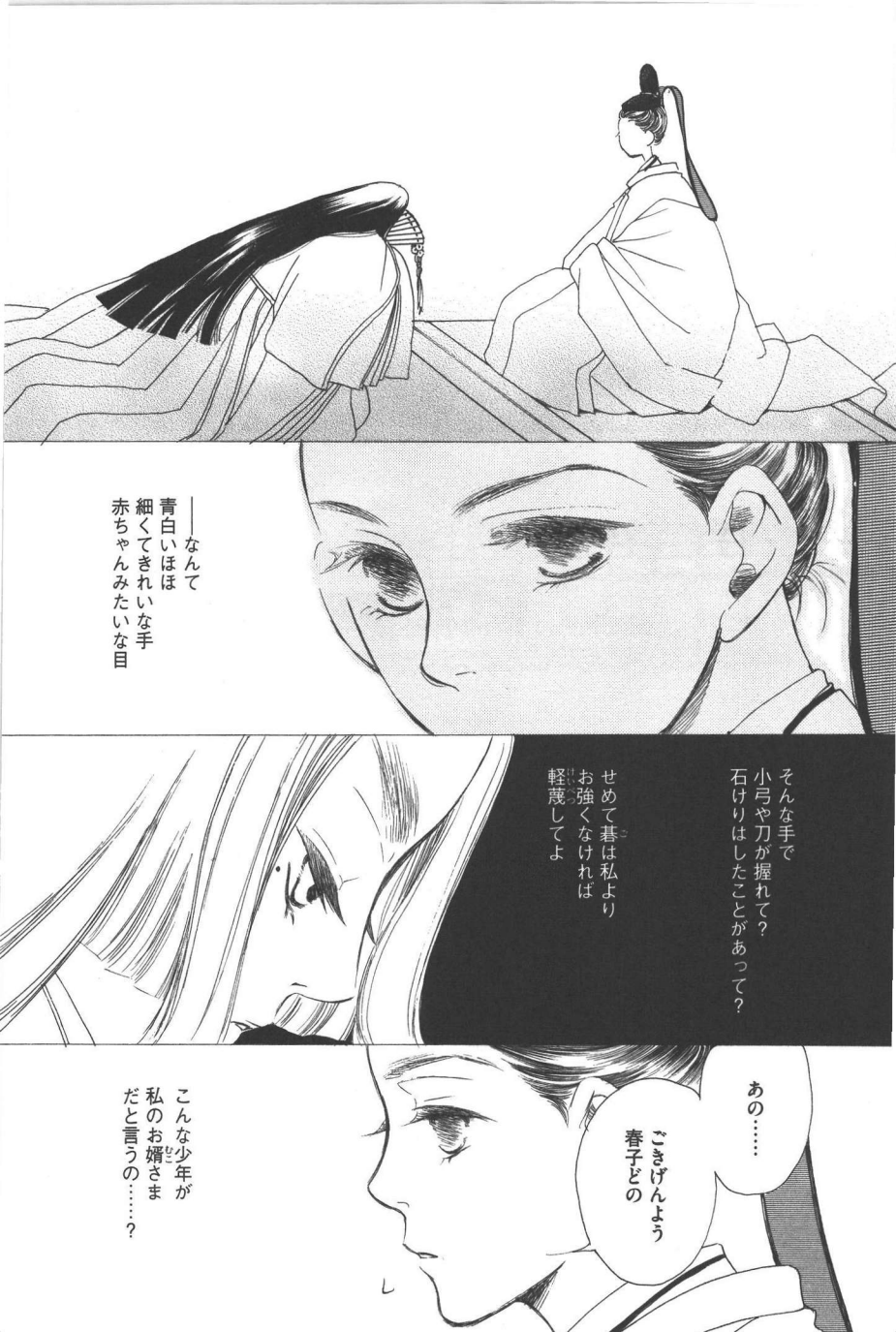

お父君の選ばれた
ご衣装が
お気に召しませんか？
……はでで
悪趣味ね
ぱっ
それに
重たくって
息がつまりそう
ひっ
姫さま……！
夏政（なつまさ）！
秋人（あきひと）！
純冬（すみふゆ）！
姉上！
ぱたぱた
あね
うえ――

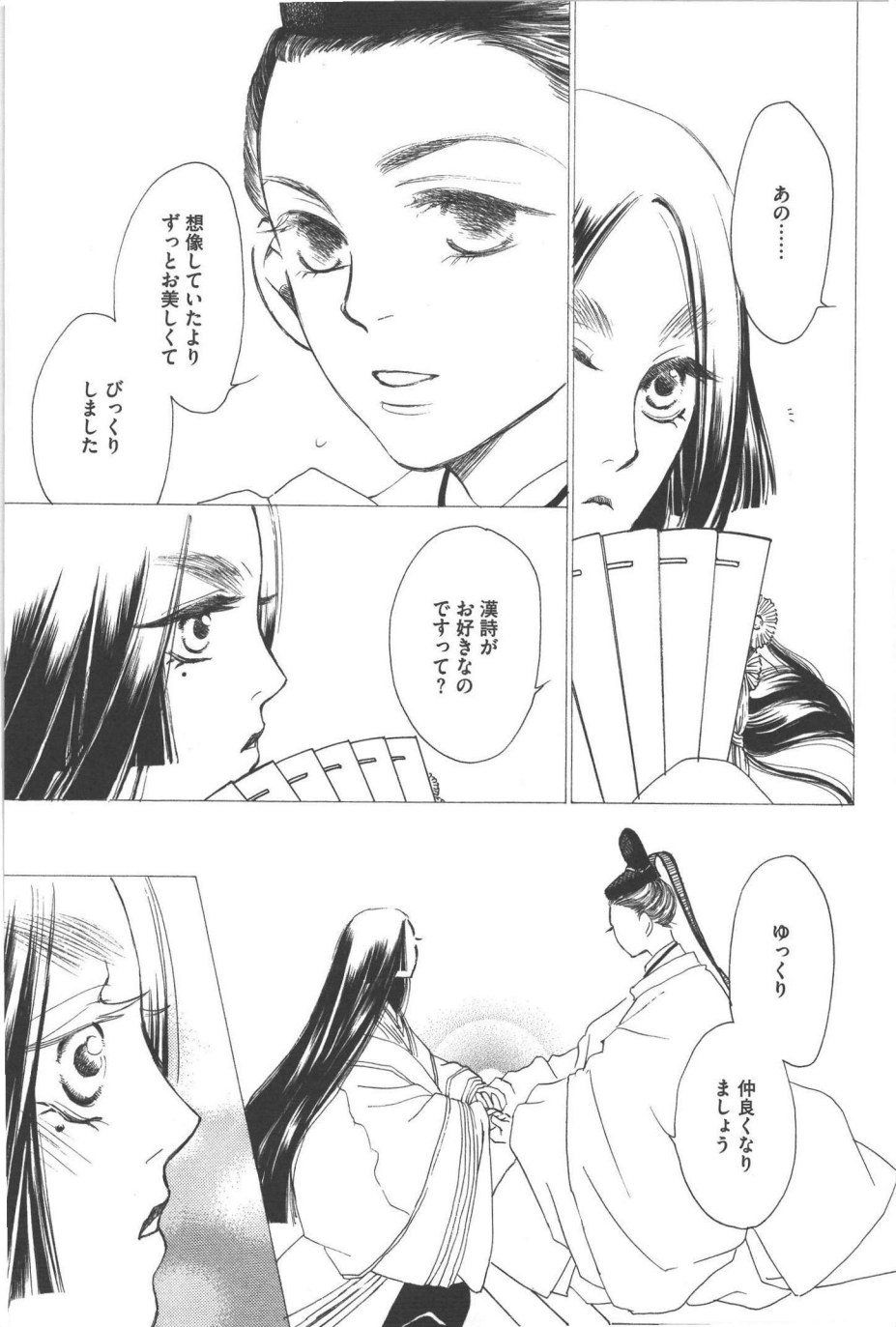

ほら
これが我が国よ広いでしょう
丸で囲んだところがうちの荘園
棒は地方官僚の受領のいるところ
ガリガリ
石けりをして受領に当たったらその国をあげるわ
うちの荘園に石が入ったら蹴る回数がふえるのよ
上国は10点
中国は5点
下国は1点よ
姉上――上国って？
税がたくさん取れるところよさあ誰がいちばんかしら？
ヤッヤッヤッ
殿……お叱りあそばして下さいませ
ふむ我が姫ながら面白い


惜しいなあれで
男でさえあったなら
……だが次代の帝の
母后ともなれば
女でもあの才が
生かせる
何が何でも
春子を帝の中宮
皇后にしてやらねばな
え……
御裳着の
日が決まり
ました
おめでとう
ございます
もうおとなの
ですから
ご兄弟とはいえ
たやすくお顔を
見せたりお話なさっ
たりしては
なりませんよ


姫！
裳着もすんで
いよいよ東宮
への入内じゃな！
我が自慢の姫ゆえ
心配もしておらんが
姫は東宮に
こびる必要は
ないぞ
後ろ盾のない東宮
さまは父上が頼りで
いらっしゃるものね
そうよ！
その恩でいずれは
俺も大臣にしていただく
姫もゆくゆくは
中宮皇后にも
していただくさ
この父の力で
姫を雲の上の
女人にもして
みせようぞ！
父上
……姫のいまの
気分は
その雲の上から
父上のお顔を
ふみつけにして
さしあげたいくらいよ！


その意気じゃ
姫！
はよ
はよ
東宮さま
権大納言（ごんだいなごん）どの
の姫ぎみ
春子どのです


——なんて
青白いほほ
細くてきれいな手
赤ちゃんみたいな目
そんな手で
小弓や刀が握れて？
石けりはしたことがあって？
せめて碁は私より
お強くなければ
軽蔑してよ
あの……
ごきげんよう
春子どの
こんな少年が
私のお婿さま
だと言うの……？


あの……
想像していたより
ずっとお美しくて
びっくり
しました
漢詩が
お好きなの
ですって？
ゆっくり
仲良くなり
ましょう

恥ずかしそうに
お笑いになるのは
悪くないわ

物語の殿方のように
私を奪ったりは
して下さらないでしょうけれど

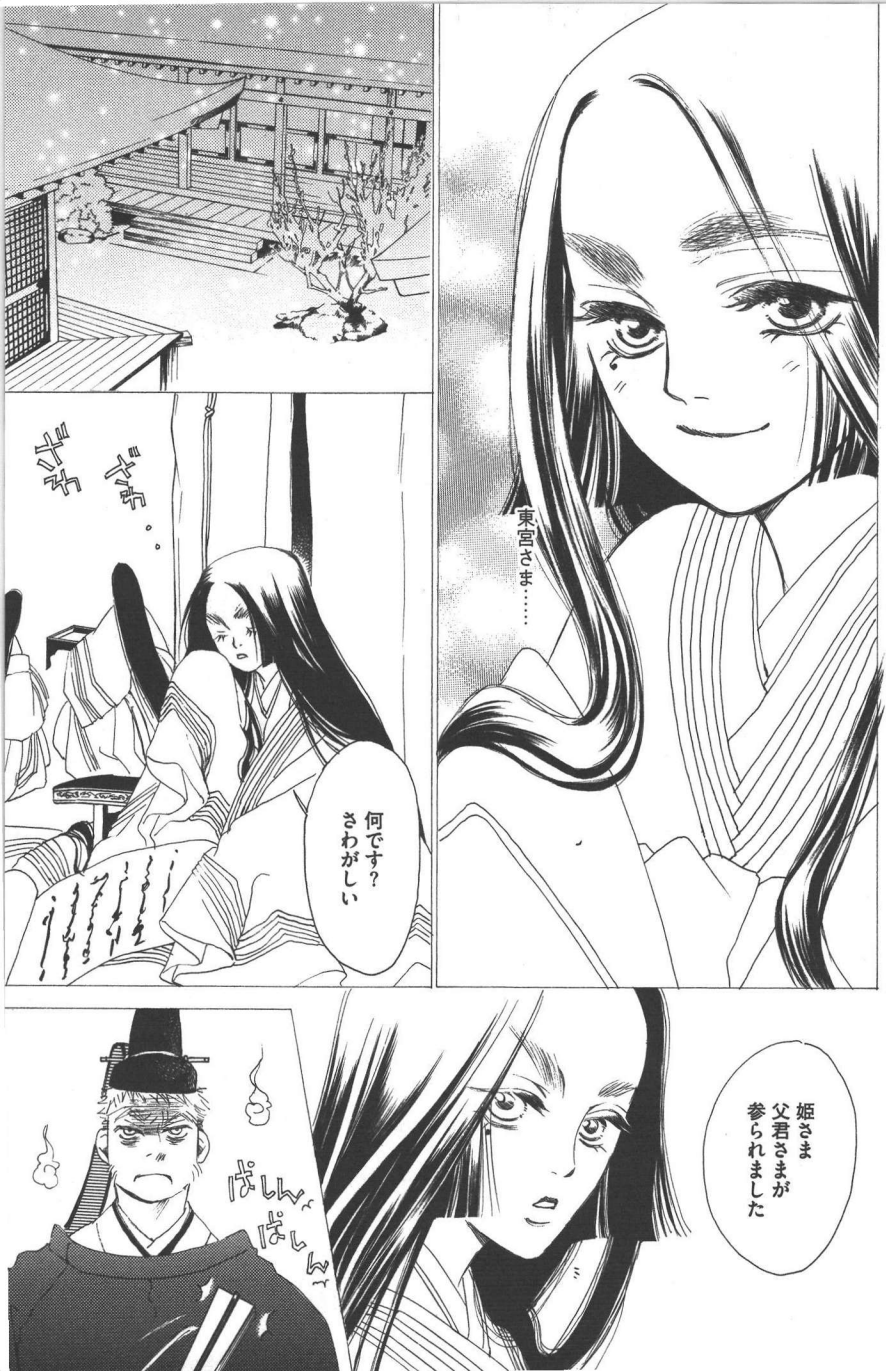
こういう控えめな
求愛も悪くないわ

何と言っても
未来の帝が
私の気を惹(ひ)こうと
懸命(けんめい)なのですもの

どんな
わがままを言っても
苦笑ですませて下さる

どんな
無茶を言っても
乱暴をしても

そこがかわいいと
おっしゃる

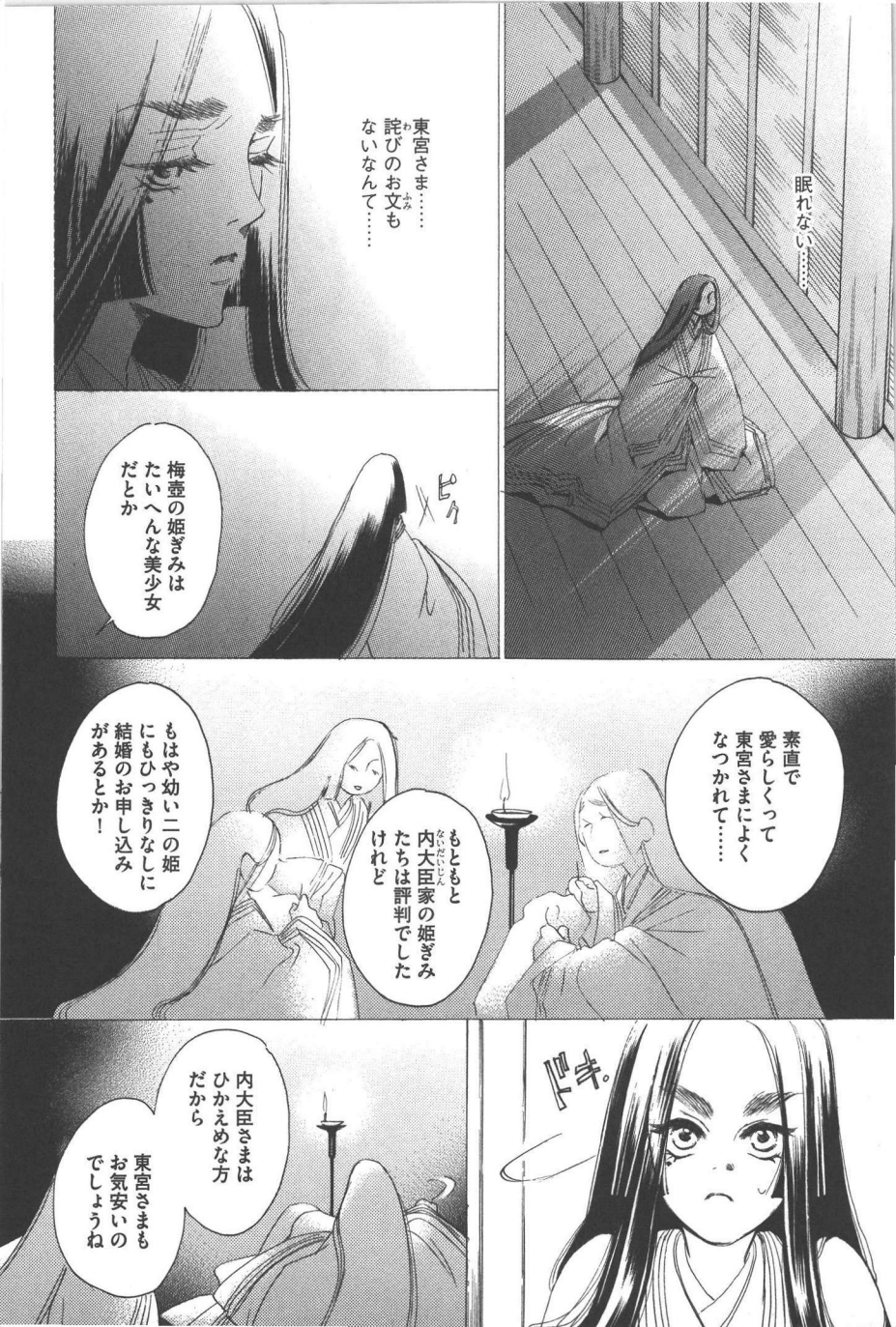

東宮さま……
ざわ
ざわ。。
何です？
さわがしい
姫さま
父君さまが
参られました
ばしん
ばしん

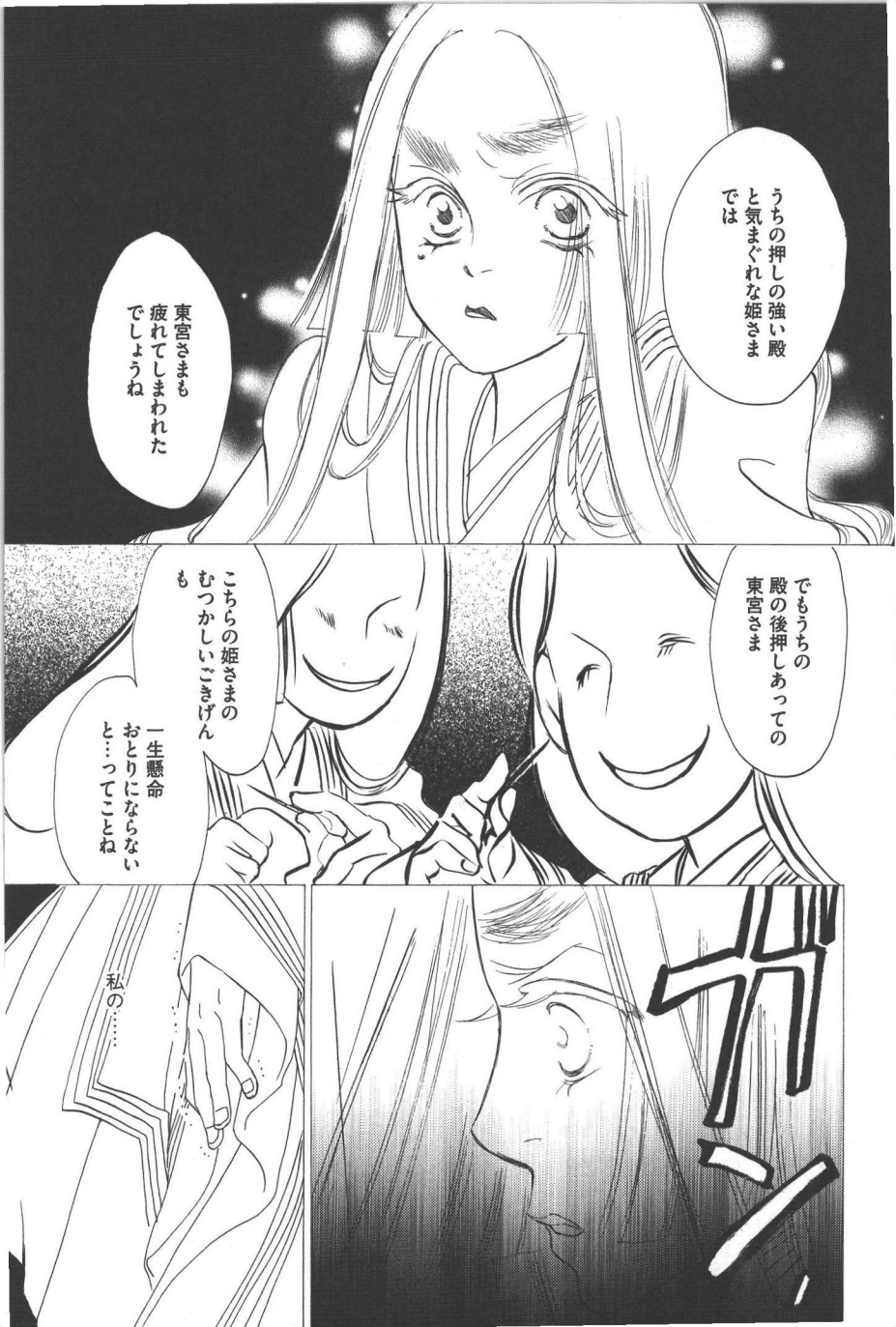

東宮さまに
他の姫ぎみが……！
ボリボリ
ああまだ子供と
思って油断していた
三条の内大臣が
まだ九つの一の姫を
入内させたのだ
殿舎は
梅壺だと！
梅壺……
格式のある御殿だ
浅からぬお取り扱い
なのだろう…
姫！
案ずるな
何といっても
格式では
弘徽殿だ！
東宮の
一の妃は
お前だ！
はい


姫さま
東宮さま
お渡りでございます
さあ
何と
言い訳なさるの？
うんと
言い訳なさればいい
うんと焦らして
困らせてさしあげるわ
必死に乞うてくだされば
ゆるしてさしあげない
こともなくてよ
梅壺は
私よりずっと
美しくないと
おっしゃって！
まだまだ子供で
相手をするのに
くたびれた……とか
おっしゃって……！


何か
何か言って
何も言えないの?!
ばしっ
ひっ……
姫さま
失礼を
いたしました
姫さまは少し
風邪の気味に
あそばして……
あ
いいえ……
あの……
大宰府が番の
唐猫をよこしたのです
こねこはあなたも
お好きなのでは
ないでしょうか
もしよろしければ
こねこを一匹……


ばば
私はそういった
子供っぽいものは
好きませんの
どこかの方に
さしあげては
いかが?!
あなた〝も〟……?
梅壺は
こねこを喜んだの
おあいにくね
私は大っきらいよ
好きでもないのに
愛してもいないのに
なぜこんなにも
屈辱的な思いを
させられないと
いけないの……?!


眠れない……
東宮さま……
詫びのお文も
ないなんて……
ピク
梅壺の姫ぎみは
たいへんな美少女
だとか
素直で
愛らしくって
東宮さまによく
なつかれて……
もともと
内大臣家の姫ぎみ
たちは評判でした
けれど
もはや幼い二の姫
にもひっきりなしに
結婚のお申し込み
があるとか！
ドキ。
内大臣さまは
ひかえめな方
だから
東宮さまも
お気安いの
でしょうね


うちの押しの強い殿と気まぐれな姫さまでは
東宮さまも疲れてしまわれたでしょうね
でもうちの殿の後押しあっての東宮さま
こちらの姫さまのむつかしいごきげんも
一生懸命おとりになら ないと…ってことね
ガン
私の……


私の方こそ
愛されていなかったのか……
「姫」


この方のもとに入内し…
東宮妃やがては
女御となって
もう
十……幾年に
なるかしら
死んでしまわれると
言うの……？
そんなお言葉だけ
残して……？
本当に
女の心のわからない方

憎んでいる男に
憎んでよいと言われて

女の胸が晴れるとでも
思って……？

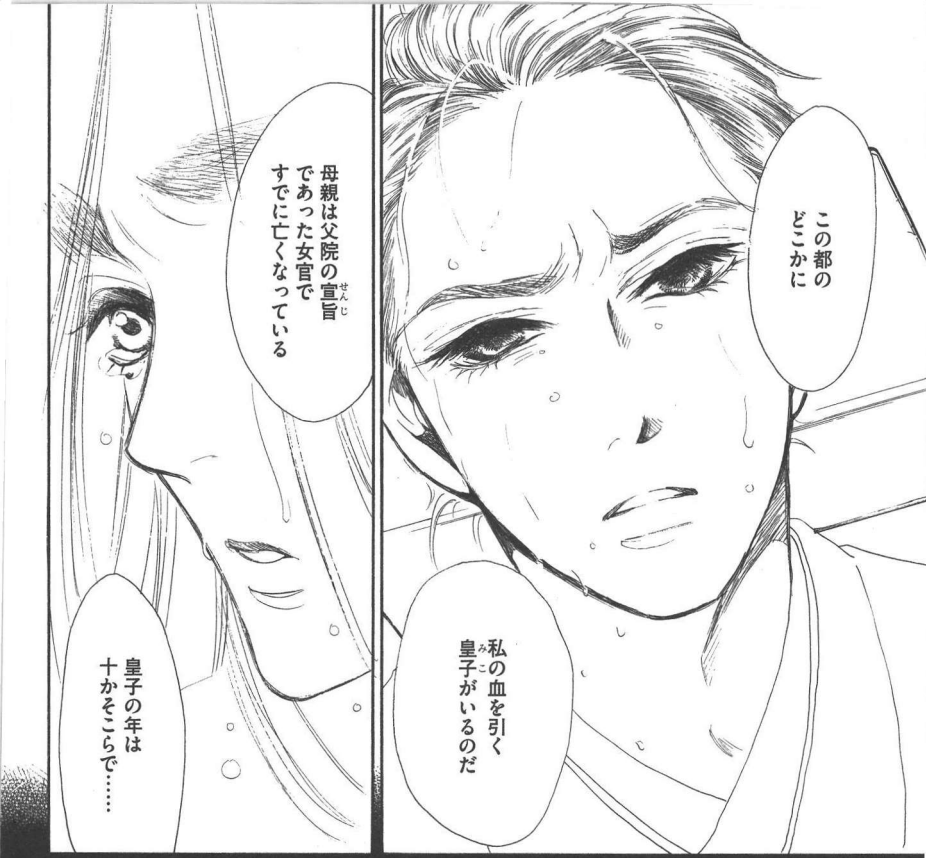
這いつくばって詫びて

うんと言い訳をしてほしい
見苦しく浅ましく

そうして下されば
この息苦しさが

あなたを軽蔑する
ことで
晴れるかもしれないのに


弘徽殿(こきでん)……
泣かないで
誰よりも賢い
あなたに……
お願いがあるのだ
院にも大臣にも
梅壺にも……
誰にも言えぬ
う――っ……
くう……っ
ううっ……
――っ……



どうか

皇子をあなたに託したい

なんて方なの

心底

あなたを憎むわ

第2巻につづく

あとがき



ホームページ「兎鳥の図書館」　http://www6.plala.or.jp/USA/birds/
メールアドレス　gin_tori@dragon.plala.or.jp　(2009.05現在)

いつもウィングス・コミックスを
ご愛読いただきありがとうございます。
今回の作品はいかがでしたか？
ぜひ、感想をお寄せください。

■　■　■

ファンレターのあてさき
〒113-0024 東京都文京区西片2-19-18
新書館　ウィングス編集部気付
吟 鳥子先生

【……初出……】
いづれの御時にか～隠れ鬼の恋～――― *Wings '07年12月号*
いづれの御時にか――― *Wings '08年6、8、11月号、'09年1～3月号*

◎作品はすべてフィクションです。実在の人物、団体、事件などにはいっさい関係ありません。



9784403619359

ISBN978-4-403-61935-9
C0979 ¥562E

新書館
定価：本体562円＋税

1920979005624

